

多目的屋内施設の基本計画策定に向けた基礎調査

報告書

令和3年3月

豊橋市

目次

第1章 多目的屋内施設の基本計画策定に向けた基礎調査について	6
1. 背景	6
2. 検討の経緯	7
3. 本書の目的	7
第2章 現状及び実態把握	8
1. 関連施設の利用状況等の実態把握	8
(1) 各スポーツ施設の諸元	8
(2) 各文化施設の諸元	9
(3) スポーツ施設における利用状況等の実態把握	10
(4) 文化施設における利用状況等の実態把握	27
(5) プロスポーツなどの試合や興行・イベントの開催実績	35
2. 豊橋公園の立地環境及び法規制	38
(1) 豊橋公園及び周辺地域の概要	38
(2) 豊橋公園における用途等	39
(3) 豊橋公園内の建築物に関する整理	42
(4) 多目的屋内施設の整備に係る法規制と対応方針	44
3. 防災への対応	45
(1) 豊橋公園の防災機能と各施設の役割	45
(2) 豊橋公園の防災施設	45
(3) 都市公園で導入が検討される防災関連公園施設等	46
(4) スポーツ施設における災害時の活用事例	46
(5) スポーツ施設における防災機能の導入事例	47
4. 新しい生活様式への対応	48
(1) プロスポーツ等の催物における出来事	48
(2) 国の動向	49
(3) 他事例の動向	51
5. 利用者ニーズの把握	52
(1) 意向調査（アンケート調査）	52
(2) 豊橋市体育協会の加盟団体（協会）のアンケート調査結果	53
(3) 協会に所属しているクラブチームのアンケート調査結果	69
(4) イベント等の主催を行っている団体のアンケート調査結果	77
(5) クロス集計による分析	80

第3章 施設整備に向けた基本コンセプト	81
1. 基本コンセプトの検討プロセス	81
(1) 検討プロセスの基本的な考え方	81
(2) 基本コンセプトの検討の考え方	82
2. 関連計画等の把握・整理	83
(1) 本調査の位置づけ	83
(2) 関連計画等の概念や施策の整理	84
3. 基本コンセプトの検討	85
(1) 基本コンセプトの検討の流れ	85
(2) 現状及び課題・考察と求められる役割	86
(3) 基本コンセプト	93
第4章 施設規模・機能の検討	94
1. 複合化・集約化の検討	94
(1) 複合化・集約化の検討の考え方	94
(2) 集約等対象施設の選定方法	95
(3) 集約等対象施設の評価	96
(4) 集約等対象施設の選定	98
(5) 整備方針の例示	100
(6) 定量的試算と結果	101
2. フロアサイズ及び観客席数の検討	103
(1) フロアサイズの検討	103
(2) 観客席数の検討	115
3. 想定施設規模・機能の検討	121
(1) 必要な機能・諸室の抽出	121
(2) 必要な諸室の機能及び仕様	122
(3) 主要諸室の想定床面積	125
(4) 機能図の作成	126
(5) 階層別のレイアウト図	127
(6) 断面イメージ	130
4. 概算工事費の算出	131
(1) 他都市の事例	131
(2) 概算工事費の内訳	132
5. Bリーグライセンスの施設基準	133
(1) 施設基準との比較整理	133
(2) 不足する機能とそれに伴う施設整備費用の算出	133

6.	民間資金の活用	134
(1)	優先的検討規定について	134
(2)	PPP事業方式・スキームについて	135
(3)	都市公園内への収益施設の設置や管理手法について	139
第5章 周辺交通環境への影響分析		141
1.	交通実態調査の計画	141
(1)	調査の目的	141
(2)	交通実態調査項目の選定	141
(3)	交通実態調査箇所の抽出	141
2.	交通実態調査	142
(1)	調査概要	142
(2)	調査結果概要	142
(3)	調査結果	144
3.	交差点解析	148
(1)	解析方法	148
(2)	対象時間	149
(3)	現況交通量に対する交差点解析ケース	150
(4)	興行等（主にBリーグ）の開催を想定した交差点解析	159
4.	課題と対応策の整理	165
(1)	現況交通量に対する交差点解析結果	165
(2)	興行等（主にBリーグ）の開催を想定した交差点解析	166
(3)	混雑を緩和するための信号サイクルの変更による対応	167
(4)	その他混雑を緩和するための対応策	168
(5)	災害時の対応策	168
(6)	まとめ	168
第6章 豊橋公園の整備内容・範囲の検討		169
1.	整備内容と範囲の検討	169
(1)	多目的屋内施設の整備範囲	169
(2)	整備内容	170
(3)	事業範囲	171
2.	配置検討	172
3.	配置図の作成	174

第7章 整備の方向性	177
1. 多目的屋内施設の規模・機能について	177
(1) 複合化・集約化について	177
(2) フロアサイズについて	177
(3) 観客席数について	177
(4) 想定する施設規模・機能について	178
(5) 防災への対応について	178
(6) 新しい生活様式への対応について	178
2. 豊橋公園の整備について	179
3. 事業手法について	179
4. 財源について	179
5. 民間資金の活用について	183
6. 維持管理について	183
7. 建設までの流れについて	184

参考資料

資料1. 関連法令・条例の概要	186
資料2. 意向調査（アンケート調査票）	192

第1章 多目的屋内施設の基本計画策定に向けた基礎調査について

1. 背景

豊橋市（以下、「本市」という。）では、平成23年4月から10年間にわたり「豊橋市生涯スポーツ推進計画」のもと、市民一人ひとりが生涯にわたりスポーツを楽しむことができるよう取り組みを進めてきました。この間、スポーツ振興法の50年ぶりとなる全面改正としてスポーツ基本法が平成23年8月に施行されたこと、健康志向といった住民ニーズが高まっていることなど、スポーツを取り巻く環境の変化は少なくありません。また、今後においても、スポーツの経済的側面への期待、生涯活躍社会・人生100年時代の到来、情報通信技術（ICT）の革新、ウィズコロナ・ポストコロナによる新しい生活様式など、社会の構造も大きな変革期に差し掛かっています。

こうした中、昭和40年代以降、多様化する市民ニーズに対応するために一斉に整備してきた本市の多くの公共施設が更新時期を迎えています。少子高齢化や厳しい財政状況の中、未来を担う子どもたちの負担を増加させないよう、公共施設の統廃合などの取り組みを着実かつ早急に進めていく必要があります。平成28年度には、「住みやすいまち」「災害に強いまち」を目指して公共施設等の最適化を図ることで、人口減少に対応し、将来の負担軽減による安定した財政運営、時代に応じた適正かつ安全・安心な公共施設等の提供及び維持可能なまちづくりに寄与するため、「豊橋市公共施設等総合管理方針」を策定しました。令和2年度においても、第6次豊橋市総合計画をはじめとした様々な計画の策定期となっており、本市のまちづくりの方向性が指し示される中、将来を見据え限られた経営資源を的確に配分する財政運営を求められている状況にあります。

本市のスポーツ環境においては、平成28年度に男子プロバスケットボールリーグ「B.LEAGUE」の最高峰であるB1に所属する「三遠ネオフェニックス」が豊橋市総合体育館（以下、「総合体育館」という。）をホームアリーナとし試合が開催されるなど、新しい要素が加わり、スポーツを観て楽しむ機会が増えています。

その一方で、三遠ネオフェニックスが総合体育館をホームアリーナとしたことで、利用の過密化が以前にも増している状況にあります。

また、総合体育館は建設後約30年が経過し、老朽化が進んでいることから大規模改修等を行う必要性が生じていることや、本市の縁辺部に位置しているため、三遠ネオフェニックスのホームゲームの来場者による経済効果を十分に享受できていない状況になっています。

2. 検討の経緯

本市では、平成 28 年度より B 1 リーグ基準である 5,000 人を収容可能な多目的屋内施設整備の検討を開始し、市民負担を最小限に抑えるため、民間の持つ資金、ノウハウを最大限活用した整備手法について検討を進めてきました。

具体的な検討内容として、平成 28 年度に多目的屋内施設を取り巻く状況、他都市の整備事例、豊橋公園と豊橋総合スポーツ公園との立地比較などを盛り込んだ「多目的屋内施設整備調査委託報告書」をまとめました。その後、検討を進めていく中で、平成 30 年 3 月に多目的屋内施設整備と運営に関する提案を民間より募集し、平成 30 年 9 月に協議対象者を選定したのち、事業実施に向けた協議を進めてきました。また、併せて新アリーナを核としたまちづくりの基本的な考え方を定めた「新アリーナを核としたまちづくり基本計画 2019-2023」を平成 31 年 3 月に策定しました。

しかしながら、選定した協議対象者と事業実施に必要な諸条件について、詳細協議を続けてきましたが、協議が成立せず基本協定の締結に至らなかったため、協議対象者としての地位を令和元年 7 月に取り消しました。

その後、改めて多目的屋内施設の必要性などを再検討した結果、総合体育館は老朽化が進んでいることや過密化を解消させる必要があること、スポーツ観戦の来場者による経済効果をまちづくりに活用していく必要があること、防災活動の拠点としての活用などの点から多目的屋内施設の整備は本市にとって必要と考えて検討を続けてきました。

また、再検討した内容として、多目的屋内施設整備にあたっては、都市機能の集積によるコンパクトなまちづくりの観点などから豊橋公園を建設候補地として検討を進めることのほか、現在の公共施設のうち老朽化した施設との統合・複合化をあわせて検討していくことが、多機能化による利便性の向上や建設・運営コスト削減を図るうえで効果的であると考え、老朽化が進んでいる武道館等との複合化も視野に入れながら検討を進めていくものとなりました。

このような背景や検討の経緯の中、今後の公共施設の考え方を踏まえながら、多目的屋内施設の規模や機能の検討を進めていく必要がある状況となっています。

3. 本書の目的

多目的屋内施設の基本計画策定に向けた基礎調査（以下、「本調査」という。）は、前述の背景と検討の経緯を踏まえ、多目的屋内施設に関連する計画及び調査結果、関連施設の利用状況等の把握・整理・分析を行った上で、本市に求められる多目的屋内施設の基本コンセプト、本市の目指すべき多目的屋内施設の施設規模・機能の検討、整備の方向性などをとりまとめるものです。

第2章 現状及び実態把握

1. 関連施設の利用状況等の実態把握

本市で整備の検討を行っている多目的屋内施設は、各種スポーツ競技の利用だけでなく、スポーツ以外のコンサートや展示会等の利用にも対応した施設を目指しております。これら利用に関連する施設（以下、「関連施設」という。）の利用状況等の実態把握を行うものとします。

(1) 各スポーツ施設の諸元

市内にあるスポーツ施設については、アリーナ機能を備えた総合体育館をはじめ、各種屋内競技が可能な地区体育館、武道館を対象とします。アクアリーナ豊橋は、水泳(プール)やアイススケート利用に特化した屋内施設であるため対象外とします。各施設の諸元は以下のとおりです。〔図表2-1〕

図表2-1 各スポーツ施設の諸元一覧

施設名	利用可能種目 (面数)					開設年	延べ面積	駐車台数
	バレーボール	バスケットボール	バドミントン	卓球	トレーニング室			
総合体育館	※1					1989年 (H1)	12,584.49 m ²	410台
前田南地区体育館	2	2	6	16	-	1974年 (S49)	1,224.00 m ²	12台
新栄地区体育館	2	2	6	10	-	1975年 (S50)	1,116.50 m ²	65台
牛川地区体育館	2	2	6	10	-	1982年 (S57)	1,313.86 m ²	28台
草間地区体育館	2	2	6	10	-	1984年 (S59)	1,301.88 m ²	25台
飯村地区体育館	2	2	6	10	○	1985年 (S60)	1,350.03 m ²	60台
下五井地区体育館	2	2	6	10	○	1989年 (H1)	1,441.50 m ²	88台
浜道地区体育館	2	2	6	16	○	1990年 (H2)	1,413.07 m ²	80台
二川地区体育館	2	2	6	12	○	1991年 (H3)	1,443.86 m ²	39台
石巻地区体育館	2	2	6	10	○	1992年 (H4)	1,444.81 m ²	91台
大清水地区体育館	2	2	6	10	○	1994年 (H6)	1,537.03 m ²	83台
武道館	※2					1973年 (S48)	3,038.56 m ²	40台

※1：第1アリーナ、第2アリーナ、卓球室、研修室、第1会議室、第2会議室

※2：柔道場、剣道場、弓道場(近的・遠的)、相撲場、トレーニング室

(2) 各文化施設の諸元

市内にある文化施設については、ホール機能を備え、且つ多目的な利用がなされている施設を対象とします。各施設の諸元は以下のとおりです。〔図表2-2〕

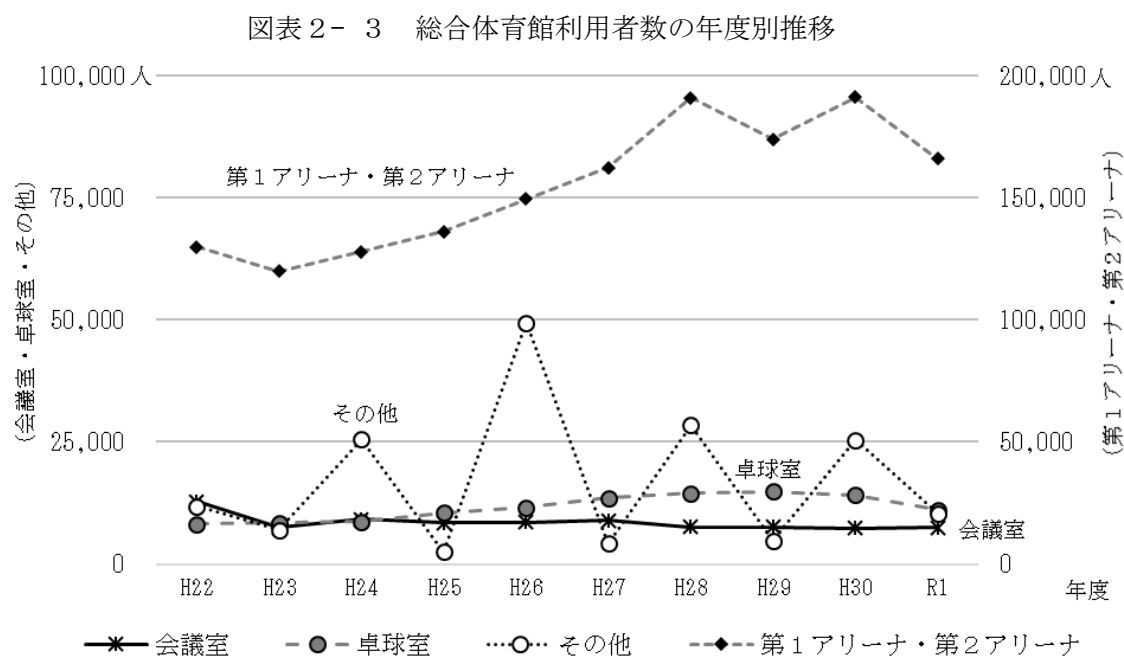
図表2-2 各文化施設の諸元一覧

施設名	主な施設	開設年	延べ面積	駐車台数
豊橋市民文化会館	ホール（定員 490 人） 会議室（7 部屋） 展示室（2 部屋） リハーサル室（1 部屋）	1967 年 (S42)	6,065.68 m ²	158 台
ライフポートとよはし	コンサートホール（1,000 席） リハーサル室（2 部屋） ソリスト室（1 部屋） 指揮者室（1 部屋） 楽員室（2 部屋） 中ホール（306 席） 楽屋（2 部屋） 講師控室（1 部屋）	1994 年 (H6)	11,017.28 m ²	720 台
アイプラザ豊橋	講堂（1,469 席） 楽屋（4 部屋） 特別室（3 部屋） リハーサル室（1 部屋） 小ホール（250 席） 会議室（14 部屋） 和室（3 部屋） 調理実習室・準備室（1 部屋） 実習室（2 部屋） 多目的室（4 部屋） 体育室（568.85 m ² ）	1976 年 (S51)	13,298.84 m ²	323 台
穂の国とよはし芸術劇場「プラット」	主ホール（778 席） 楽屋（8 部屋） アートスペース（266 席） 楽屋（3 部屋） 創造活動室（7 部屋） 研修室（2 部屋）	2013 年 (H25)	8,036.59 m ²	36 台

(3) スポーツ施設における利用状況等の実態把握

① 総合体育館における過去10年間の利用者数とその傾向

総合体育館の利用者数は、平成22年度から平成25年度までは150,000人前後で推移していましたが、平成26年度以降200,000人を超えるなど増加の傾向がみられます。〔図表2-3～図表2-4〕



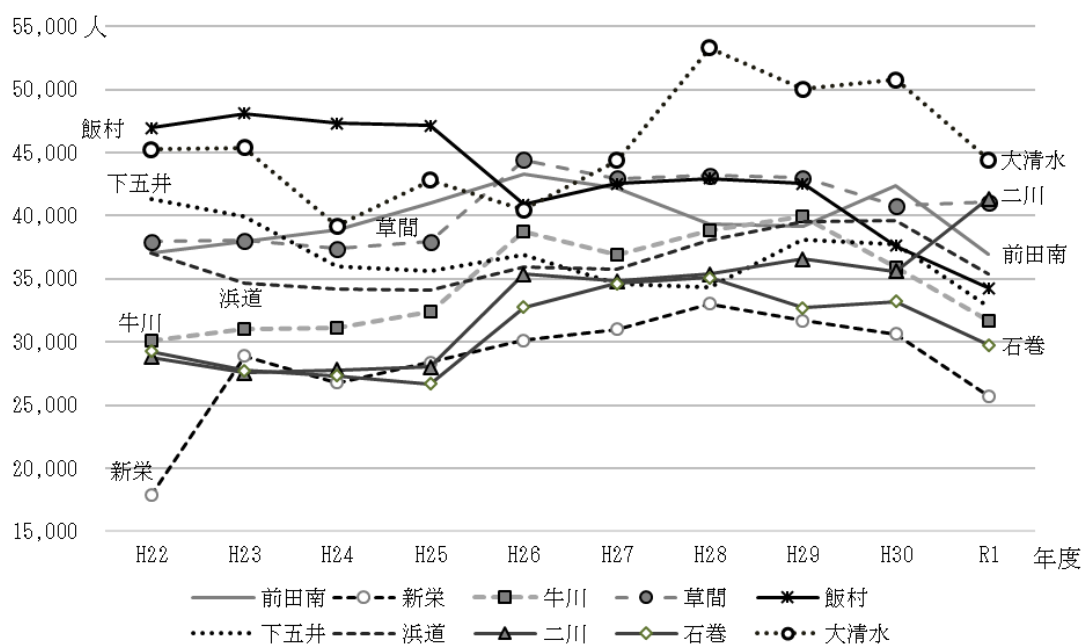
図表2-4 総合体育館利用者数の年度別推移とその平均 (単位:人)

年度	第1アリーナ・第2アリーナ	会議室	卓球室	その他	合計
H22	129,859	12,802	8,187	11,865	162,713
H23	119,932	7,508	8,411	7,000	142,851
H24	127,898	9,169	8,664	25,502	171,233
H25	135,994	8,476	10,459	2,480	157,409
H26	149,405	8,582	11,645	49,448	219,080
H27	162,342	8,966	13,566	4,205	189,079
H28	190,889	7,546	14,459	28,395	241,289
H29	173,950	7,553	14,865	4,780	201,148
H30	191,018	7,401	14,159	25,450	238,028
R1	165,935	7,499	11,073	10,343	194,850
平均	154,722	8,550	11,549	16,947	191,768

② 地区体育館における過去 10 年間の利用者数とその傾向

地区体育館 10 館全体の利用者数は、平成 28 年度に 393,626 人と過去最高の利用実績となり、多くの利用がみられます。個々にみると、それぞれ毎年約 30,000 人～50,000 人の実績で推移しています。10 年間の平均の利用者数においては、大清水地区体育館が 45,601 人と最も多く、続いて飯村地区体育館 43,031 人、草間地区体育館 40,678 人の順となっています。〔図表 2- 5～図表 2- 6〕

図表 2- 5 地区体育館利用者数の年度別推移



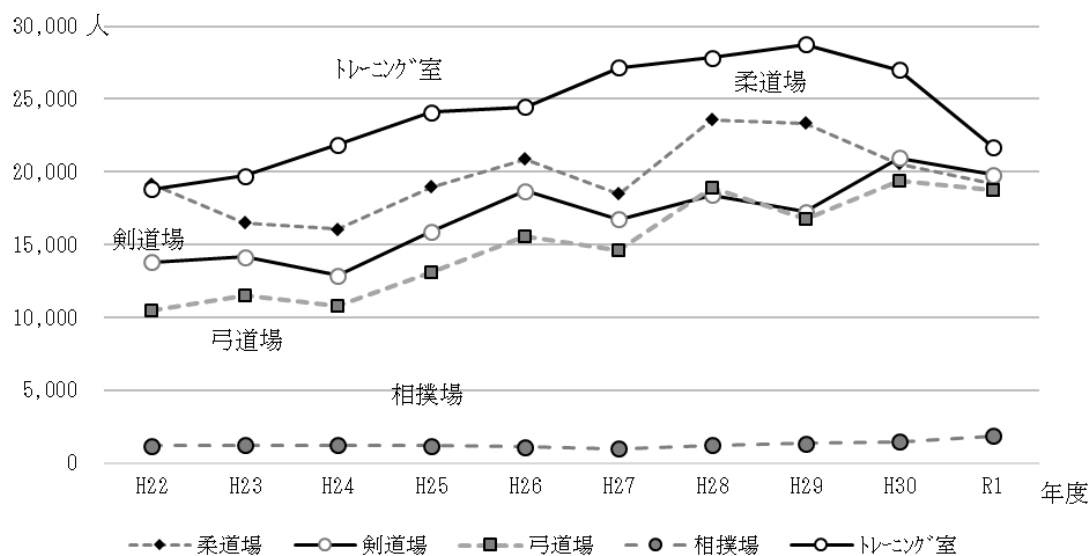
図表 2- 6 地区体育館利用者数の年度別推移とその平均（単位：人）

年度	前田南	新栄	牛川	草間	飯村	下五井	浜道	二川	石巻	大清水	合計
H22	37,091	17,848	30,149	37,949	46,961	41,306	37,045	28,822	29,250	45,267	351,688
H23	37,976	28,894	31,066	38,046	48,120	39,985	34,674	27,565	27,753	45,374	359,453
H24	38,902	26,782	31,154	37,376	47,305	35,992	34,189	27,811	27,314	39,194	346,019
H25	41,008	28,373	32,446	37,927	47,111	35,624	34,091	28,010	26,666	42,829	354,085
H26	43,267	30,116	38,749	44,441	40,863	36,934	35,930	35,389	32,759	40,481	378,929
H27	42,219	31,001	36,946	42,951	42,546	34,644	35,806	34,837	34,652	44,362	379,964
H28	39,344	33,038	38,879	43,198	42,959	34,362	38,034	35,389	35,116	53,307	393,626
H29	39,190	31,686	39,968	43,010	42,545	38,140	39,556	36,555	32,688	50,012	393,350
H30	42,337	30,617	35,894	40,814	37,636	37,764	39,600	35,592	33,224	50,745	384,223
R1	36,946	25,703	31,707	41,069	34,259	32,803	35,423	41,357	29,754	44,442	353,463
平均	39,828	28,406	34,696	40,678	43,031	36,755	36,435	33,133	30,918	45,601	369,480

③ 武道館における過去10年間の利用者数とその傾向

武道館の利用者数は、平成22年度以降60,000人台で推移していましたが、平成25年度以降増加に転じており、平成28年度以降は90,000人に近い利用者数で推移しています。〔図表2-7～図表2-8〕

図表2-7 武道館利用者数の年度別推移



図表2-8 武道館利用者数の年度別推移とその平均 (単位: 人)

年度	柔道場	剣道場	弓道場	相撲場	トレーニング室	合計
H22	19,181	13,784	10,466	1,188	18,791	63,410
H23	16,511	14,138	11,484	1,233	19,732	63,098
H24	16,074	12,888	10,783	1,225	21,867	62,837
H25	18,972	15,890	13,124	1,168	24,115	73,269
H26	20,870	18,691	15,585	1,079	24,472	80,697
H27	18,477	16,754	14,623	976	27,145	77,975
H28	23,559	18,394	18,867	1,221	27,851	89,892
H29	23,330	17,236	16,779	1,354	28,768	87,467
H30	20,565	20,944	19,374	1,473	27,001	89,357
R1	19,191	19,790	18,738	1,844	21,724	81,287
平均	19,673	16,851	14,982	1,276	24,147	76,929

④ 各スポーツ施設の稼働率と推移

各スポーツ施設の稼働率は、以下の計算方法により年度別（平成 27 年度～令和元年度）に整理を行いました。

総合体育館の稼働率推移は、第 1 アリーナと第 2 アリーナが 50%前後で推移しています。また、総合体育館全体を通じて微増ではありますが、稼働率が上昇していません。〔図表 2- 9 上〕

地区体育館の稼働率推移は、前田南地区体育館が 90%以上と最も高い稼働率で推移しています。また、地区体育館全体を通じて、稼働率推移は高い水準で横ばいを維持しています。〔図表 2- 9 中〕

武道館の稼働率推移は、柔道場が 30%前後と最も高い稼働率で推移しています。また、武道館全体を通じてほぼ横ばいで推移しています。〔図表 2- 9 下〕

平日と土日・祝日の稼働率を比較すると、どのスポーツ施設においても土日・祝日の稼働率が高くなっています。〔図表 2- 10～図表 2- 14〕

【関連施設における各項目の説明、計算方法】

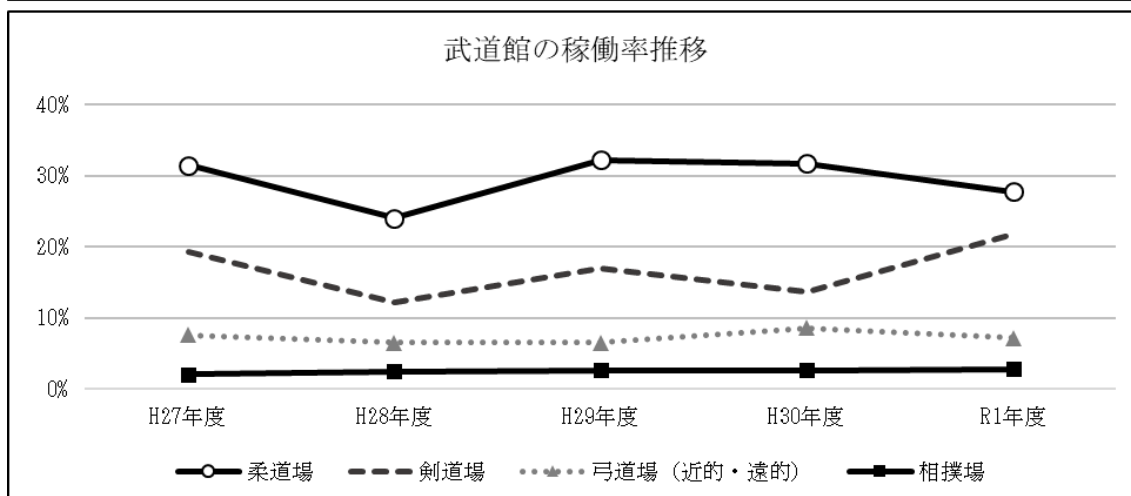
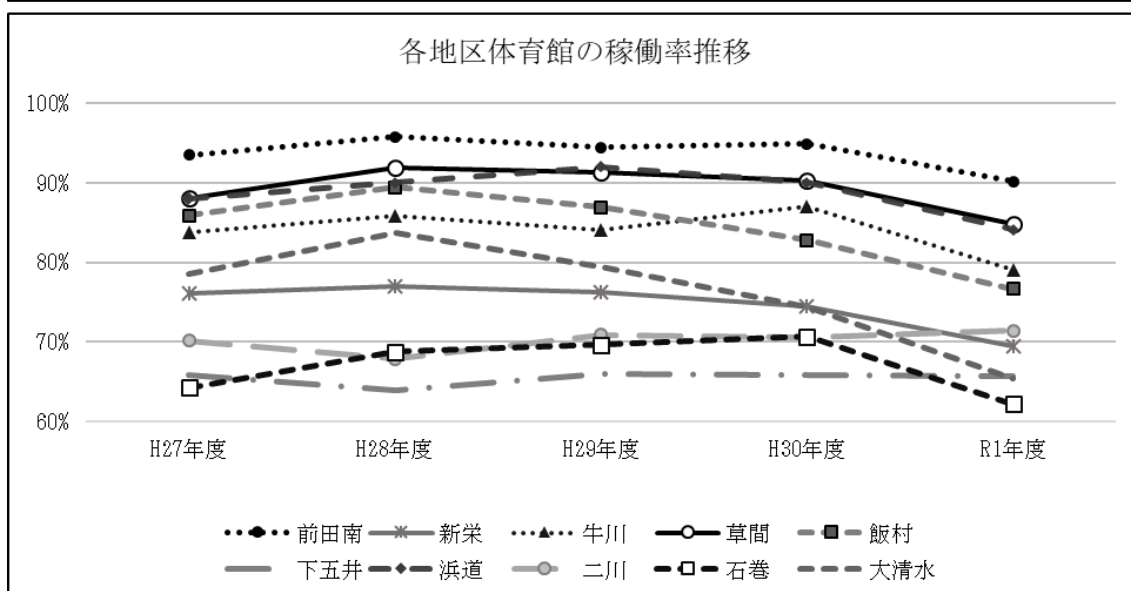
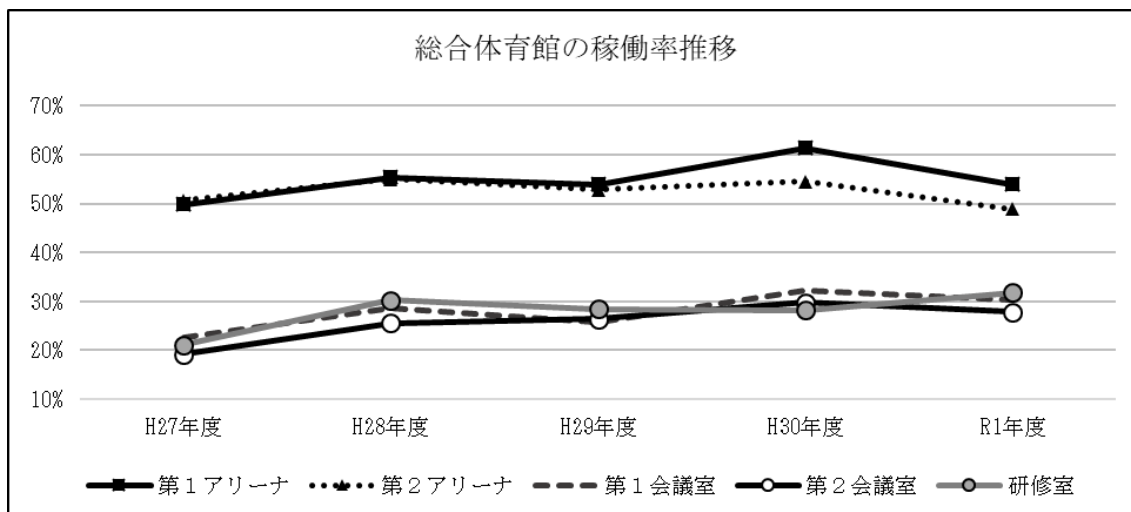
開館日数・・・休館日を除いた開館日の合計

施設の利用可能時間・・・午前（9：00～12：00）、午後（13：00～17：00）、
夜間（17：00～21：00）の 3 区分

稼働率＝年間利用回数／年間利用可能回数

※施設予約システムによる団体利用のみの稼働率のため、各施設における個人利用実績は含まれていません。

図表 2- 9 各スポーツ施設の稼働率推移



図表 2- 10 各スポーツ施設の稼働率（平成 27 年度）

施設名	平成 27 年度								計
	平日				土日・祝日				
	午前	午後	夜間	合計	午前	午後	夜間	合計	
総合体育館	15.4%	20.3%	33.9%	23.2%	61.8%	63.4%	43.2%	56.1%	35.7%
第 1 アリーナ	24.1%	29.3%	39.3%	30.9%	97.4%	95.7%	49.6%	80.9%	49.9%
第 2 アリーナ	17.3%	23.3%	65.4%	35.3%	81.2%	83.8%	62.8%	75.9%	50.8%
第 1 会議室	13.6%	16.8%	11.0%	13.8%	41.9%	46.2%	22.2%	36.8%	22.5%
第 2 会議室	9.9%	9.4%	9.9%	9.8%	35.9%	38.5%	29.9%	34.8%	19.3%
研修室	10.5%	19.9%	12.0%	14.1%	33.3%	32.5%	31.6%	32.5%	21.1%
前田南地区体育館	89.0%	98.4%	96.3%	94.6%	94.9%	95.3%	84.6%	91.6%	93.5%
新栄地区体育館	79.1%	28.0%	95.0%	67.4%	95.3%	89.7%	85.5%	90.2%	76.0%
牛川地区体育館	79.1%	75.7%	89.0%	81.2%	94.0%	86.8%	83.3%	88.0%	83.8%
草間地区体育館	88.2%	81.9%	90.3%	86.8%	92.7%	93.2%	83.8%	89.9%	88.0%
飯村地区体育館	80.1%	73.8%	96.6%	83.5%	91.9%	86.8%	90.6%	89.7%	85.9%
下五井地区体育館	29.1%	35.3%	91.1%	51.8%	93.2%	91.9%	81.6%	88.9%	65.9%
浜道地区体育館	88.0%	77.7%	90.6%	85.4%	93.2%	97.9%	85.0%	92.0%	87.9%
二川地区体育館	35.6%	51.8%	88.5%	58.6%	90.6%	85.9%	90.6%	89.0%	70.2%
石巻地区体育館	23.8%	38.0%	90.1%	50.6%	89.3%	86.3%	83.8%	86.5%	64.2%
大清水地区体育館	80.6%	55.0%	85.1%	73.6%	88.9%	89.3%	81.2%	86.5%	78.5%
武道館	4.4%	3.1%	6.0%	4.5%	40.3%	32.3%	12.6%	28.4%	13.6%
柔道場	5.2%	3.7%	22.0%	10.3%	75.2%	77.8%	45.3%	66.1%	31.5%
剣道場	13.1%	4.7%	1.6%	6.5%	69.2%	41.9%	9.4%	40.2%	19.3%
弓道場 (近的・遠的)	1.3%	3.1%	2.6%	2.4%	26.1%	18.8%	3.4%	16.1%	7.6%
相撲場	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	5.1%	4.3%	1.7%	3.7%	2.1%

図表 2- 1 1 各スポーツ施設の稼働率（平成 28 年度）

施設名	平成 28 年度								計
	平日				土日・祝日				
	午前	午後	夜間	合計	午前	午後	夜間	合計	
総合体育館	20.7%	27.6%	39.1%	29.1%	67.1%	67.0%	53.2%	62.4%	41.7%
第 1 アリーナ	29.2%	37.0%	44.3%	36.8%	98.3%	97.4%	62.9%	86.2%	55.4%
第 2 アリーナ	24.2%	33.6%	69.5%	42.4%	79.3%	78.0%	70.3%	75.9%	55.0%
第 1 会議室	17.7%	20.8%	14.6%	17.7%	52.6%	54.3%	33.6%	46.8%	28.7%
第 2 会議室	14.6%	16.7%	13.5%	14.9%	46.6%	46.6%	36.2%	43.1%	25.5%
研修室	14.1%	24.0%	23.4%	20.5%	46.6%	47.4%	45.7%	46.6%	30.3%
前田南地区体育館	90.1%	99.7%	96.6%	95.5%	98.7%	97.4%	92.7%	96.3%	95.8%
新栄地区体育館	79.9%	28.1%	96.9%	68.3%	94.8%	89.2%	90.1%	91.4%	77.0%
牛川地区体育館	67.7%	86.5%	89.6%	81.3%	95.3%	93.5%	91.8%	93.5%	85.9%
草間地区体育館	96.9%	85.2%	93.8%	91.9%	93.5%	90.9%	91.4%	92.0%	91.9%
飯村地区体育館	81.8%	80.2%	97.1%	86.4%	96.1%	94.0%	93.5%	94.5%	89.4%
下五井地区体育館	25.5%	25.3%	90.1%	47.0%	94.0%	93.5%	88.4%	92.0%	63.9%
浜道地区体育館	74.7%	86.7%	97.4%	86.3%	96.6%	98.3%	93.5%	96.1%	90.0%
二川地区体育館	28.4%	52.3%	87.8%	56.2%	84.1%	87.1%	90.5%	87.2%	67.9%
石巻地区体育館	36.5%	42.7%	92.4%	57.2%	88.8%	87.9%	87.1%	87.9%	68.8%
大清水地区体育館	81.8%	68.8%	88.5%	79.7%	93.5%	91.8%	85.3%	90.2%	83.7%
武道館	1.8%	1.8%	4.4%	2.6%	32.8%	26.7%	9.7%	23.0%	10.3%
柔道場	2.6%	2.6%	14.6%	6.6%	56.0%	72.4%	30.2%	52.9%	24.0%
剣道場	4.7%	1.0%	1.6%	2.4%	45.7%	28.4%	10.3%	28.2%	12.1%
弓道場 (近的・遠的)	0.5%	2.3%	2.6%	1.8%	25.4%	14.2%	3.0%	14.2%	6.5%
相撲場	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	11.2%	4.3%	1.7%	5.7%	2.5%

図表 2- 1 2 各スポーツ施設の稼働率（平成 29 年度）

施設名	平成 29 年度								計
	平日				土日・祝日				
	午前	午後	夜間	合計	午前	午後	夜間	合計	
総合体育館	21.7%	26.6%	36.1%	28.1%	64.5%	65.2%	50.6%	60.1%	40.1%
第 1 アリーナ	30.1%	37.8%	43.5%	37.1%	93.0%	93.0%	60.0%	82.0%	53.9%
第 2 アリーナ	27.2%	30.1%	64.2%	40.5%	77.8%	78.3%	64.8%	73.6%	52.9%
第 1 会議室	15.0%	19.2%	10.9%	15.0%	48.7%	49.6%	33.9%	44.1%	25.9%
第 2 会議室	15.0%	19.7%	10.4%	15.0%	47.0%	49.6%	40.0%	45.5%	26.4%
研修室	15.5%	22.8%	23.3%	20.6%	42.6%	42.6%	40.0%	41.7%	28.5%
前田南地区体育館	88.1%	99.2%	95.6%	94.3%	98.7%	97.4%	87.8%	94.6%	94.4%
新栄地区体育館	78.8%	30.8%	95.9%	68.5%	94.3%	90.0%	83.9%	89.4%	76.3%
牛川地区体育館	82.9%	76.2%	87.3%	82.1%	91.7%	83.5%	86.5%	87.2%	84.0%
草間地区体育館	94.3%	82.4%	96.4%	91.0%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.3%
飯村地区体育館	71.0%	79.3%	98.7%	83.0%	93.9%	93.9%	92.6%	93.5%	86.9%
下五井地区体育館	23.6%	40.2%	92.0%	51.9%	91.7%	92.6%	84.3%	89.6%	66.0%
浜道地区体育館	84.2%	87.8%	98.2%	90.1%	96.5%	98.3%	91.3%	95.4%	92.0%
二川地区体育館	31.9%	52.1%	89.4%	57.8%	92.6%	92.2%	93.9%	92.9%	70.9%
石巻地区体育館	38.3%	42.0%	86.3%	55.5%	95.7%	93.5%	90.9%	93.3%	69.6%
大清水地区体育館	63.5%	49.5%	97.2%	70.0%	94.3%	95.7%	95.2%	95.1%	79.4%
武道館	3.8%	2.6%	6.0%	4.1%	41.2%	29.4%	12.9%	27.8%	13.0%
柔道場	4.7%	5.2%	23.3%	11.1%	78.3%	78.3%	47.0%	67.8%	32.3%
剣道場	11.9%	4.1%	1.0%	5.7%	66.1%	32.2%	9.6%	35.9%	17.0%
弓道場 (近的・遠的)	1.0%	1.6%	2.6%	1.7%	25.2%	15.7%	3.0%	14.6%	6.5%
相撲場	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	11.3%	5.2%	1.7%	6.1%	2.6%

図表 2- 1 3 各スポーツ施設の稼働率（平成 30 年度）

施設名	平成 30 年度								計
	平日				土日・祝日				
	午前	午後	夜間	合計	午前	午後	夜間	合計	
総合体育館	27.7%	31.8%	41.7%	33.7%	63.6%	64.6%	50.9%	59.7%	43.4%
第 1 アリーナ	37.8%	45.6%	53.9%	45.8%	95.7%	96.5%	70.4%	87.5%	61.4%
第 2 アリーナ	30.8%	35.0%	65.0%	43.6%	78.3%	77.8%	62.6%	72.9%	54.5%
第 1 会議室	26.9%	29.0%	23.3%	26.4%	42.6%	47.0%	35.7%	41.7%	32.1%
第 2 会議室	21.8%	22.8%	21.2%	21.9%	44.3%	47.0%	37.4%	42.9%	29.8%
研修室	18.1%	23.3%	21.8%	21.1%	42.6%	41.7%	36.5%	40.3%	28.2%
前田南地区体育館	90.7%	99.0%	95.9%	95.2%	99.1%	95.7%	88.7%	94.5%	94.9%
新栄地区体育館	85.0%	14.8%	97.2%	65.6%	95.2%	83.9%	89.1%	89.4%	74.5%
牛川地区体育館	87.3%	80.3%	88.6%	85.4%	91.3%	89.6%	88.3%	89.7%	87.0%
草間地区体育館	94.0%	81.1%	95.9%	90.3%	93.0%	90.0%	87.8%	90.3%	90.3%
飯村地区体育館	56.7%	71.0%	99.2%	75.6%	96.1%	94.3%	93.9%	94.8%	82.8%
下五井地区体育館	21.5%	36.3%	94.0%	50.6%	92.2%	94.3%	87.4%	91.3%	65.8%
浜道地区体育館	85.0%	86.0%	95.1%	88.7%	93.5%	93.5%	90.0%	92.3%	90.0%
二川地区体育館	33.9%	57.3%	86.0%	59.1%	89.1%	89.6%	90.4%	89.7%	70.5%
石巻地区体育館	42.5%	51.0%	83.9%	59.2%	94.3%	93.5%	82.2%	90.0%	70.7%
大清水地区体育館	57.3%	42.7%	92.0%	64.0%	92.2%	91.7%	91.7%	91.9%	74.4%
武道館	3.1%	2.8%	5.6%	3.8%	41.9%	31.5%	12.6%	28.7%	13.0%
柔道場	5.7%	6.2%	21.8%	11.2%	77.9%	77.0%	45.1%	66.7%	31.7%
剣道場	7.3%	1.6%	0.5%	3.1%	55.8%	29.2%	9.7%	31.6%	13.6%
弓道場 (近的・遠的)	1.0%	2.8%	2.6%	2.2%	32.3%	23.0%	3.1%	19.5%	8.6%
相撲場	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	11.5%	5.3%	1.8%	6.2%	2.6%

図表 2- 1 4 各スポーツ施設の稼働率（令和元年度）

施設名	令和元年度								計
	平日				土日・祝日				
	午前	午後	夜間	合計	午前	午後	夜間	合計	
総合体育館	24.5%	28.9%	36.8%	30.1%	64.2%	63.8%	46.7%	58.2%	40.3%
第1アリーナ	36.1%	41.5%	39.5%	39.0%	89.7%	89.7%	61.2%	80.2%	53.9%
第2アリーナ	21.7%	26.6%	62.4%	36.9%	77.6%	75.0%	57.8%	70.1%	48.9%
第1会議室	23.4%	25.9%	16.1%	21.8%	50.0%	51.7%	33.6%	45.1%	30.2%
第2会議室	20.0%	25.9%	17.1%	21.0%	43.1%	44.8%	31.9%	39.9%	27.8%
研修室	23.9%	27.3%	23.4%	24.9%	47.4%	46.6%	37.9%	44.0%	31.8%
前田南地区体育館	86.9%	94.6%	91.8%	91.1%	98.3%	91.4%	76.3%	88.6%	90.2%
新栄地区体育館	75.1%	18.7%	91.3%	61.7%	91.4%	75.0%	81.0%	82.5%	69.5%
牛川地区体育館	80.5%	72.8%	80.3%	77.9%	87.1%	78.0%	78.0%	81.0%	79.0%
草間地区体育館	87.9%	76.7%	88.7%	84.4%	89.7%	89.2%	77.6%	85.5%	84.8%
飯村地区体育館	56.7%	68.5%	90.5%	71.9%	90.5%	84.1%	79.7%	84.8%	76.7%
下五井地区体育館	44.4%	32.6%	91.8%	56.2%	81.0%	86.2%	77.2%	81.5%	65.6%
浜道地区体育館	80.3%	81.8%	87.2%	83.1%	91.4%	86.6%	79.3%	85.8%	84.1%
二川地区体育館	54.6%	66.9%	73.8%	65.1%	82.8%	84.1%	79.3%	82.0%	71.4%
石巻地区体育館	35.9%	36.4%	85.6%	52.6%	88.4%	81.9%	64.2%	78.2%	62.2%
大清水地区体育館	49.7%	38.7%	78.2%	55.6%	84.9%	88.8%	72.4%	82.0%	65.4%
武道館	7.6%	0.6%	9.6%	6.0%	40.8%	24.0%	10.1%	25.0%	13.4%
柔道場	2.7%	3.2%	19.3%	8.4%	64.7%	69.7%	40.3%	58.3%	27.8%
剣道場	29.4%	0.0%	23.5%	17.6%	52.9%	26.1%	5.9%	28.3%	21.8%
弓道場 (近的・遠的)	2.9%	0.0%	2.4%	1.8%	34.5%	10.5%	2.1%	15.7%	7.2%
相撲場	0.0%	0.0%	0.5%	0.2%	17.6%	3.4%	0.0%	7.0%	2.8%

⑤ 各スポーツ施設の利用時間帯統計

令和元年度の各スポーツ施設の利用時間帯統計では、どのスポーツ施設とも平日は、夜間がよく利用されています。〔図表 2- 1 5〕

総合体育館は、終日利用が多い傾向となっており、各地区体育館は、夜間利用が多い傾向となっています。〔図表 2- 1 6〕

図表 2- 1 5 平日の利用時間帯別統計〔利用回数〕

各スポーツ施設	平 日						合計
	終日	AM	PM	AM・PM	PM・夜間	夜間	
総合体育館第1アリーナ	27	9	8	38	12	42	136
総合体育館第2アリーナ	24	3	14	18	1	167	227
前田南地区体育館	1	240	250	24	0	355	870
新栄地区体育館	0	291	68	2	0	305	666
牛川地区体育館	1	266	217	15	4	296	799
草間地区体育館	0	338	273	1	1	290	903
飯村地区体育館	0	217	249	1	0	342	809
下五井地区体育館	0	160	86	8	0	357	611
浜道地区体育館	0	313	319	0	0	339	971
二川地区体育館	0	208	222	3	0	234	667
石巻地区体育館	1	123	129	3	0	332	588
大清水地区体育館	0	193	138	1	0	215	547
武道館	0	68	3	3	0	90	164
時間帯別合計	54	2,429	1,976	117	18	3,364	7,958

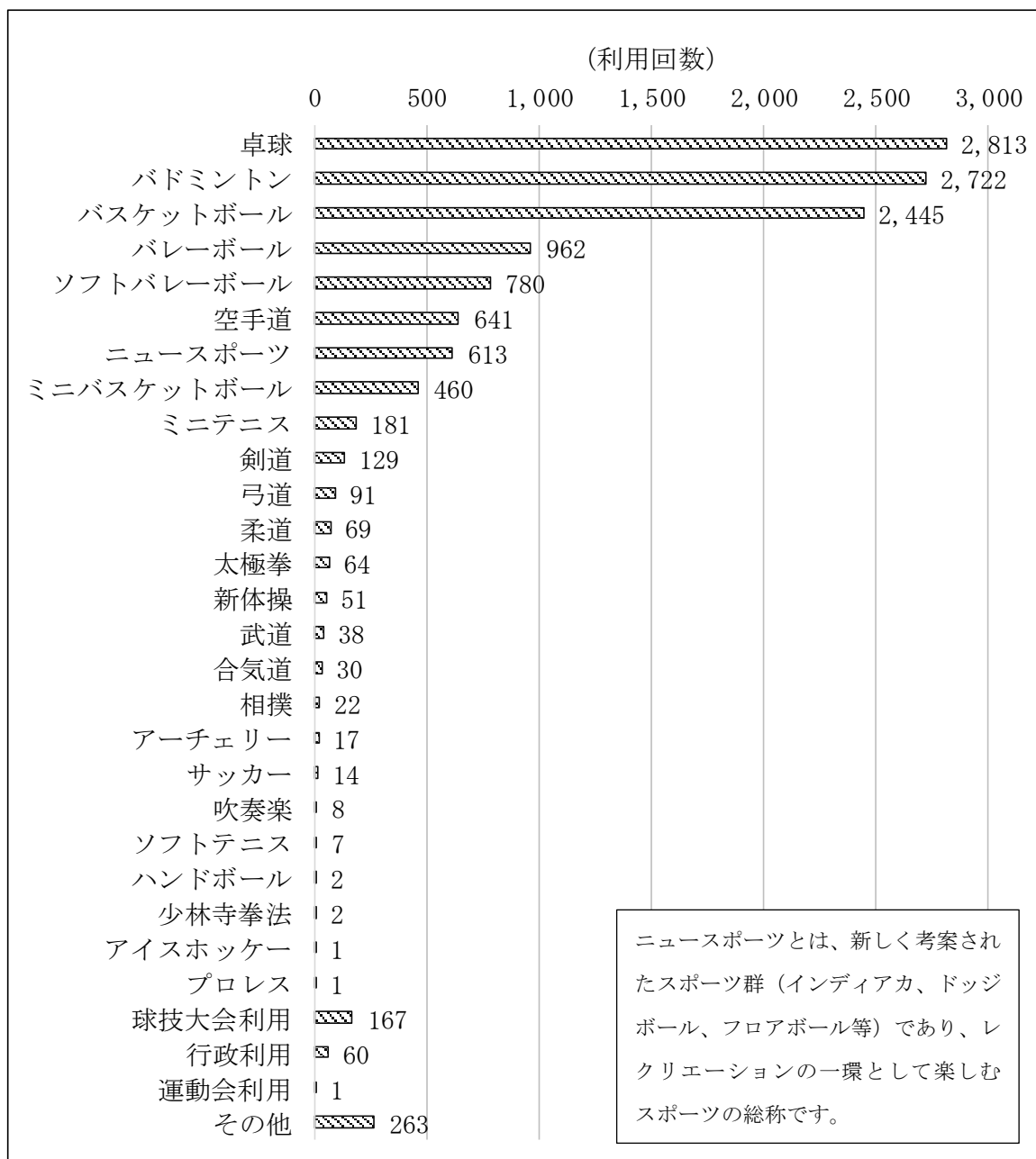
図表 2- 1 6 土日・祝日の利用時間帯別統計〔利用回数〕

各スポーツ施設	土 日 ・ 祝 日						合計
	終日	AM	PM	AM・PM	PM・夜間	夜間	
総合体育館第1アリーナ	63	1	0	40	1	7	112
総合体育館第2アリーナ	43	13	8	40	1	40	145
前田南地区体育館	3	175	162	24	4	162	530
新栄地区体育館	1	158	133	19	4	176	491
牛川地区体育館	0	152	118	33	14	167	484
草間地区体育館	32	116	99	15	10	103	375
飯村地区体育館	2	116	93	51	1	177	440
下五井地区体育館	7	72	73	56	16	139	363
浜道地区体育館	6	112	101	44	1	166	430
二川地区体育館	9	126	80	23	2	161	401
石巻地区体育館	20	70	56	48	2	98	294
大清水地区体育館	11	26	37	74	0	117	265
武道館	0	164	63	79	1	59	366
時間帯別合計	197	1,301	1,023	546	57	1,572	4,696

⑥ 全スポーツ施設の利用目的別統計

全スポーツ施設（総合体育館、各地区体育館、武道館）について、令和元年度の利用目的（競技種目）別の統計では、卓球（2,813件）、バドミントン（2,722件）、バスケットボール（2,445件）が多く利用されており、次いでバレーボール（962件）、ソフトバレーボール（780件）が利用されています。〔図表2-17〕

図表2-17 利用目的（競技種目）別統計（全スポーツ施設の合計）



⑦ 各スポーツ施設の利用目的（競技種目）別統計

令和元年度の各スポーツ施設における利用目的（競技種目）別の統計分析は、以下のとおりです。

総合体育館では、第1アリーナ、第2アリーナともに、バスケットボール（第1：73件、第2：90件）が最も多く利用されています。〔図表2-18〕

前田南地区体育館では、卓球（711件）の利用が突出しています。〔図表2-19左〕

新栄地区体育館では、バドミントン（567件）の利用が突出しています。〔図表2-19右〕

牛川地区体育館では、バドミントン（283件）と最も多く、次いで卓球（272件）、ソフトバレーボール（220件）が多く利用されています。〔図表2-20左〕

草間地区体育館では、バドミントン（306件）に次いで、卓球（256件）が多く利用されています。〔図表2-20右〕

飯村地区体育館では、バスケットボール（323件）の利用が最も多く、次いで、バドミントン（298件）、卓球（290件）が多く利用されています。〔図表2-21左〕

下五井地区体育館では、バスケットボール（251件）に次いで、卓球（191件）が多く利用されています。〔図表2-21右〕

浜道地区体育館では、バドミントン（504件）の利用が最も多く、次いで、卓球（360件）、バスケットボール（304件）が多く利用されています。〔図表2-22左〕

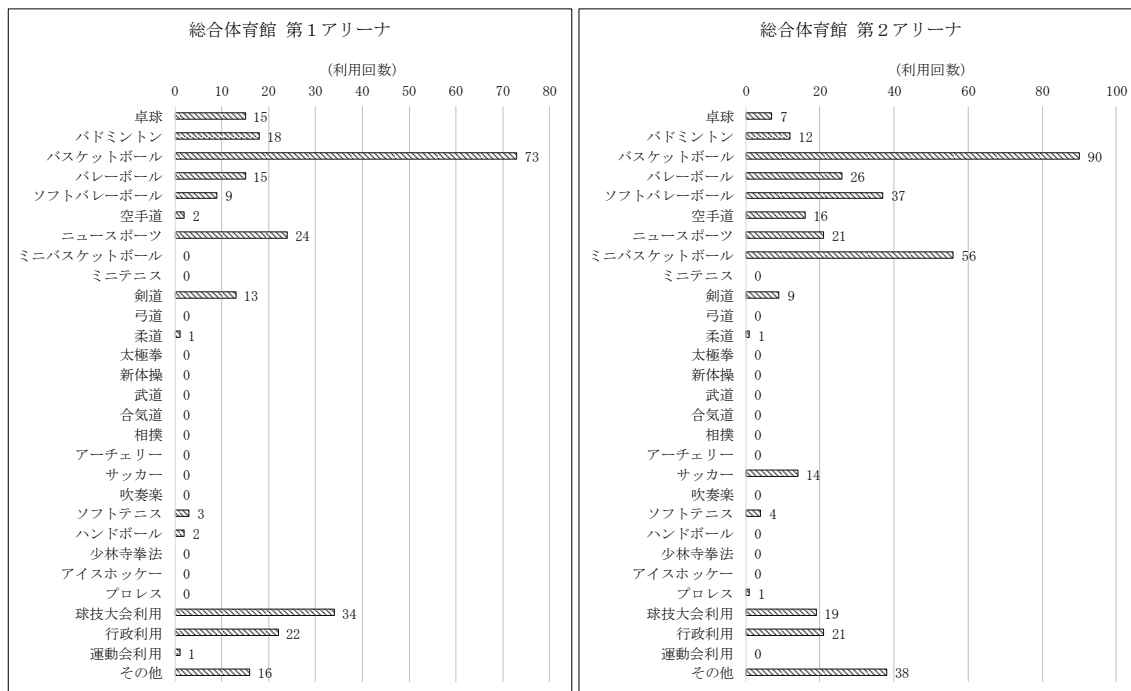
二川地区体育館では、バドミントン（295件）が最も多く、次いで、バレーボール（245件）、バスケットボール（194件）、卓球（188件）が多く利用されています。〔図表2-22右〕

石巻地区体育館では、卓球（254件）に次いで、バスケットボール（191件）が多く利用されています。〔図表2-23左〕

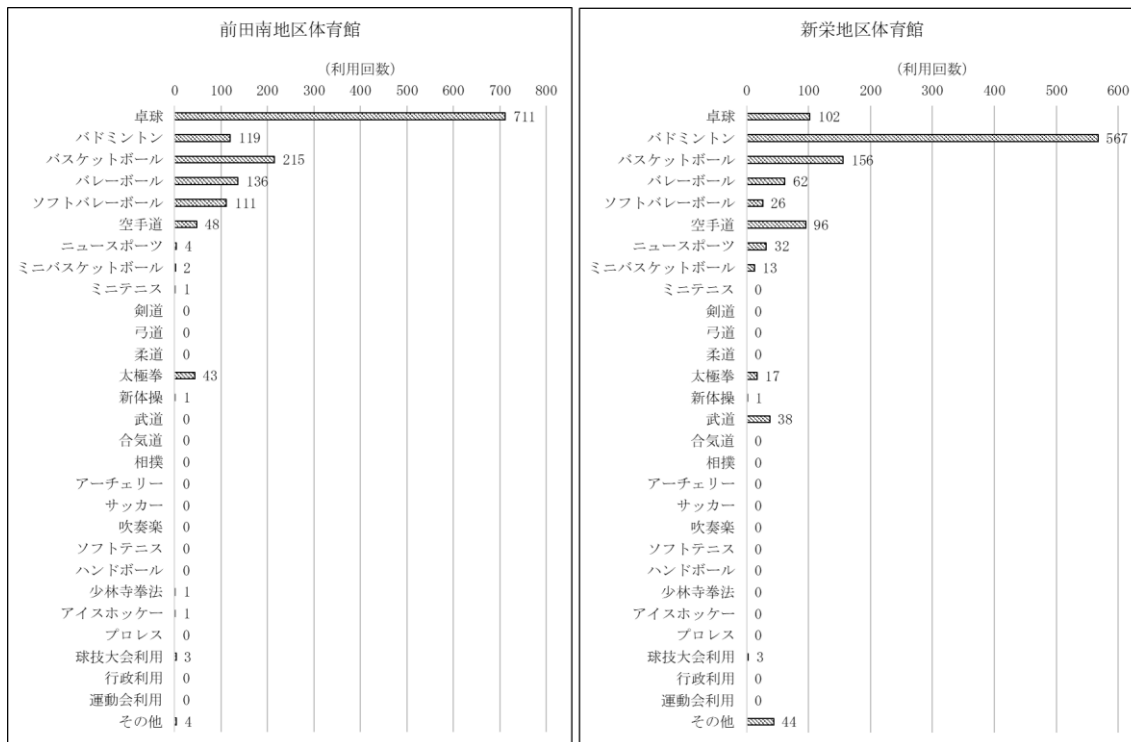
大清水地区体育館では、バスケットボール（287件）の利用が最も多く、次いで、バドミントン（201件）、卓球（167件）が多く利用されています。〔図表2-23右〕

武道館では、剣道（95件）が最も多く、次いで弓道（91件）、空手道（85件）が多く利用されています。〔図表2-24〕

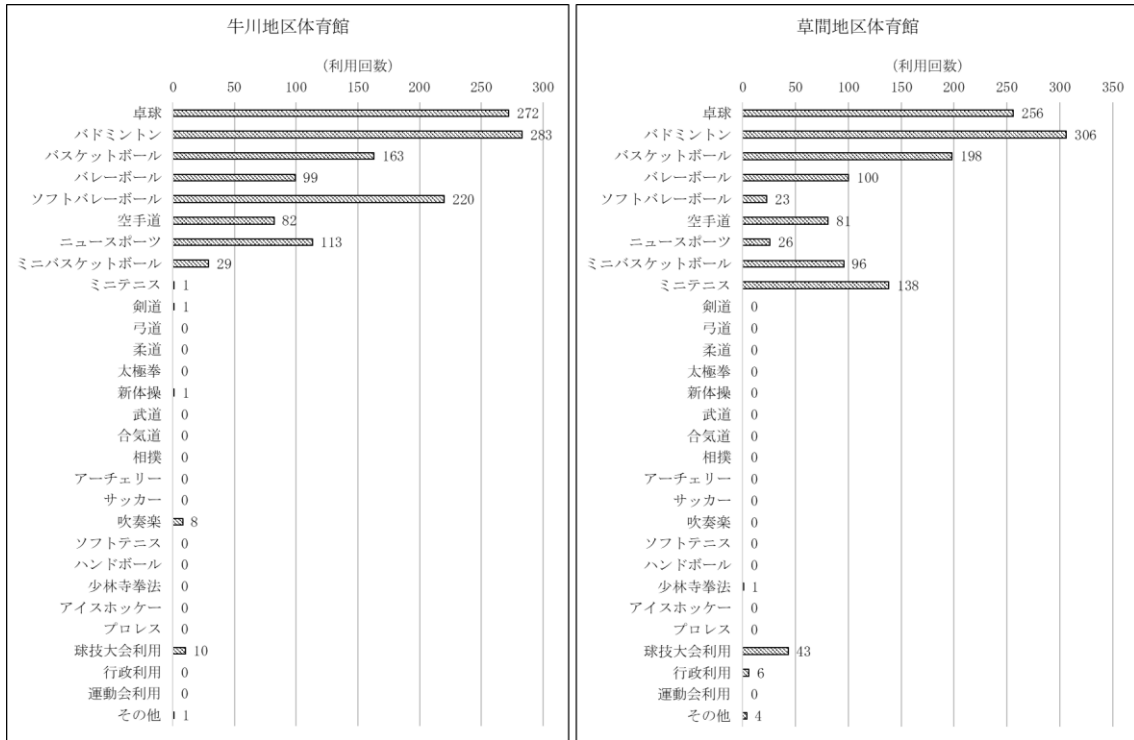
図表 2- 1 8 総合体育館の利用目的（競技種目）別統計



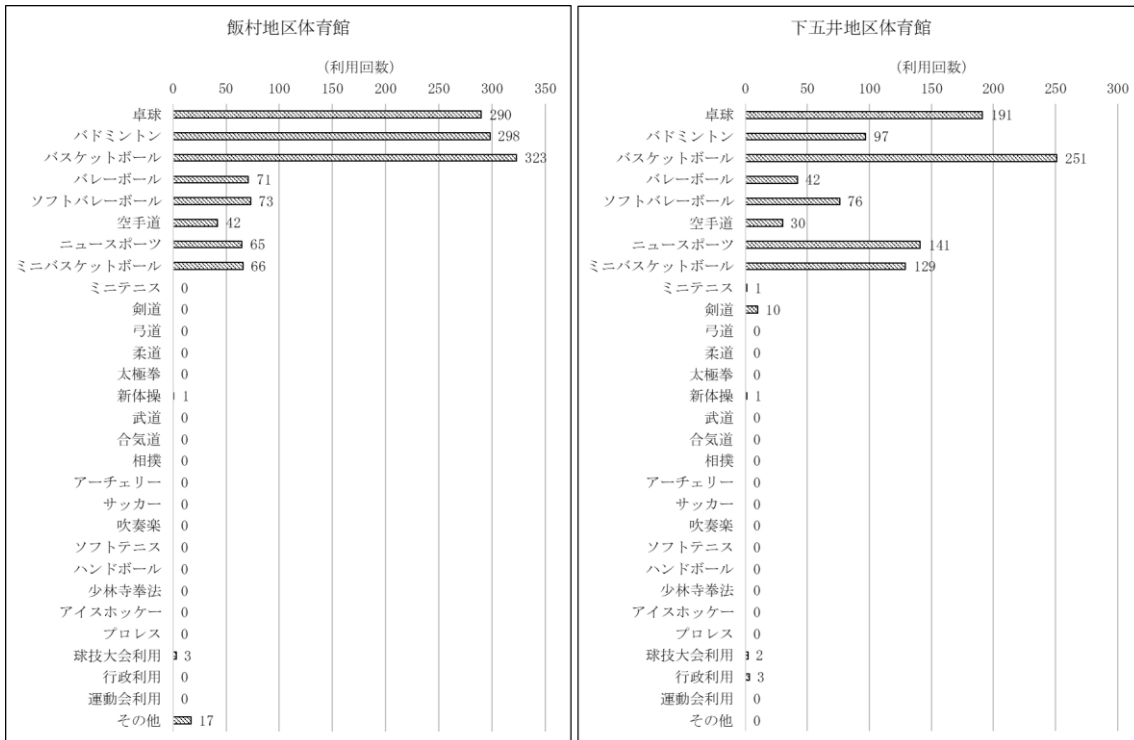
図表 2- 1 9 地区体育館の利用目的（競技種目）別統計



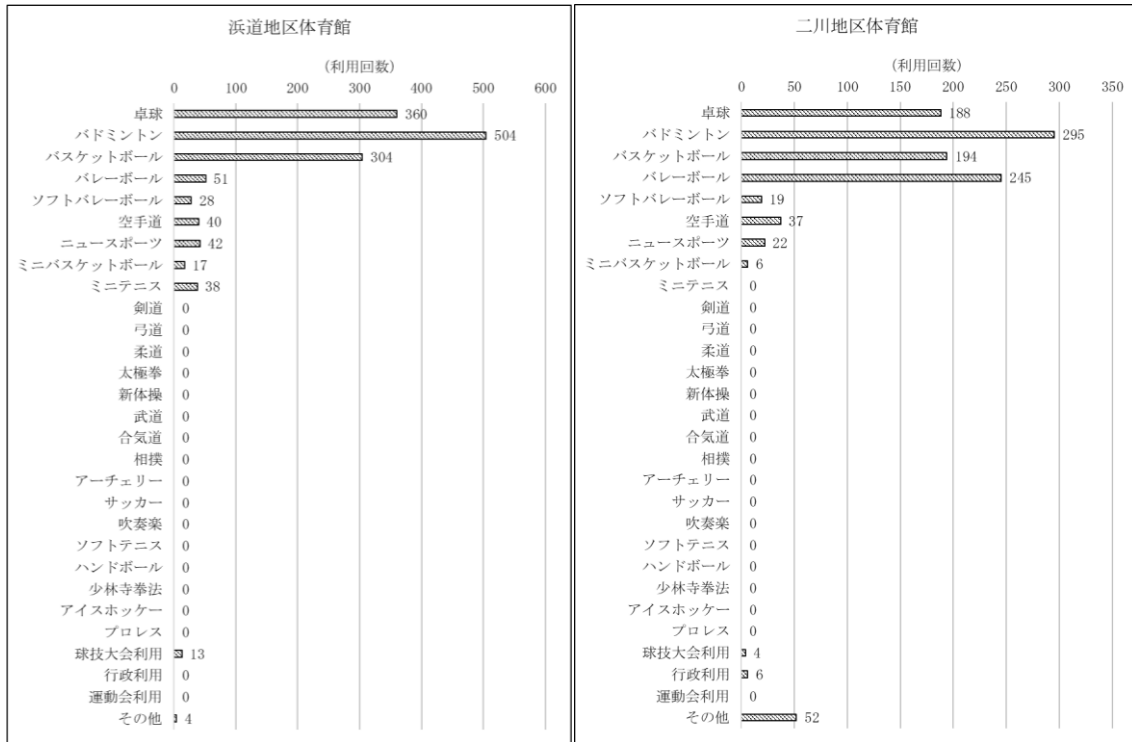
図表 2- 20 地区体育館の利用目的（競技種目）別統計



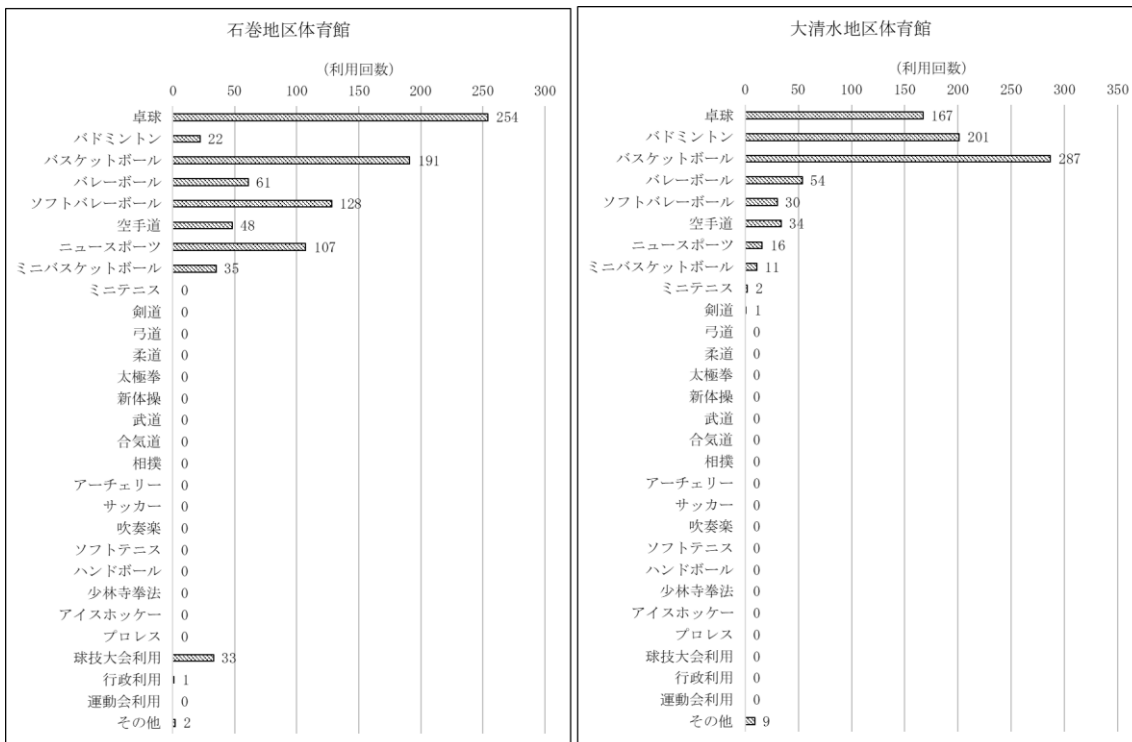
図表 2- 21 地区体育館の利用目的（競技種目）別統計



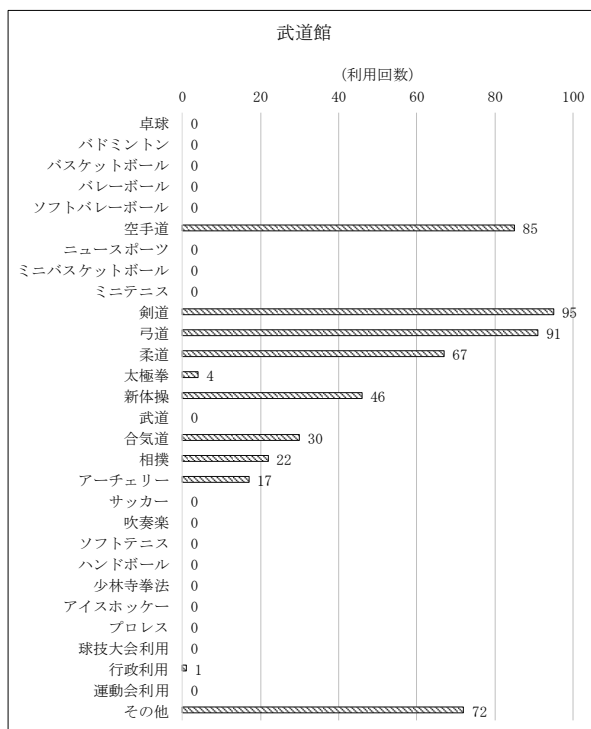
図表 2- 2 2 地区体育館の利用目的（競技種目）別統計



図表 2- 2 3 地区体育館の利用目的（競技種目）別統計



図表 2- 2 4 武道館の利用目的（競技種目）別統計

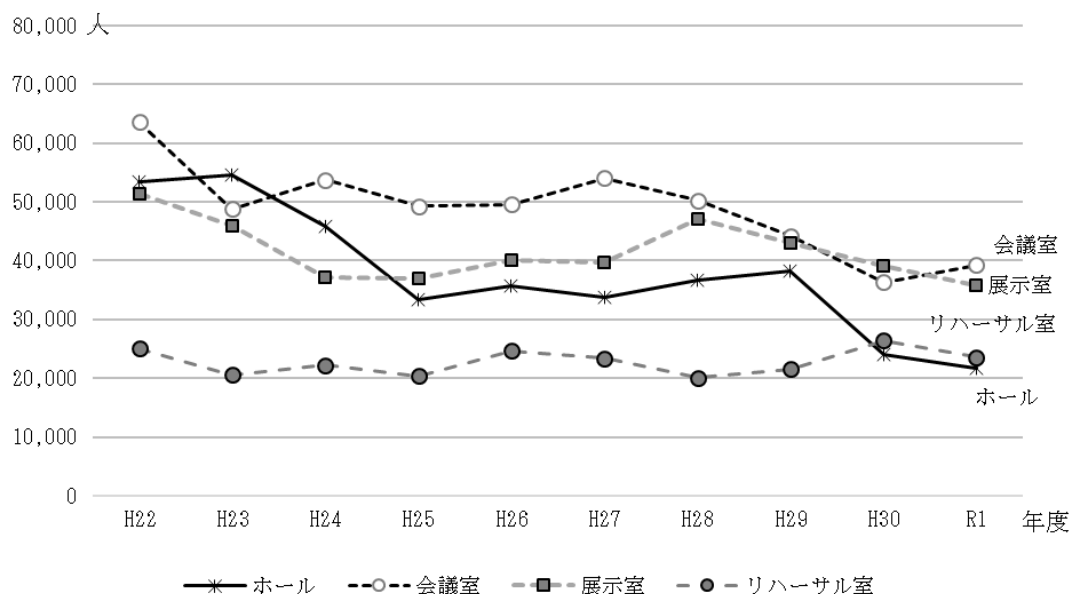


(4) 文化施設における利用状況等の実態把握

① 豊橋市民文化会館における過去10年間の利用者数とその傾向

豊橋市民文化会館の利用者数は、平成22年度以降、減少傾向にあります。〔図表2-25～図表2-26〕

図表2-25 豊橋市民文化会館利用者数の年度別推移



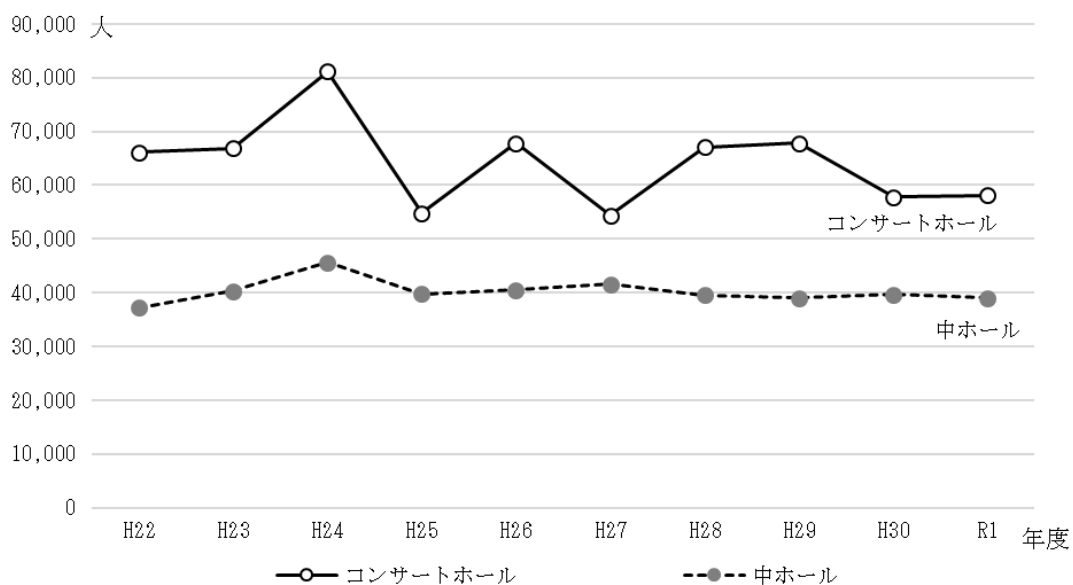
図表2-26 豊橋市民文化会館利用者数の年度別推移とその平均 (単位：人)

年度	ホール	会議室	展示室	リハーサル室	合計
H22	53,481	63,568	51,383	25,002	193,434
H23	54,560	48,759	45,897	20,579	169,795
H24	45,895	53,811	37,097	22,185	158,988
H25	33,374	49,250	36,893	20,336	139,853
H26	35,643	49,625	40,123	24,609	150,000
H27	33,670	54,014	39,792	23,398	150,874
H28	36,768	50,224	47,019	20,111	154,122
H29	38,233	44,209	42,979	21,532	146,953
H30	24,002	36,380	39,100	26,430	125,912
R1	21,637	39,289	35,789	23,584	120,299
平均	37,726	48,913	41,607	22,777	151,023

② ライフポートとよはしにおける過去 10 年間の利用者数とその傾向

ライフポートとよはしの利用者数は、コンサートホールは年度によって、増減があるものの、中ホールと併せて、ほぼ横ばいで推移しています。〔図表 2- 27～図表 2- 28〕

図表 2- 27 ライフポートとよはし利用者数の年度別推移



図表 2- 28 ライフポートとよはし利用者数の年度別推移とその平均（単位：人）

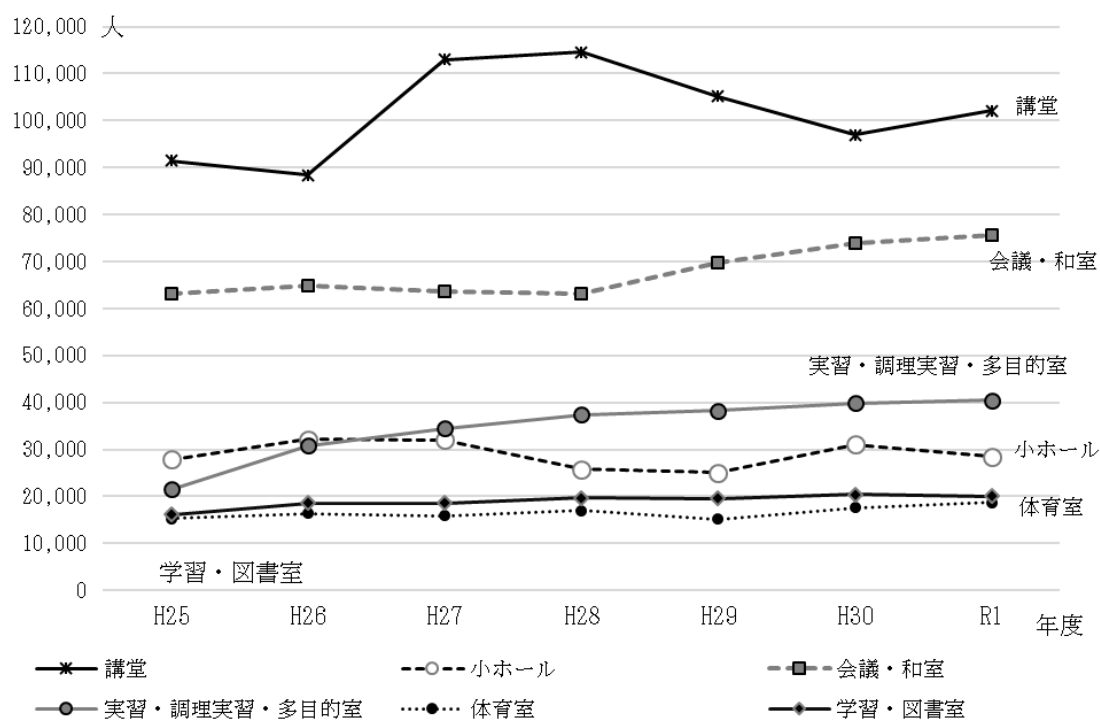
年度	コンサートホール	中ホール	合計
H22	66,159	37,218	103,377
H23	66,892	40,342	107,234
H24	81,140	45,641	126,781
H25	54,792	39,742	94,534
H26	67,798	40,523	108,321
H27	54,354	41,556	95,910
H28	67,137	39,593	106,730
H29	67,833	39,050	106,883
H30	57,815	39,712	97,527
R1	58,110	39,008	97,118
平均	64,203	40,239	104,442

③ アイプラザ豊橋における過去7年間*の利用者数とその傾向

アイプラザ豊橋の利用者数は、実習・調理実習・多目的室は、平成25年度に比べ利用者数は約1.9倍に増加しています。その他の諸室は、ほぼ横ばいで推移しています。〔図表2-29～図表2-30〕

※) 統計が10年に満たないのは、平成25年度より所管が愛知県から本市へ移行したため。

図表2-29 アイプラザ豊橋利用者数の年度別推移



図表2-30 アイプラザ豊橋利用者数の年度別推移とその平均 (単位: 人)

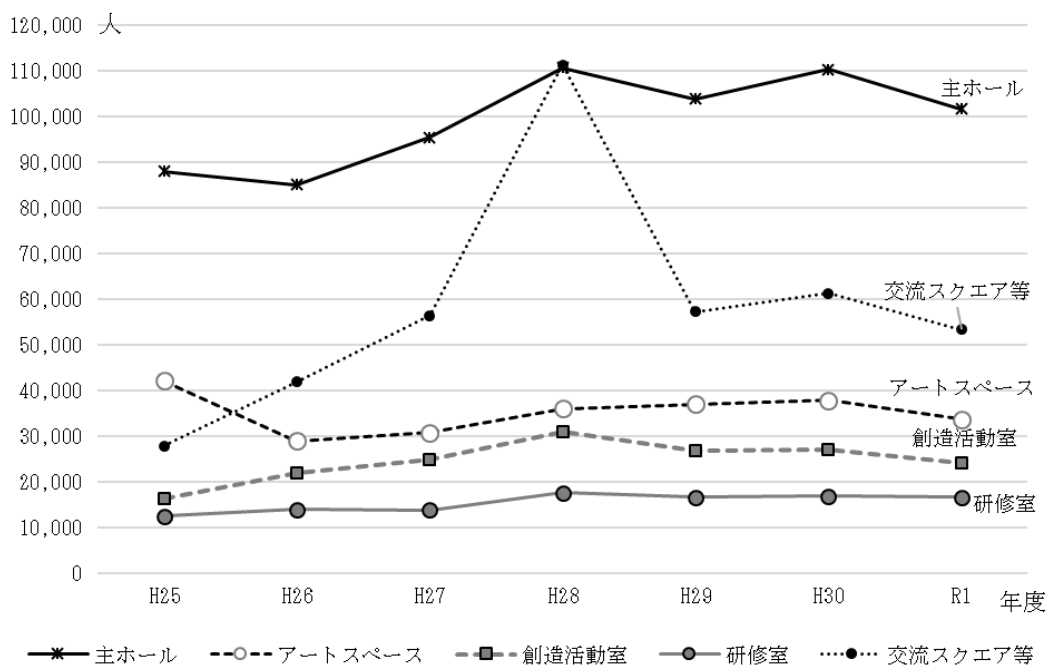
年度	講堂	小ホール	会議 和室	実習 調理実習 多目的室	体育室	学習 図書室	合計
H25	91,505	27,915	63,193	21,529	15,319	16,162	235,623
H26	88,429	32,161	64,808	30,785	16,415	18,533	251,131
H27	113,029	32,039	63,742	34,505	15,853	18,582	277,750
H28	114,581	25,780	63,185	37,373	17,016	19,671	277,606
H29	105,164	25,077	69,691	38,251	15,168	19,629	272,980
H30	96,933	31,046	73,792	39,923	17,566	20,429	279,689
R1	102,063	28,512	75,506	40,434	18,668	20,027	285,210
平均	101,672	28,933	67,702	34,686	16,572	19,005	268,570

④ 穂の国とよはし芸術劇場「プラット」における過去7年間※の利用者数とその傾向

穂の国とよはし芸術劇場「プラット」の利用者数は、平成28年度にピークがありますが、平成25年度と比べ、増加傾向にあります。〔図表2-31～図表2-32〕

※) 統計が10年に満たないのは、平成25年度より開設されたため。

図表2-31 穂の国とよはし芸術劇場利用者数の年度別推移



図表2-32 穂の国とよはし芸術劇場利用者数の年度別推移とその平均（単位：人）

年度	主ホール	アートスペース	創造活動室	研修室	交流スクエア等	合計
H25	88,033	42,149	16,338	12,435	27,837	186,792
H26	85,088	29,014	21,821	13,913	41,858	191,694
H27	95,428	30,805	24,856	13,828	56,357	221,274
H28	110,721	36,003	30,869	17,576	111,375	306,544
H29	103,868	37,037	26,782	16,576	57,292	241,555
H30	110,312	37,841	26,941	16,906	61,253	253,253
R1	101,713	33,651	24,071	16,573	53,349	229,357
平均	99,309	35,214	24,525	15,401	58,474	232,924

⑤ 各文化施設の稼働率と推移

豊橋市公共施設白書によると、各文化施設の平成 27 年度から令和元年度までの稼働率は、穂の国とよはし芸術劇場が 55%前後、ライフポートとよはしとアイプラザ豊橋が 50%前後、豊橋市民文化会館が 40%前後で推移しています。〔図表 2- 3 3〕

図表 2- 3 3 各文化施設の年度別稼働推移

年度	H27	H28	H29	H30	R1
豊橋市民文化会館	47.8%	43.4%	45.0%	49.0%	33.8%
ライフポートとよはし	46.6%	52.4%	52.5%	48.9%	45.7%
アイプラザ豊橋	47.0%	47.5%	51.2%	53.7%	54.5%
穂の国とよはし芸術劇場	50.7%	55.2%	59.5%	59.3%	53.3%

⑥ 各文化施設の利用時間帯統計

令和元年度の各文化施設の主ホールにおける利用時間帯別統計では、平日及び土日・祝日のどちらも終日利用が最も多い傾向となっています。〔図表 2- 3 4～図表 2- 3 5〕

図表 2- 3 4 平日の利用時間帯別統計〔利用回数〕

各文化施設	平日						合計
	終日	AM	PM	AM・PM	PM・夜間	夜間	
豊橋市民文化会館	23	2	0	10	4	12	51
ライフポートとよはし	35	4	2	15	5	15	76
アイプラザ豊橋	25	2	1	19	8	5	60
穂の国とよはし芸術劇場	18	1	0	5	7	5	36
時間帯別合計	101	9	3	49	24	37	223

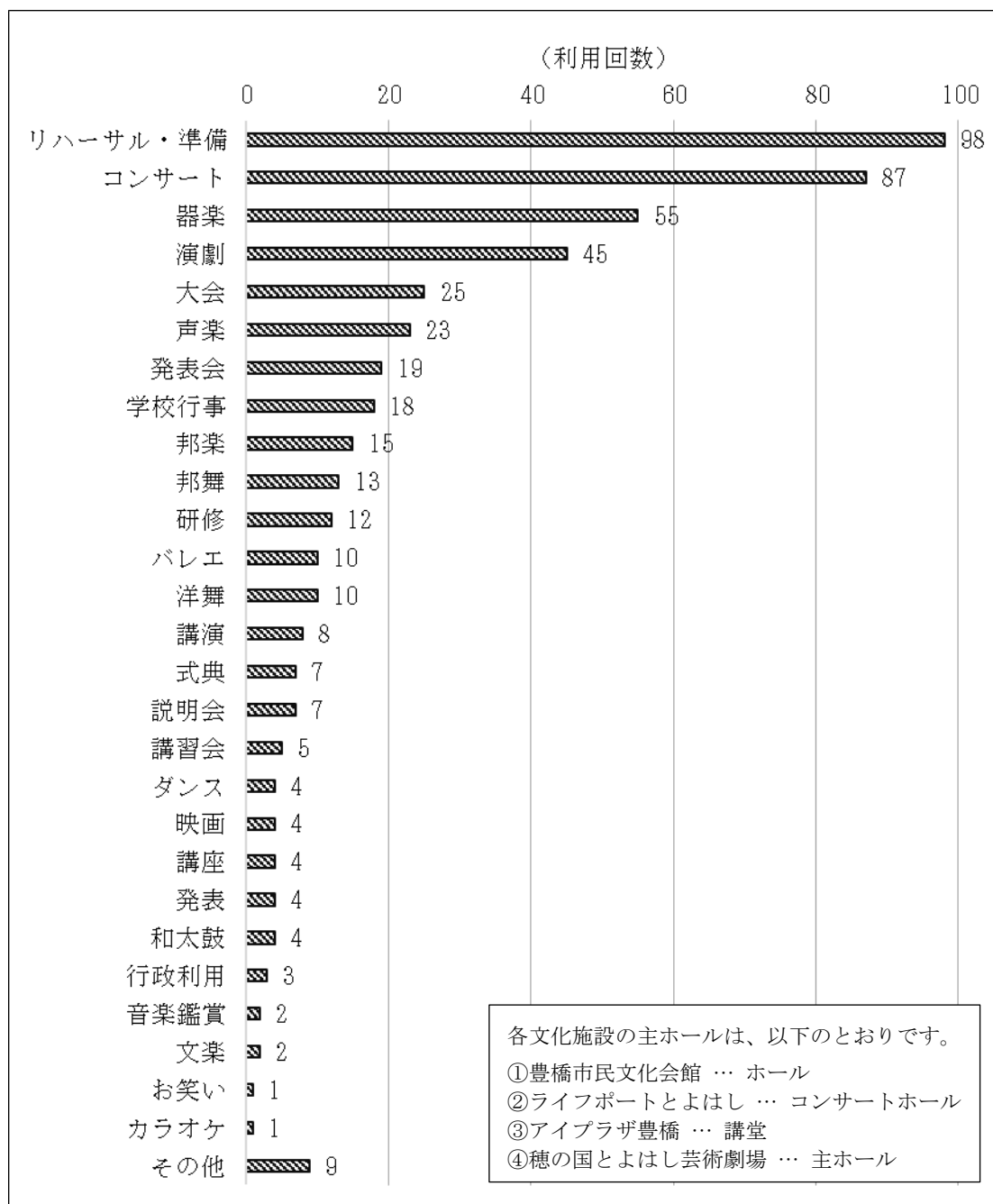
図表 2- 3 5 土日・祝日の利用時間帯別統計〔利用回数〕

各文化施設	土日・祝日						合計
	終日	AM	PM	AM・PM	PM・夜間	夜間	
豊橋市民文化会館	38	0	1	11	2	6	58
ライフポートとよはし	48	6	0	17	14	2	87
アイプラザ豊橋	63	3	2	12	2	0	82
穂の国とよはし芸術劇場	22	5	1	8	7	2	45
時間帯別合計	171	14	4	48	25	10	272

⑦ 全文化施設の利用目的別統計

令和元年度の各文化施設の主ホールにおける利用目的別の統計では、リハーサル・準備（98件）、コンサート（87件）の利用が多くみられます。また、器楽からカラオケ利用まで、非常に多岐に渡る利用がなされています。〔図表2-36〕

図表2-36 利用目的別の統計（全文化施設）



⑧ 各文化施設の利用目的別統計

令和元年度の各文化施設における利用目的別の統計分析は、以下のとおりです。

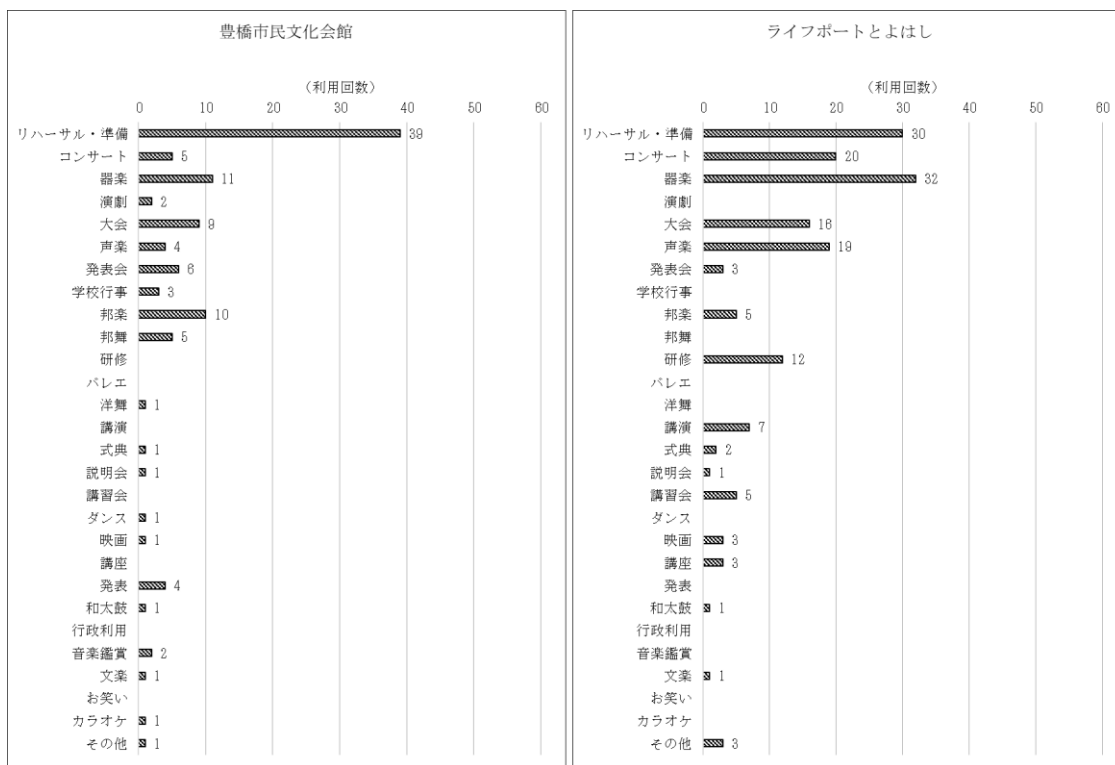
豊橋市民文化会館では、器楽（11件）、邦楽（10件）をはじめ、満遍なく多様な利用が見られます。〔図表2-37左〕

ライフポートとよはしでは、器楽（32件）、コンサート（20件）、声楽（19件）の利用が多く見られます。〔図表2-37右〕

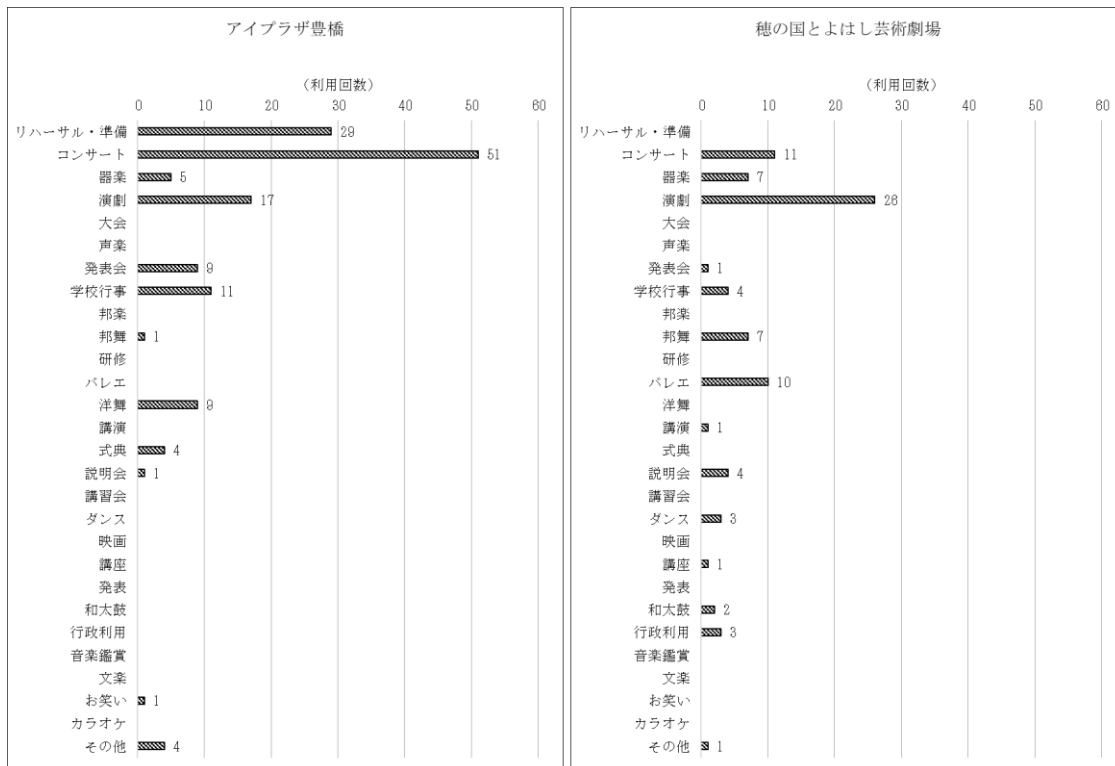
アイプラザ豊橋では、コンサート（51件）が特化して利用されています。〔図表2-38左〕

穂の国とよはし芸術劇場では、演劇（28件）がやや特化して利用されています。〔図表2-38右〕

図表 2- 3 7 各文化施設の利用目的別統計



図表 2- 3 8 各文化施設の利用目的別統計



(5) プロスポーツなどの試合や興行・イベントの開催実績

① Bリーグの開催実績

総合体育館をホームアリーナとする三遠ネオフェニックスの観客者数は、Bリーグが発足した2016-17シーズンからは約2,200人前後で推移しています。また、2019-20シーズンでは、新型コロナウイルスの影響により開催予定の試合の一部が行われず、13試合の開催となりましたが、平均観客数は2,913人と約3,000人近くまで増加しています。〔図表2-39〕

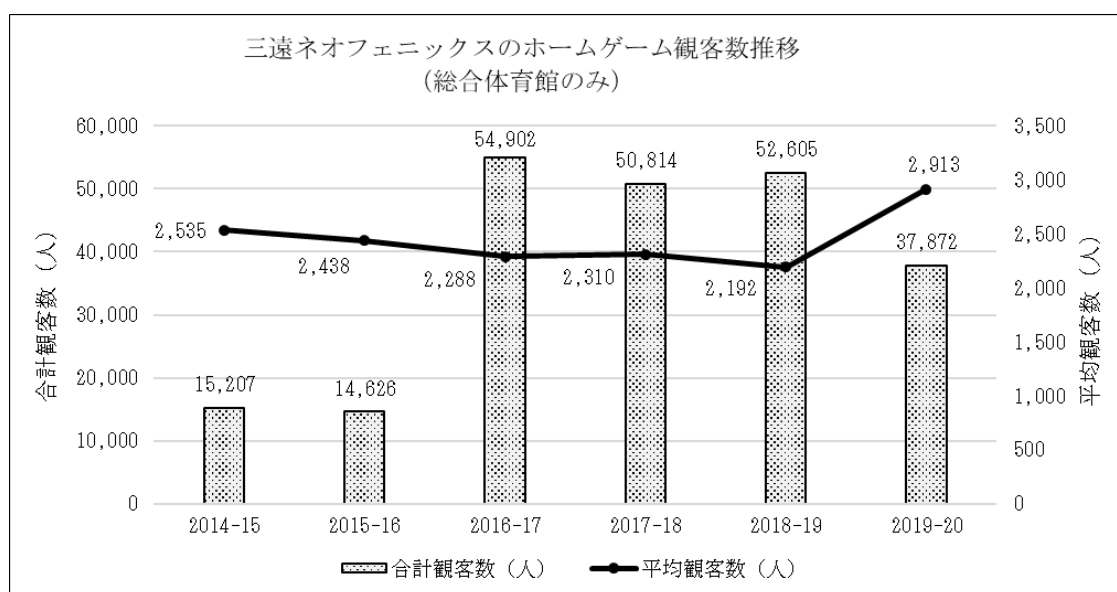
図表2-39 三遠ネオフェニックスの観客数推移（総合体育館のみ）
及びB1リーグの観客数推移

三遠ネオフェニックス	シーズン	試合数	合計観客数	平均観客数	最多観客数	最少観客数
	2014-15 ^{※1}	6	15,207人	2,535人	3,219人	1,642人
	2015-16 ^{※1}	6	14,626人	2,438人	4,037人	1,272人
	2016-17	24	54,902人	2,288人	4,498人	1,161人
	2017-18	22	50,814人	2,310人	3,908人	1,508人
	2018-19	24	52,605人	2,192人	3,816人	1,006人
	2019-20	13 ^{※2}	37,872人	2,913人	4,408人	1,916人
B1リーグ全体	シーズン ^{※3}	試合数	合計観客数	平均観客数	最多平均観客数	備考
	2016-17	540	1,500,828人	2,779人	4,503人 ^{※4}	※4) 千葉ジェッツのシーズン最多平均観客数
	2017-18	540	1,564,121人	2,897人	5,196人 ^{※4}	
	2018-19	540	1,662,119人	3,078人	5,204人 ^{※4}	
	2019-20	367	1,144,415人	3,118人	5,116人 ^{※4}	

※1) bjリーグ（浜松・東三河フェニックス）における試合数及び観客数

※2) 新型コロナウイルスの影響により、開催予定であった24試合のうち9試合が中止、開催された15試合中2試合が無観客試合となった

※3) 2016-17シーズンよりBリーグ発足のため、2014-15及び2015-16シーズンの資料なし



② Bリーグ以外の開催実績

総合体育館で開催されたBリーグ以外のプロスポーツなどの試合や興行・イベントの開催実績では、平成26年度のWリーグが2日間合計で2,138人でしたが、平成27年度以降は約2倍に増加して推移しており、総合体育館の2階観覧席(2,000席)を超える入場者数を記録しているものがみられます。〔図表2-40〕

図表2-40 平成26年度以降の総合体育館における主な興行・イベント実績

開催年度	開催名	競技種目等	入場者数	備考
毎年 体育の日	ウェルネス	複数のレクリエーション・スポーツ	約2,500人	
毎年11月上旬	みなとシティマラソン	マラソン	約4,000人	受付、待機所等として利用
隔年開催	ものづくり博	展示会	約20,000人	前回 平成30年6月
平成26年度	第16回Wリーグ 豊橋大会	女子バスケットボール	2,138人	2日間合計
	プロレス	プロレス	2,510人	4回開催合計
	ボクシング	ボクシング	1,730人	
平成27年度	女子ハンドボール国際 強化試合 日本代表 vs デンマーク 代表	女子ハンドボール	1,500人	
	第17回Wリーグ 豊橋大会	女子バスケットボール	4,000人	2日間合計
	プロレス	プロレス	2,956人	5回開催合計
平成28年度	大相撲豊橋場所	相撲	4,700人	
	第18回Wリーグ 豊橋大会	女子バスケットボール	4,100人	2日間合計
	プロレス	プロレス	2,300人	3回開催合計
	全日本マスターズハン ドボール大会	ハンドボール	980人	3日間合計
平成29年度	第19回Wリーグ 豊橋大会	女子バスケットボール	3,950人	2日間合計
	プロレス	プロレス	1,300人	2回開催合計
	全日本学生フェンシン グ王座決定戦	フェンシング	200人	2日間合計
	関西学生フェンシング 選手権大会	フェンシング	1,700人	6日間合計
平成30年度	プロレス	プロレス	1,000人	1回開催合計
令和元年度	ゴールボール リトアニア代表合宿及 び親善試合 (vs 日本代表)	ゴールボール	100~200人	
	テコンドー ドイツ代表合宿	テコンドー	-	
	武道祭	柔道、剣道、空手、日本 拳法	380人	

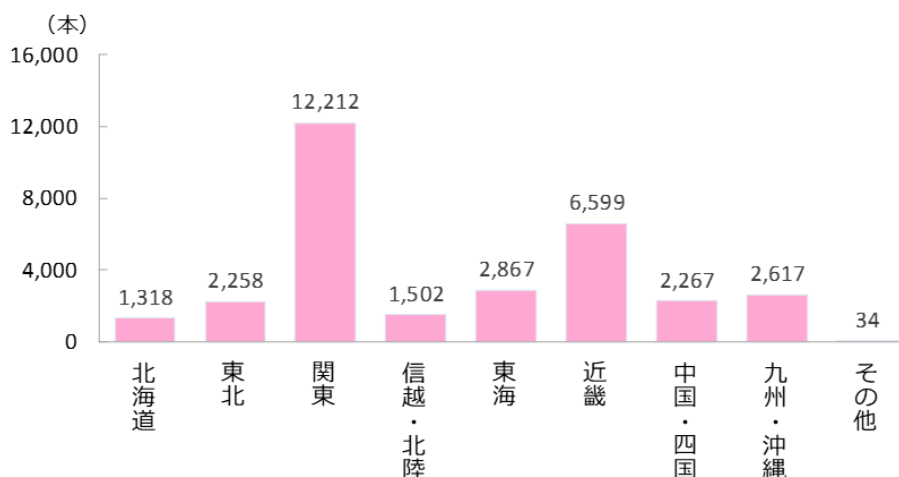
③ 愛知県内におけるコンサート市場

愛知県が属する東海地方の年間コンサート公演回数は、最も多い関東地方の1/4の市場規模となっていますが、関東、近畿に次ぐ回数のコンサート公演が開催されています。〔図表2-41〕

また、平成30年1月1日～同年12月31日までの期間において、愛知県内で開催された収容人数の規模別のステージ（舞台公演等）・コンサート公演数では、豊橋市民文化会館の座席数で対応できる490人規模までのステージ・コンサート公演が最も多くなっています。

本市ではアイプラザ豊橋の座席数が1,469人であり、それ以上の規模のステージ・コンサート公演を呼び込めない状況です。本市で需要が取り込めていない1,470～5,000人未満のステージ・コンサート公演の割合は全体の14.4%（公演数666本）になっており、これに対応できる規模の施設を整備することで、これまで呼び込めなかったステージ・コンサート公演（市場）をターゲットにすることができます。〔図表2-42〕

図表2-41 地域別年間コンサート公演回数（平成29年）



出所) 情報メディア白書 2019

図表2-42 愛知県内で開催された人数規模別のステージ・コンサート公演数

最大会場収容人数※1	公演数	割合 (%)	収容人数に対応する文化施設
0～490人	2,894	62.7	豊橋市民文化会館
491人～778人	722	15.6	穂の国とよはし芸術劇場「プラット」
779人～1,000人	38	0.8	ライブポートとよはし
1,001人～1,469人	152	3.3	アイプラザ豊橋
1,470人～5,000人	666	14.4	
5,001人～	147	3.2	

※1) 各会場の公表している会場収容人数の最大値（各公演の主催者設定席数とは異なる）

出所) ライブ・エンタテインメント白書 2019

2. 豊橋公園の立地環境及び法規制

(1) 豊橋公園及び周辺地域の概要

多目的屋内施設の建設候補地として考えられる豊橋公園は、豊橋駅から北東に約1.8kmの場所に位置し、豊橋市民のシンボリック公園となっています。公園内の東側には、陸上競技場、豊橋球場、武道館、テニスコート（硬式・軟式）等のスポーツ施設もあるほか、公園内の西側には、吉田城址、美術博物館、三の丸会館といった文化施設もあり、幅広い利用ができる公園として広く市民に親しまれている公園です。〔図表2-43～図表2-45〕

図表2-43 位置図

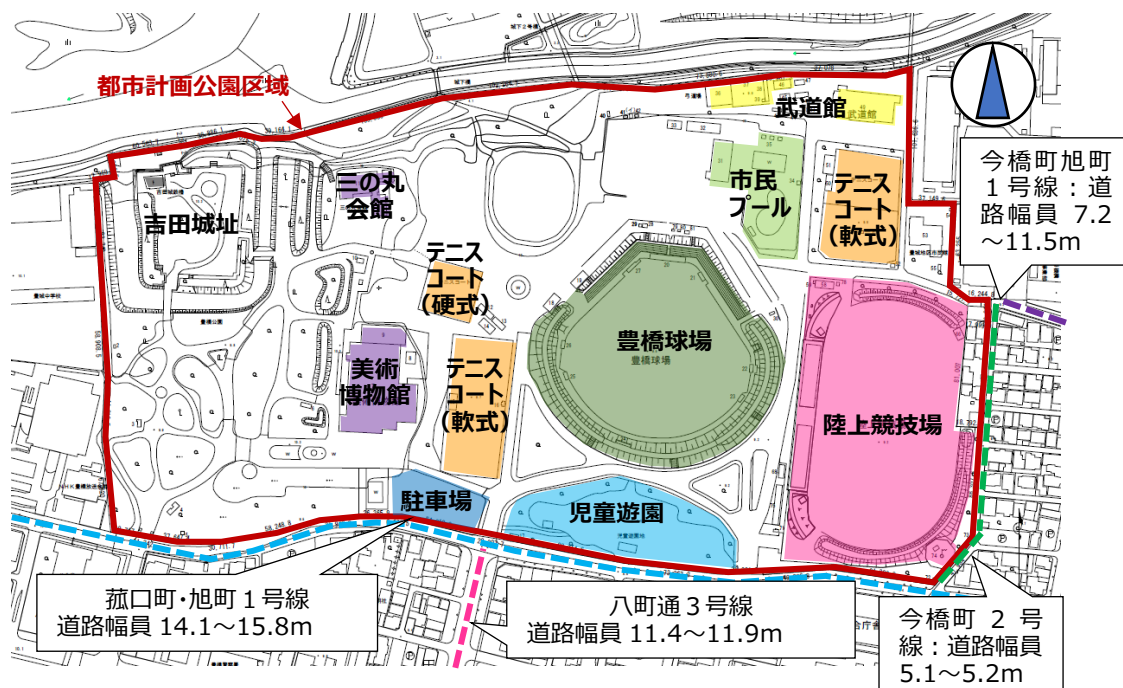


出所) 国土地理院

図表2-44 豊橋公園の概要

所在地	愛知県豊橋市今橋町地内
公園面積	21.64 ha
土地所有者	財務省東海財務局（国有地）
公園管理者	豊橋市
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸上競技場：第3種公認全天候型トラック型 1周400m 8レーン ・ 豊橋球場：両翼100m、中央116m 軟式野球、硬式野球、ソフトボール、ナイター照明有 ・ 武道館：柔道場（3面）、剣道場（3面）、弓道場（遠的・近的）、相撲場、トレーニング室 ・ 硬式テニスコート：全天候型コート2面、ナイター照明有 ・ 軟式テニスコート：クレーコート12面、ナイター照明有（6面） ・ 吉田城址、美術博物館、三の丸会館

図表 2- 4 5 豊橋公園の既存施設の配置



(2) 豊橋公園における用途等

豊橋公園は、都市計画公園「豊橋公園」として、都市計画決定（昭和 22 年 5 月）された公園です。その他、豊橋公園における用途等を整理した概要は以下のとおりです。

〔図表 2- 4 6〕

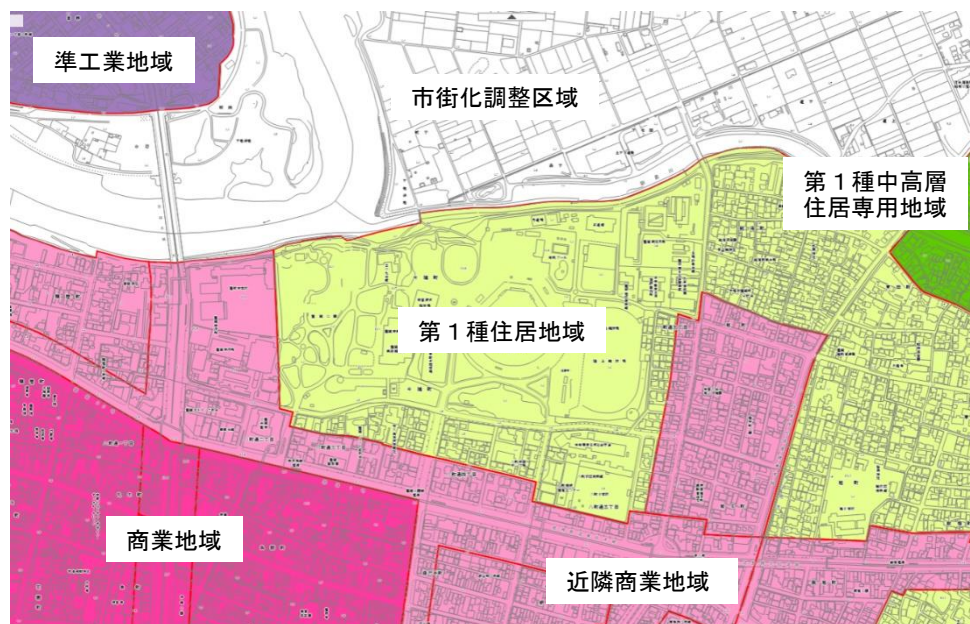
図表 2- 4 6 豊橋公園における用途等の概要

都市公園の種類	基幹公園-都市基幹公園-総合公園
区域区分	市街化区域
用途地域	第 1 種住居地域
建ぺい率/容積率	(都市公園) 12% (公園施設 2%、運動施設等 10%) (風致地区) 40% / 200% (都市計画) 60% / 200%
防火指定	準防火地域
防災上の位置づけ	防災活動拠点/広域避難場所
風致地区	今橋風致地区 (第 3 種風致地区)
埋設文化財法	埋設文化財包蔵地
立地適正化計画	都市機能誘導区域、歩いて暮らせるまち区域
その他	国有地の無償貸与により、豊橋市が公園管理。 施設ごとに指定管理者制度を適用して運営維持管理。 公園内の緑地部分は業務委託にて維持管理。

① 用途地域：第1種住居地域

豊橋公園の用途地域は、周辺を近隣商業地域に囲まれた第1種住居地域に指定されています。〔図表2-47〕

図表2-47 用地地域



出所) 豊橋市HP

② 防火指定：準防火地域

豊橋公園及びその周辺は、準防火地域に指定されています。〔図表2-48〕

図表2-48 防火指定

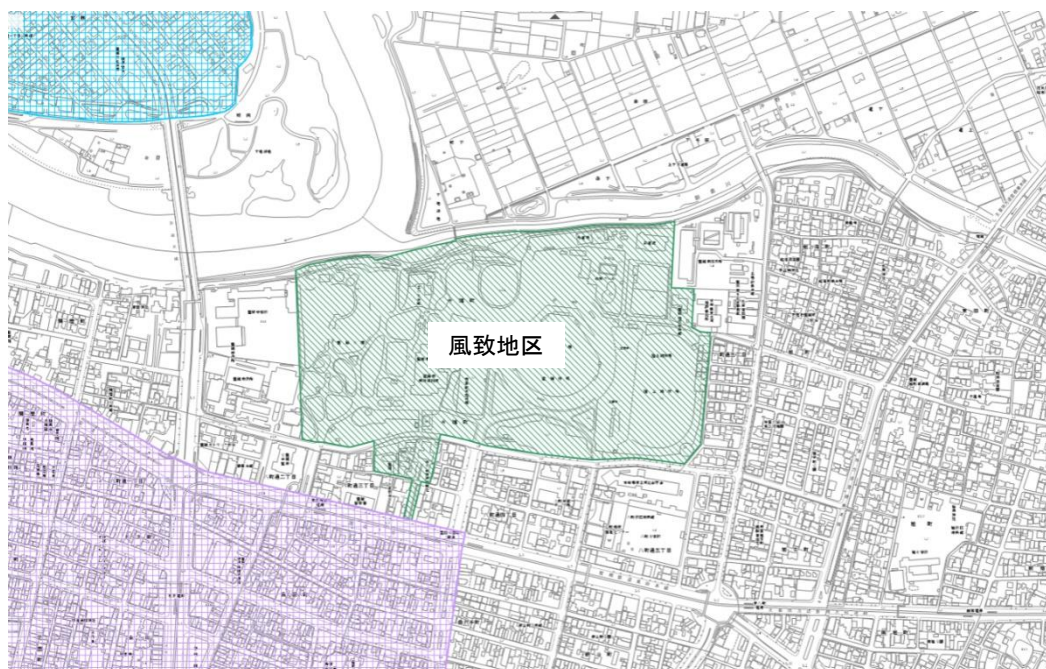


出所) 豊橋市HP

③ 風致地区：今橋風致地区（第3種風致地区）

豊橋公園及び公園南側周辺の一部は、今橋風致地区（第3種風致地区）に指定されています。〔図表2-49〕

図表2-49 風致地区



出所) 豊橋市 HP

④ 埋設文化財法：埋設文化財包蔵地

豊橋公園及びその周辺は、埋設文化財包蔵地の区域になっています。〔図表2-50〕

図表2-50 埋設文化財包蔵地の範囲



出所) 豊橋市 HP

(3) 豊橋公園内の建築物に関する整理

豊橋公園内に立地されている各既存建物を抽出し、現地調査により現存の有無を確認しました。

① 既存建物の整理

多目的屋内施設の建築可能な建物規模を算出するために、豊橋公園内に立地されている各既存建物について、都市公園法第2条に規定されている公園施設の種類別に建築面積、延べ面積の合計を整理しました。〔図表2-51〕

図表2-51 公園施設の種類別面積集計表

公園施設の種類	主な建築物	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	都市公園法施行 令第6条におけ る建ぺい率緩和 規定の適用
休養施設 (法第2条第三号)	東屋	16.15	16.15	○
運動施設 (法第2条第五号)	陸上競技場、豊橋球 場、武道館 等	3,765.93	6,212.74	○
教養施設 (法第2条第六号)	美術博物館 等	4,089.10	5,644.24	○
便益施設 (法第2条第七号)	三の丸会館、便所、駐 輪場 等	901.57	750.62	×
管理施設 (法第2条第八号)	管理事務所、倉庫 等	849.61	824.53	×
その他 (法第2条第九号)	防災備蓄倉庫 等	327.99	327.99	○
	豊城地区市民館 等	490.77	813.58	×
面積 合計		10,441.12	14,589.85	
内 都市公園法施行令第6条における建ぺ い率緩和規定の適用 建築面積合計		8,199.17	-	

※上記に記載されている以外の法第2条に規定されている公園施設については、建ぺい率及び容積率に関わるものでないため除外する。

都市公園法第4条において、都市公園内に立地することが可能な建ぺい率は、2%と定められていますが、運動施設等の公園施設については、同法施行令第6条に建ぺい率10%を上限に建築可能となっています。

② 建ぺい率及び容積率の整理

上記①で算出した結果をもとに、建築基準法及び都市公園法ごとに建ぺい率及び容積率を整理しました。〔図表 2- 5 2〕

図表 2- 5 2 建ぺい率と容積率

項 目		値
公園敷地面積		216, 400. 58 m ²
建築面積	建築基準法施行令第 2 条第 1 項第二号	10, 441. 12 m ²
	都市公園法第 4 条 (2%)	2, 241. 95 m ²
	都市公園法施行令第 6 条 (10%)	8, 199. 17 m ²
建ぺい率	建築基準法第 53 条	4. 8%
	都市公園法第 4 条 (2%)	1. 0%
	都市公園法施行令第 6 条 (10%)	3. 8%
容積率	建築基準法第 52 条	6. 7%

③ 多目的屋内施設の建築可能な面積の整理

多目的屋内施設の建築可能な面積の上限について、既存の市民プールと武道館を撤去しない場合とする場合の 2 パターンを算出しました。

また、多目的屋内施設の用途について、各種スポーツ競技での利用のほかに、コンサートなどの利用を想定した場合、都市公園法上においては、「運動施設」及び「教養施設」に位置付けられます。〔図表 2- 5 3〕

図表 2- 5 3 多目的屋内施設の建築面積の上限

項 目		値
既存の市民プールと武道館を撤去しない場合	建ぺい率	3. 8%
	都市公園法施行令第 6 条 (10%)	
	多目的屋内施設の建築面積の上限	13, 440. 89 m ²
既存の市民プールと武道館を撤去した場合	建築面積 (8, 199. 17 m ²) - 撤去面積 (1, 611. 39 m ²)	6, 587. 78 m ²
	建ぺい率	3. 0%
	都市公園法施行令第 6 条 (10%)	
	多目的屋内施設の建築面積の上限	15, 052. 28 m ²

(4) 多目的屋内施設の整備に係る法規制と対応方針

多目的屋内施設の整備内容に係る法規制とその対応方針について、整理を行いました。〔図表 2- 5 4〕

図表 2- 5 4 法規制と対応方針

項目	内容	関係法令・条例等	対応方針
用途地域	第一種住居地域 建ぺい率 60%、容積率 200% 観覧場建築不可。公園施設（一部除外）の合計が 3,000 m ² を超えるもの建築不可。建築する場合は建築許可必要。	都市計画法 建築基準法	用途規制の対応については、①建築基準法第 48 条ただし書きの許可、②特別用途地区による用途規制緩和（都市計画法）、③特定用途誘導地区による用途規制緩和（都市再生特別措置法）の 3 通りが考えられる。
風致地区	第 3 種風致地区 建ぺい率 40% 建築物の最高高さ制限 15m 以下。	都市計画法 豊橋市風致地区内における建築等の規制に関する条例	多目的屋内施設の位置や形態を豊橋公園の景観と調和させることを検討する。
景観関係	景観法に基づく景観計画による規制 (令和 3 年度施行予定)	景観法 豊橋市まちづくり 景観条例	多目的屋内施設の位置や形態を景観計画に定める景観形成基準に適合させることを検討する。
都市公園	公園種別:総合公園 都市計画公園 都市計画決定 (S22.5) 公園施設の建ぺい率 2%まで (法第 4 条)、運動施設等を建築する場合に限り+10%まで可能。(施行令第 6 条)	都市公園法 豊橋市都市公園条例	建物調査結果と今後の公園整備を踏まえ、適正な施設規模を設定する。
文化財関係	遺跡名:吉田城址(豊橋公園全域) 工事に着手する前に、埋蔵文化財の発掘調査を行う必要あり。	文化財保護法	多目的屋内施設の配置計画が概ね決定した段階で、所管部局とスケジュール等について協議を行う。
公園施設使用上の制限	東海財務局との無償借地契約により、公園施設は営利を目的とする用途については、協議が必要。	国有財産無償貸付契約書	興業時における多目的屋内施設の利用について、協議を行う。
その他 (埋設管)	中部電力送電線があり、埋設管に干渉する場合は、事前協議が必要。		埋設管移設の影響を踏まえた多目的屋内施設の配置検討を行う。

3. 防災への対応

近年、地球温暖化による異常気象等による豪雨や河川の氾濫、南海トラフ地震への懸念など、災害に対するリスクが高まっています。災害時においてもより強靱な都市機能を維持していくため、既存の豊橋公園の防災機能を把握したうえで、多目的屋内施設の担うべき防災機能を抽出し、豊橋市全体の防災機能の向上に寄与する検討を進めます。

(1) 豊橋公園の防災機能と各施設の役割

豊橋公園は、有事の際に災害対応を効果的に実施するために、受援のための自衛隊、警察、消防等の集結や集積活動拠点となる防災活動拠点（地域・地区）に指定されています。公園内の陸上競技場や野球場などの各施設は、発災時から救援部隊の活動拠点としての役割を担うこととしています。また、ボランティア活動拠点や応急仮設住宅建設用地等の候補地としての利用が検討されています。

(2) 豊橋公園の防災施設

豊橋公園において、現在設置されている防災施設は、以下のとおりです。〔図表 2- 5 5〕

図表 2- 5 5 豊橋公園に設置されている防災施設

項目	防災施設
水	・ 飲料水兼用耐震性貯水槽（100 立方メートル）
トイレ	・ 災害用マンホールトイレ（24 基）
その他	・ 同報系防災行政無線 ・ 防災備蓄倉庫 ・ 防災情報ステーション（災害時対応型 無料 Wi-Fi）1 か所

(3) 都市公園で導入が検討される防災関連公園施設等

防災公園の計画・設計・管理運営ガイドライン（改訂第2版）／国土交通省を参考に防災公園として導入すべき機能に対応する防災関連公園施設等は、以下のとおりです。

〔図表2-56〕

図表2-56 主な防災関連公園施設等

項目	防災機能
園路等	・ 緊急車両や自衛隊車両が搬出入できる幅員の確保（出入口、外周、園路、駐車場）
水	・ 非常用井戸、耐震性貯水槽、手くみポンプ
電気	・ 非常用電源設備（ディーゼル、ガス）、非常用照明設備（ソーラー式）
トイレ	・ マンホール型トイレ、汚水貯留機能付トイレ
その他	・ 備蓄倉庫、放送設備

(4) スポーツ施設における災害時の活用事例

災害時において、スポーツ施設を活用した事例は、以下のとおりです。〔図表2-57〕

図表2-57 災害時の活用事例一覧

事例	施設諸元	施設の防災機能	災害時の活動事例
さいたまスーパーアリーナ（埼玉県）	開設年 平成12年 延べ面積 132,397.75 m ² メインアリーナ フロアサイズ 14,600 m ²	救援物資の備蓄機能、集配機能、被災者等避難機能	東日本大震災による避難者（約2,500人）を受け入れて、アリーナ内コンコースを避難拠点機能として活用した。
あずま総合体育館（福島県）	開設年 平成7年 延べ面積 - m ² メインアリーナ フロアサイズ 2,744.30 m ²	福島市地域防災計画で指定する避難場所	東日本大震災による避難者（195日間で延べ11万人）を受け入れて、メインアリーナを避難拠点機能、和室や研修室を個室が必要な避難者の受け入れに活用、屋内駐輪場を避難者のペットを飼育する場所として活用した。
熊本県民総合運動公園陸上競技場（熊本県）	開設年 平成10年 延べ面積 - m ² グラウンドサイズ 7,490 m ²	広域防災活動拠点	熊本地震において、救援物資をスタジアムのスタンド下屋内練習用トラックに集積し、各地の避難所からの注文に応じて物資を配送した。 また、駐車場やオープンスペースは、避難拠点機能（車中泊、テント泊の用地）として提供した。

(5) スポーツ施設における防災機能の導入事例

スポーツ施設における防災機能を導入した事例は、以下のとおりです。〔図表 2- 5 8〕

図表 2- 5 8 防災機能が導入された事例一覧

事 例	施設諸元	防災拠点の指定	導入された防災機能
沖縄多目的アリーナ (沖縄県)	開設年 (予定) 令和 3 年 延べ面積 27,000.00 m ² メインアリーナ フロアサイズ - m ²	救援物資の備蓄機能、集配機能、被災者等避難機能	○メインアリーナ 土間コンクリートであることから、屋外からそのまま車両が乗り入れすることが可能となり、風雨にさらされることなく救援物資の仕分けを行い、スムーズな搬入搬出を行うことができる。 ○サブアリーナ 災害時において治療が必要な方のスペースとして、ベッドを約 170 床設置することが可能。 ○多目的室 高齢者、妊婦、乳幼児等の災害時要援護者に対し、一定程度のプライベート空間を配慮できる施設として活用が可能。
袋井市総合体育館 (静岡県)	開設年 令和 2 年 延べ面積 7,768.51 m ² メインアリーナ フロアサイズ 1,896.65 m ²	指定避難所 (収容人数: 約 1,500 人)	必要な備品・資機材の保管スペースとして備蓄倉庫 (約 120 m ²) を整備。 設備面では、非常用電源設備を設置するとともに、非常用飲料水として使用するための耐震性貯水槽 (100t) やマンホールトイレを敷地内に整備。
神栖中央公園防災アリーナ (茨城県)	開設年 令和元年 延べ面積 20,017.00 m ² メインアリーナ フロアサイズ 2,410.00 m ²	地域防災拠点	メイン・サブアリーナ、トレーニング室の防災機能は、避難スペース、救援救護スペースとして活用。また、音楽ホールは、上記に加え、避難者への災害対応などの説明会場として活用。 温水プール等の防災機能は、生活用水や避難者の入浴施設として活用。 展望デッキや駐車場等の防災機能は、津波発生時の一時避難スペース、救援車両の駐車場、屋外救援救護スペース、ペットの一時避難スペースとして活用。
吹田スタジアム (大阪府)	開設年 平成 28 年 延べ面積 - m ² メインアリーナ フロアサイズ - m ²	備蓄拠点	○観客スタンド下のスペース 約 600 m ² を活用し、飲料水、毛布、トイレットペーパーを備蓄 ○啓発協力 防災講座、段ボールベッド組立体験、備蓄倉庫見学

4. 新しい生活様式への対応

新型コロナウイルス感染症により、スポーツ施設における利用者数や入場者数の制限、ソーシャルディスタンスを考慮した観戦スタイルの運用等、人々の生活様式やスポーツ施設のあり方が見直されています。

多目的屋内施設の諸室規模や配置の検討等において、国や他事例の動向を踏まえ、特に換気機能や密になる空間（更衣室、休憩スペース、洗面所等）をはじめとする施設の設えに着目し、留意すべき事項とすることで、新しい生活様式へ対応した施設を目指します。

(1) プロスポーツ等の催物における出来事

プロスポーツ等の催物における新型コロナウイルス感染症に関連する主な出来事を時系列順に整理しました。〔図表2-59〕

図表2-59 プロスポーツ等の催物における主な出来事（令和2年）

日時	主な出来事
2月21日	Jリーグ、2020 明治安田生命 J1 リーグ開幕
2月26日	Bリーグ、2月28日～3月11日の全99試合のB1・B2リーグ戦開催延期を発表
3月11日	Bリーグ、2019-20 リーグ戦の無観客での試合再開を発表
3月12日	Jリーグ、3月18日～3月29日 開催予定のリーグ戦すべての試合の開催延期を発表
3月17日	Bリーグ、3月20日～4月1日 の計95試合のB1・B2リーグ戦開催中止を発表
3月25日	Jリーグ、4月3日～5月6日に開催予定のJ1, 2, 3リーグ戦、YBCルヴァンカップの再延期を発表
3月27日	Bリーグ、2019-20 シーズン 全試合中止を発表
4月7日	7都府県に緊急事態宣言
4月16日	緊急事態宣言を全国に拡大
4月30日	Jリーグ、6月7日（日）までの試合開催延期を発表
5月25日	緊急事態の解除宣言、全国で解除 イベントの参加人数を感染予防対策を講じたうえで、屋内は収容率50%以内、人数上限を100人まで
6月19日	プロ野球開幕 イベントの参加人数を感染予防対策を講じたうえで、屋内は収容率50%以内、人数上限を1,000人まで
6月27日	J2再開、J3開幕
7月4日	2020 明治安田生命 J1 リーグ再開
7月10日	イベントの参加人数を感染予防対策を講じたうえで1,000人だった上限を5,000人まで引き上げ。無観客で開催されていたプロスポーツも5,000人以下での観戦が可能にプロ野球、Jリーグ、観客あり試合に移行。上限5,000人を発表
8月6日	愛知県緊急事態宣言（8月24日愛知県緊急事態宣言、解除）
10月2日	Bリーグ、2020-21 シーズン開幕
11月12日	12月1日以降の催物の開催制限について、基本的に当面来年2月末まで現在の取扱（5,000人又は収容定員の50%のいずれか大きい方を上限）を維持

出所) 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室の事務連絡、日本プロサッカー協会「再開に向けたJリーグの取り組み」、日本バスケットボール協会HPより作成

(2) 国の動向

スポーツ庁では、令和2年5月4日に改正された「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を受けて、社会体育施設を再開するに当たっての基準や、再開後の感染拡大予防のための留意点について、専門家会議の提言等を参考にして、まとめた社会体育施設の再開に向けた感染拡大防止ガイドライン（令和2年9月29日改訂）を発表しました。同ガイドラインでは、スポーツ施設の利用者、施設管理者がそれぞれ留意すべき事項が記載されています。

施設管理者が準備すべき事項の対応（同ガイドライン抜粋）

●手洗い場所

- 手洗い場には石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（利用者にマイタオルの持参を求めても良い。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること）
- 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒用薬を用意すること

●更衣室（シャワー室を含む）、休憩スペース

- 広さにはゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避けること（障がい者の介助を行う場合を除く）
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する等の措置を講じること
- 室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、こまめに消毒すること
- 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮すること
- スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする

●洗面所（トイレ）

- トイレ内の複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒すること
- トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること
- 手洗い場には石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意すること（利用者にマイタオルの持参を求めても良い。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること）

●スポーツ用具の管理

- 利用者にスポーツ用具を持参してもらうよう周知すること

- やむを得ず共用するスポーツ用具については、手が頻回に触れる箇所を工夫して最低限にした上で、こまめに消毒すること
- スポーツ用具の貸出を行う場合は、
 - 貸出を行った利用者を特定できる工夫をすること
 - 貸出前後に消毒すること
- 観客の管理
- 施設に観客も入場させる場合には、観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとること
- 大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知すること
- 運動・スポーツを行う施設の環境
- 換気設備を適切に運転することや、定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと
- 体育館の床をこまめに清掃すること
- プールの水質基準を適切に管理するなど、関係法令等に従うこと
- プールにおいては、例えば遊泳プール等で密な状態（いわゆる芋洗い状態）とならないようにすること
- 体育館等の施設においても、密な状態とならないようにすること
- 施設の入口
- 手指の消毒設備を設置すること
- 施設利用時の利用者が遵守すべき事項のチェックリストを掲示すること
- ゴミの廃棄
- 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用すること
- マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒すること
- 清掃・消毒
- 市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃すること
- 通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を、始業前、終業後に清拭消毒すること
- その他
- イベント主催者等が運動・スポーツの際の栄養補給等として飲食物を利用者に提供する際は、以下などに配慮して適切に行うこと
 - 利用者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること
 - スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙カップで提供すること
 - 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

(3) 他事例の動向

新型コロナウイルス感染症対策として、スタジアムやアリーナの施設機能を転用した国内外の事例は以下のとおりです。〔図表 2- 6 0〕

図表 2- 6 0 スポーツ施設が活用された事例一覧

事 例		内 容
施設機能の転用 (医療系)	カシマスタジアム (茨城県)	ドライブスルー方式によるPCR検査会場として、施設機能を転用した事例。
	プリンシパリティスタジアム (イギリス)	2,000 人の患者を収容できる一時的な野営病院として提供。格納式の屋根を閉じて、競技場にテントなどの仮設の施設を設置した事例。
	エスタディオドドラガン (ポルトガル)	スタジアムを開放して、野外病院の設立や医療スタッフのための休憩場所の提供を行い、医療支援をした事例。
	トッテナム・ホットスパー・スタジアム (イギリス)	新型コロナウイルスの感染者を治療している病院の病床開放に向け、スタジアムで婦人科外来の患者を受け入れた事例。また、妊娠中の患者を適切な医療機関に送るための管制センターの役割も果たす。
施設機能の転用 (物流系)	ユナイテッド・センター (アメリカ)	寄付などで集まった個人用保護具(PPE)の集積所として施設機能を転用し、物流ハブとして行政を後方支援した事例。
設備の改修	東京ドーム (東京都)	換気機能の向上や三密になりやすいトイレについて、三密を緩和するためにトイレの増設等の改修を計画している事例。

5. 利用者ニーズの把握

(1) 意向調査（アンケート調査）

多目的屋内施設に必要とされる規模や機能について検討を進めるにあたり、日頃より豊橋市内の文化施設又は屋内スポーツ施設を利用している豊橋市体育協会の加盟団体（協会）とその協会に所属しているクラブチーム、イベント等の主催を行っている団体を対象にアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の対象とした理由は以下のとおりです。〔図表 2- 6 1〕

図表 2- 6 1 調査対象の選定理由

アンケート調査対象	調査対象とした理由
豊橋市体育協会の加盟団体（協会）	・ 普段の練習利用だけでなく、大会やイベント利用において、どれくらいの施設規模や機能が必要かを把握するため。
協会に所属しているクラブチーム※	・ 普段の練習利用に関して、日常的なニーズを把握するため。
イベント等の主催を行っている団体	・ スポーツ利用以外の利用用途のニーズを把握するため。

※令和 2 年 9 月 16 日から同年 10 月 16 日までの期間中、市内スポーツ施設を利用したクラブチームを対象（アンケート票の配布）としたため、豊橋市体育協会の加盟団体（協会）に所属していないクラブチームも含まれる。

(2) 豊橋市体育協会の加盟団体（協会）のアンケート調査結果

豊橋市体育協会の加盟団体（協会）のうち、屋内競技を実施している 17 団体から回答を得ることができました。

① 実施している競技種目、所属人数、年齢構成

回答が得られた競技団体において、実施している競技種目は以下のとおりです。〔図表 2- 6 2〕

各競技団体の所属している人数は豊橋卓球協会と豊橋バレーボール協会に所属している人数が最も多く、2,000 名以上となっています。また、年齢構成では競技団体の約半数が 10 代以下と最も多い年齢構成になっています。〔図表 2- 6 3〕

図表 2- 6 2 競技団体名と実施している競技種目一覧

	競技団体名	実施している競技種目
1	豊橋卓球協会	卓球（硬式、ラージボール）
2	豊橋ハンドボール協会	ハンドボール
3	豊橋レクリエーション協会	ゲートボール、ペタンク、グラウンドゴルフ、フロアボール、タスポニー、ターゲットバードゴルフ、ミニテニス、3B体操、その他のレクリエーション活動
4	豊橋柔道会	柔道
5	豊橋バスケットボール協会	バスケットボール
6	愛知県中小学校体育連盟 豊橋支所	中学校部活動すべての種目
7	豊橋バドミントン協会	バドミントン
8	豊橋アーチェリー協会	全日本アーチェリー連盟競技規則による種目（30m、50m、70m、18m）
9	豊橋市剣道連盟	剣道、居合道、杖道
10	日本拳法豊橋協会	日本拳法（格闘技）
11	豊橋弓道協会	弓道（近的・遠的）
12	豊橋ソフトテニス協会	ソフトテニス
13	豊橋インディアカ協会	インディアカ
14	豊橋バレーボール協会	バレーボール
15	豊橋空手道連盟	空手道
16	豊橋少林寺拳法協会	少林寺拳法
17	豊橋市相撲協会	相撲

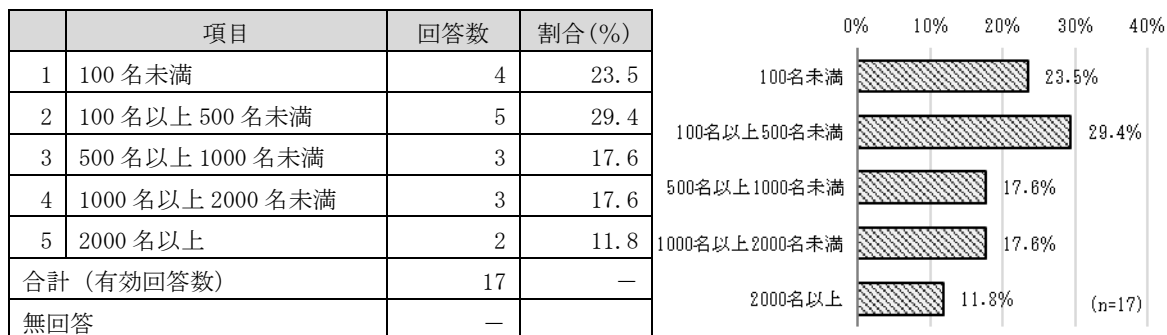
図表2-63 競技団体名と所属している人数と最も多い年齢構成

	競技団体名	所属している人数	最も多い年齢構成
1	豊橋卓球協会	2,000名以上	10代以下
2	豊橋ハンドボール協会	100名未満	30代
3	豊橋レクリエーション協会	1,000名以上 2,000名未満	60代以上
4	豊橋柔道会	100名以上 500名未満	40代
5	豊橋バスケットボール協会	500名以上 1,000名未満	10代以下
6	愛知県中小学校体育連盟 豊橋支所	500名以上 1,000名未満	10代以下
7	豊橋バドミントン協会	1,000名以上 2,000名未満	50代
8	豊橋アーチェリー協会	100名未満	60代以上
9	豊橋市剣道連盟	1,000名以上 2,000名未満	10代以下
10	日本拳法豊橋協会	100名以上 500名未満	10代以下
11	豊橋弓道協会	100名以上 500名未満	50代
12	豊橋ソフトテニス協会	100名以上 500名未満	20代
13	豊橋インディアカ協会	100名以上 500名未満	50代
14	豊橋バレーボール協会	2,000名以上	30代
15	豊橋空手道連盟	500名以上 1,000名未満	10代以下
16	豊橋少林寺拳法協会	100名未満	10代以下
17	豊橋市相撲協会	100名未満	10代以下

② 所属人数

競技団体に所属している人数は、100名以上500名未満が最も高い割合を占めています。〔図表2-64〕

図表2-64 所属人数における回答結果



③ 年齢構成

競技団体の年齢構成は、10代以下が最も多い競技団体が全体の約半数を占めています。〔図表2-65〕

図表2-65 年齢構成における回答結果

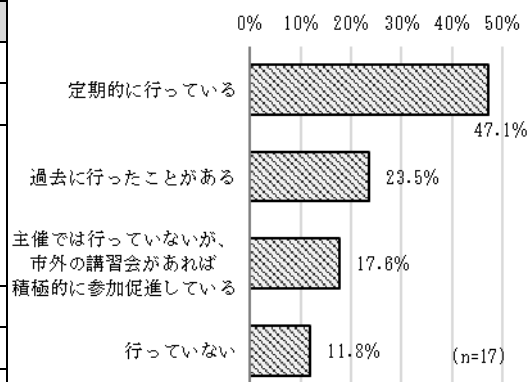


④ 講習会の開催

回答が得られた競技団体で指導者、審判等の講習会を定期的に行っている競技団体が全体の半数を占めています。〔図表2-66〕

図表2-66 講習会の開催における回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	定期的に行っている	8	47.1
2	過去に行ったことがある	4	23.5
3	主催では行っていないが、市外の講習会があれば積極的に参加促進している	3	17.6
4	行っていない	2	11.8
合計(有効回答数)		17	—
無回答		—	—



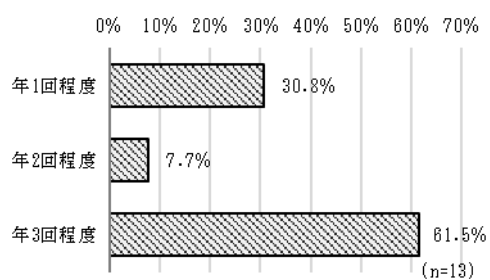
⑤ 専門家(指導者、審判員)の育成

a) 実施回数

講習会の実施回数は、年3回程度開催している競技団体が全体の約6割を占めています。〔図表2-67〕

図表2-67 講習会の実施回数における回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	年1回程度	4	30.8
2	年2回程度	1	7.7
3	年3回程度	8	61.5
合計(有効回答数)		13	—
無回答(講習会の開催を行っていないを選択した2団体含む)		4	—

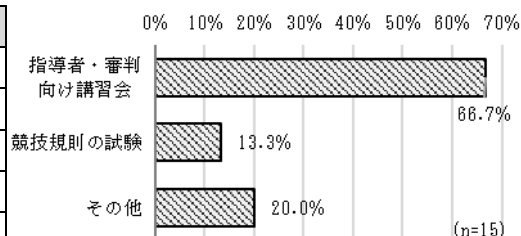


b) 実施内容

講習会の実施内容は、指導者・審判向け講習会が6割以上を占めています。〔図表2-68〕

図表2-68 講習会の実施内容における回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	指導者・審判向け講習会	10	66.7
2	競技規則の試験	2	13.3
3	その他	3	20.0
	合計(有効回答数)	15	—
	無回答	2	

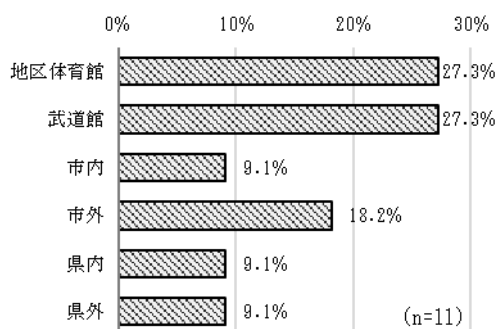


c) 実施場所

講習会の実施場所は、地区体育館や武道館をはじめとした市内の施設が6割以上を占めています。〔図表2-69〕

図表2-69 講習会の実施場所における回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	地区体育館	3	27.3
2	武道館	3	27.3
3	市内	1	9.1
4	市外	2	18.2
5	県内	1	9.1
6	県外	1	9.1
	合計(有効回答数)	11	—
	無回答	6	



⑥ 大会やイベントの概要

各競技団体が主催・共催で開催した大会やイベントについて、過去10年間で参加規模が最も大きいもの、及び毎年行われている大会やイベントの中で、参加規模が最も大きいものの概要は以下のとおりです。〔図表2-70、図表2-71〕

図表2-70 過去10年間において、参加規模が最も大きい大会やイベント一覧

競技団体名	利用施設/利用面数	大会・イベント名	利用者の属性・年代
豊橋卓球協会	総合体育館/卓球コート：45台	三遠卓球選手権大会	小・中・高校、社会人男女
豊橋ハンドボール協会	総合体育館、桜丘高校他/ハンドボールコート：6面	全国マスターズ大会	60代以上(全国のハンドボールチーム)
豊橋レクリエーション協会	総合体育館/第1アリーナ全面、芝生広場	ウエルネス大会	豊橋市民 3~80歳
豊橋柔道会	武道館/柔道場、剣道場、控室	豊橋一心館杯	柔道、中学生
豊橋バスケットボール協会	総合体育館/バスケットボール：6面	Wリーグ	バスケットボール協会 10代~50代
愛知県中小学校体育連盟豊橋支所	総合体育館/3面	東海総体ハンドボール	10代(中学生)
豊橋バドミントン協会	総合体育館/バドミントンコート：22面	チーム対抗リーグ大会	バドミントン協会所属団体
豊橋アーチェリー協会	武道館/遠的場の1/3	豊橋祭りアーチェリー体験	全世代
豊橋市剣道連盟	総合体育館/剣道試合場：10面	大野旗剣道大会	高校生
日本拳法豊橋協会	総合体育館/3面	東三河大会	男女、少年~一般
豊橋弓道協会	武道館/15人立：1面 近的、7人立：1面 遠的	道場記念弓道大会	中学・高校生・一般
豊橋ソフトテニス協会	総合体育館/テニスコート：4面、サブコート：1面	全国選抜インドア大会(ソフトテニス)	20代~70代
豊橋インドアカ協会	総合体育館/インドアカコート：16面	スポーツ祭インドアカ大会	市内のインドアカ愛好者 18歳~70代
豊橋バレーボール協会	総合体育館/バレーボールコート：6面	豊橋バレーボールフェスティバル	一般ソフトバレー家庭婦人の部
豊橋空手道連盟	総合体育館/第1競技場全面	東三河少年少女空手道錬成大会	中学生以下
豊橋少林寺拳法協会	総合体育館/サブアリーナ全面	東三河錬成大会	協会所属道院 10代~60代
豊橋市相撲協会	こども未来館	ココニコ杯	小学生中心

図表2-71 毎年行われているもので、参加規模が最も大きい大会やイベント一覧

競技団体名	利用施設/利用面数	大会・イベント名	利用者の属性・年代
豊橋卓球協会	総合体育館/卓球コート：45台	三遠卓球選手権大会	小・中・高校、社会人男女
豊橋ハンドボール協会	総合体育館/ハンドボールコート：3面	春季（秋季）ハンドボール一般大会	ハンドボール協会所属団体 20代～60代
豊橋レクリエーション協会	総合体育館/第1アリーナ全面、芝生広場	ウエルネス大会※	豊橋市民 3～80歳
豊橋柔道会	武道館/柔道場、剣道場、控室	豊橋一心館杯※	柔道、中学生
豊橋バスケットボール協会	大清水・石巻地区体育館/バスケットボール：4面	会長杯バスケットボール大会	バスケットボール協会 10代
愛知県中小学校体育連盟豊橋支所	総合体育館/3面	東海総体ハンドボール※	10代（中学生）
豊橋バドミントン協会	総合体育館/バドミントンコート：22面	チーム対抗リーグ大会※	バドミントン協会所属団体
豊橋アーチェリー協会	武道館/遠的場の1/3	豊橋祭りアーチェリー体験※	全世代
豊橋市剣道連盟	総合体育館/試合場：10面	市民スポーツ祭	小学生から一般
日本拳法豊橋協会	総合体育館が利用できない場合は他都市の総合体育館	東三河大会	男女、少年～一般
豊橋弓道協会	武道館/15人立：1面 近的	道場記念弓道大会※	中学・高校生・一般
豊橋ソフトテニス協会	総合体育館/テニスコート：4面、サブコート：1面	高校東海選抜室内大会	高校生
豊橋インドアカ協会	総合体育館/インドアカコート：16面	スポーツ祭インドアカ大会	市内のインドアカ愛好者 18歳-70代
豊橋バレーボール協会	総合体育館/バレーボールコート：6面	豊橋バレーボールフェスティバル※	一般ソフトバレー家庭婦人の部
豊橋空手道連盟	総合体育館/第1競技場全面	東三河少年少女空手道錬成大会	中学生以下
豊橋少林寺拳法協会	前田南地区体育館	東三河錬成大会	協会所属道院 10代～60代
豊橋市相撲協会	こども未来館	ココニコ杯	小学生中心

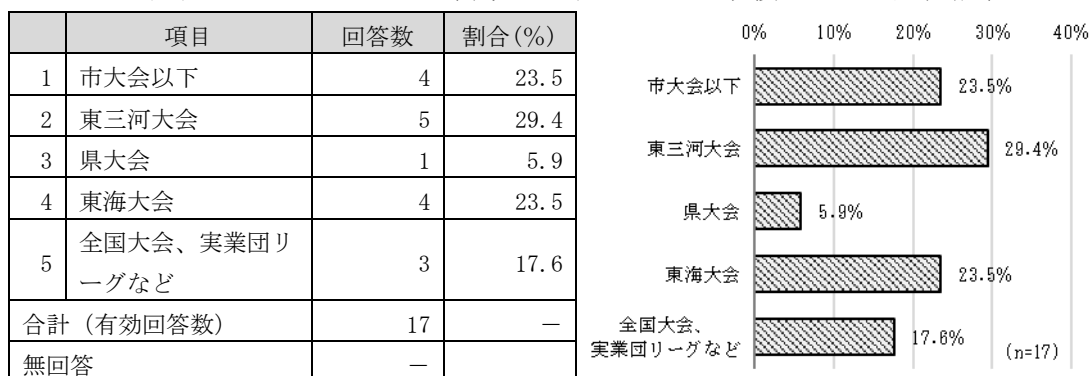
※過去10年間に於いて、参加規模が最も大きい大会やイベントと内容が同一のもの

⑦ 大会のレベル

a) 過去10年間の大会やイベントで参加規模が最も大きいもの

過去10年間の大会やイベントでは、市大会以下から全国大会、実業団リーグまで幅広い規模が開催されています。〔図表2-72〕

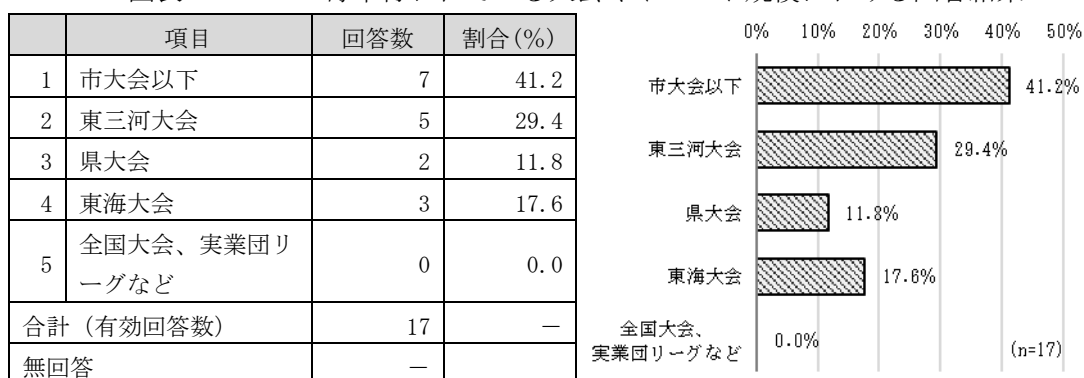
図表2-72 過去10年間の大会やイベント規模における回答結果



b) 毎年行われている大会やイベントで参加規模が最も大きいもの

毎年行われている大会やイベントでは、市大会以下が全体の約4割を占めています。〔図表2-73〕

図表2-73 毎年行われている大会やイベント規模における回答結果



⑧ 参加人数

大会やイベントの参加人数については、最大2,500人から最小20人規模、団体数(チーム)では、200～2団体となっています。〔図表2-74〕

図表2-74 参加規模が最も大きい大会やイベントの参加人数等一覧

競技団体名	大会・イベント名 ※1は過去10年で最も大きいもの ※2は毎年行われているもの	過去10年で最も大きい大会やイベント		毎年行われている大会やイベント	
		総数(人)	団体数	総数(人)	団体数
豊橋卓球協会	三遠卓球選手権大会※1※2	1,000	200	800	150
豊橋ハンドボール協会	全国マスターズ大会※1、春季(秋季)ハンドボール一般大会※2	1,000	80	200	12
豊橋レクリエーション協会	ウェルネス大会※1※2	2,500	-	2,500	-
豊橋柔道会	豊橋一心館杯※1※2	350	60	350	60
豊橋バスケットボール協会	Wリーグ※1、会長杯バスケットボール大会※2	540	36	540	36
愛知県中小学校体育連盟豊橋支所	東海総体ハンドボール※1※2	240	16	240	16
豊橋バドミントン協会	チーム対抗リーグ大会※1※2	1,000	150	1,000	150
豊橋アーチェリー協会	豊橋祭りアーチェリー体験※1※2	800	-	800	-
豊橋市剣道連盟	大野旗剣道大会※1、市民スポーツ祭※2	1,400	174	800	-
日本拳法豊橋協会	東三河大会※1※2	250	9	200	9
豊橋弓道協会	道場記念弓道大会※1※2	300	13	300	13
豊橋ソフトテニス協会	全国選抜インドア大会※1、高校東海選抜室内大会※2	250	-	128	64
豊橋インディアカ協会	スポーツ祭インディアカ大会※1※2	450	28	200	20
豊橋バレーボール協会	豊橋バレーボールフェスティバル※1※2	1,500	200	1,500	200
豊橋空手道連盟	東三河少年少女空手道錬成大会※1※2	300	17	250	17
豊橋少林寺拳法協会	東三河錬成大会※1※2	50	3	20	2
豊橋市相撲協会	ココニコ杯※1※2	150	-	100	8

⑨ 観客人数

大会やイベントの観客人数（見学者や同行者含む）については、最大2,500人から最小20人規模となっています。〔図表2-75〕

図表2-75 参加規模が最も大きい大会やイベントの観客人数一覧

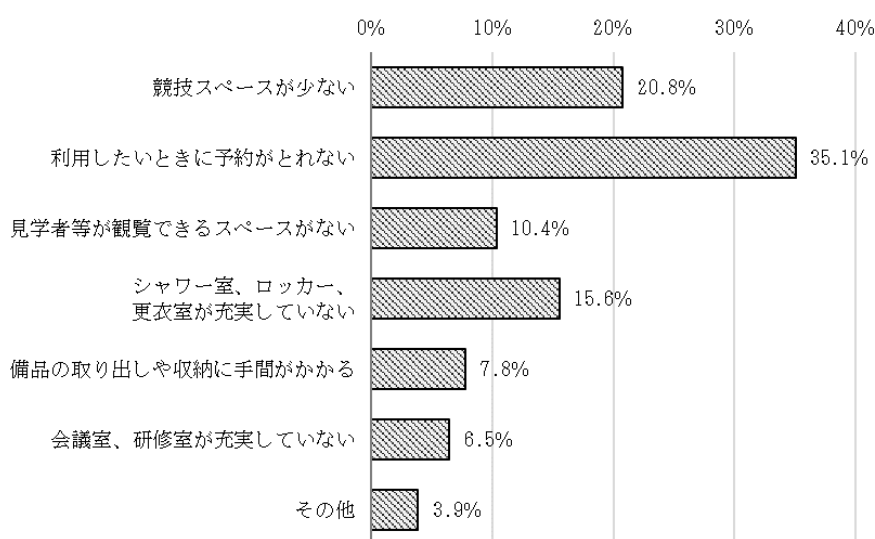
競技団体名	大会・イベント名 ※1は過去10年で最も大きいもの ※2は毎年行われているもの	過去10年で最も大きい大会やイベント	毎年行われている大会やイベント
		観客人数（人）	観客人数（人）
豊橋卓球協会	三遠卓球選手権大会※1※2	500	500
豊橋ハンドボール協会	全国マスターズ大会※1、春季(秋季)ハンドボール一般大会※2	100	20
豊橋レクリエーション協会	ウェルネス大会※1※2	2,500	2,500
豊橋柔道会	豊橋一心館杯※1※2	150	150
豊橋バスケットボール協会	Wリーグ※1、会長杯バスケットボール大会※2	2,100	2,100
愛知県中小学校体育連盟豊橋支所	東海総体ハンドボール※1※2	500	-
豊橋バドミントン協会	チーム対抗リーグ大会※1※2	30	30
豊橋アーチェリー協会	豊橋祭りアーチェリー体験※1※2	1,600	1,600
豊橋市剣道連盟	大野旗剣道大会※1、市民スポーツ祭※2	1,000	1,500
日本拳法豊橋協会	東三河大会※1※2	300	200
豊橋弓道協会	道場記念弓道大会※1※2	60	60
豊橋ソフトテニス協会	全国選抜インドア大会※1、高校東海選抜室内大会※2	20	100
豊橋インディアカ協会	スポーツ祭インディアカ大会※1※2	460	220
豊橋バレーボール協会	豊橋バレーボールフェスティバル※1※2	1,600	1,600
豊橋空手道連盟	東三河少年少女空手道錬成大会※1※2	500	350
豊橋少林寺拳法協会	東三河錬成大会※1※2	50	20
豊橋市相撲協会	ココニコ杯※1※2	400	350

⑩ イベント利用時における現状の問題点

大会やイベントの利用時における現状の問題点では、「利用したいときに予約がとれない。」が最も多い回答となっています。〔図表 2- 76〕

図表 2- 76 大会やイベントの利用時における現状の問題点の回答一覧

項目	回答数			点数化			点数合計
	最も問題	次に問題	3番目に問題	最も問題 (3点)	次に問題 (2点)	3番目に問題 (1点)	
1 競技スペースが少ない。	4	2	0	12	4	0	16
2 利用したいときに予約がとれない。	9	0	0	27	0	0	27
3 見学者等が観覧できるスペースがない。	1	1	3	3	2	3	8
4 シャワー室、ロッカー、更衣室が充実していない。	2	2	2	6	4	2	12
5 備品の取り出しや収納に手間がかかる。	1	1	1	3	2	1	6
6 会議室、研修室が充実していない。	1	1	0	3	2	0	5
7 その他	1	0	0	3	0	0	3
合計（有効回答数）	19	7	6	—	—	—	77
無回答	—	—	—	—	—	—	—



⑪ 大会やイベント利用時における希望する競技スペース

大会やイベント利用時における理想的又は適切な競技スペース（必要面数）、その大会・イベント名および開催日数は以下のとおりです。多くの希望する必要面数については、現状の総合体育館で充足できる回答ですが、柔道場においては、現状の武道館では不足する回答がありました。〔図表2-77〕

図表2-77 大会やイベント利用時における希望する競技スペースの回答結果

競技団体名	大会・イベント名	必要面数	開催日数
豊橋卓球協会	三遠卓球選手権大会	卓球コート：60 台	1 日
豊橋ハンドボール協会	愛知県ハンドボール高校選手権（県大会）	ハンドボールコート：4 面 （現状より+1 コート）	4 日
豊橋レクリエーション協会	市民参加型レクリエーション交流会	総合体育館 第1アリーナ と同じ広さ	1 日
豊橋柔道会	一心館杯を含め、すべての大会	柔道場：4 面	1 日
豊橋バスケットボール協会	会長杯バスケットボール大会、Wリーグ	バスケットボールコート：4 面、サブコート：2 面	毎年6月中旬 Wリーグ毎年 1月又は2月
豊橋アーチェリー協会	豊橋市理事長杯、会長杯、オープン大会、教室、月例会等（室内ではインドア大会）	6人制バレーボールコート：10 面程（室内では25m×20m）	28日（室内では2日）
豊橋市剣道連盟	市民スポーツ祭	剣道試合場：10 試合場	1 日
日本拳法豊橋協会	東三河大会	試合用スペース：3 面	1 日
豊橋弓道協会	中央審査会、近的選手権大会	15人立：1面（近的） 12人立：1面（遠的）	4 日
豊橋空手道連盟	東三河大会	第一競技場：全面	1 日

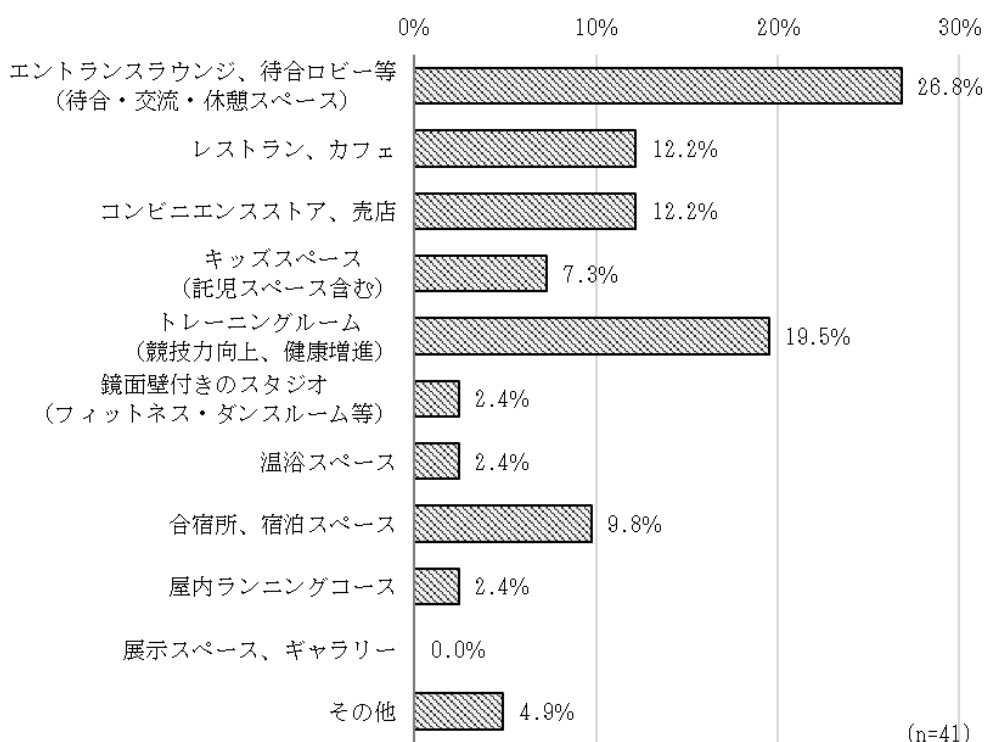
[注] 記載のない競技団体は無回答

⑫ 導入を希望する施設機能（諸室等）

多目的屋内施設に導入してほしい諸室等では、エントランスラウンジ、待合ロビー等（待合・交流・休憩スペース）が最も多く、次いで、トレーニングルーム（競技力向上、健康増進）が多くなっています。〔図表2-78〕

図表2-78 多目的屋内施設に導入してほしい諸室の回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	エントランスラウンジ、待合ロビー等 (待合・交流・休憩スペース)	11	26.8
2	レストラン、カフェ	5	12.2
3	コンビニエンスストア、売店	5	12.2
4	キッズスペース (託児スペース含む)	3	7.3
5	トレーニングルーム (競技力向上、健康増進)	8	19.5
6	鏡面壁付きのスタジオ (フィットネス・ダンスルーム等)	1	2.4
7	温浴スペース	1	2.4
8	合宿所、宿泊スペース	4	9.8
9	屋内ランニングコース	1	2.4
10	展示スペース、ギャラリー	0	0.0
11	その他	2	4.9
	合計 (有効回答数) ※複数回答を含む	41	—
	無回答	1	

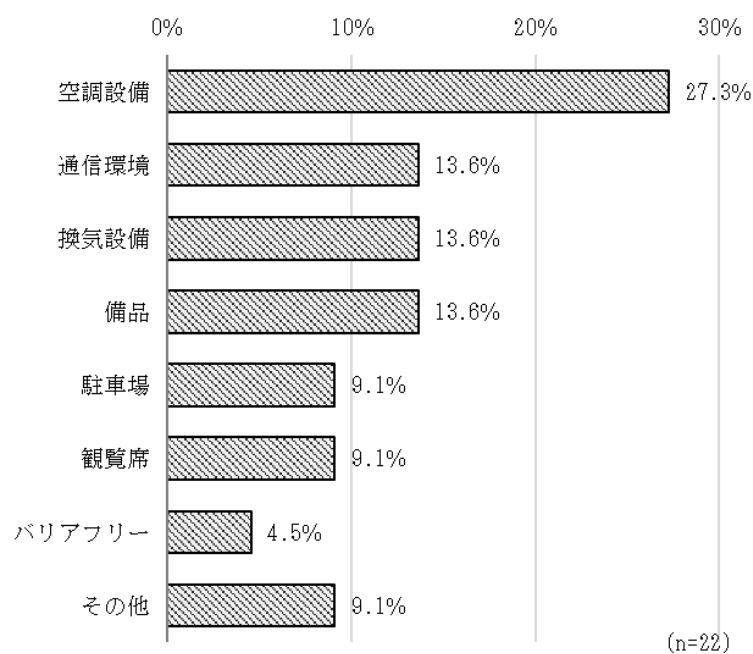


⑬ 導入を希望する施設機能（設備）

多目的屋内施設に導入を希望する設備として空調設備が最も多い回答となっており、これは、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響とみられます。〔図表2-79〕

図表2-79 導入を希望する施設機能（設備）の回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	空調設備	6	27.3
2	通信環境	3	13.6
3	換気設備	3	13.6
4	備品	3	13.6
5	駐車場	2	9.1
6	観覧席	2	9.1
7	バリアフリー	1	4.5
8	その他	2	9.1
合計（有効回答数）※複数回答を含む		22	—
無回答		4	

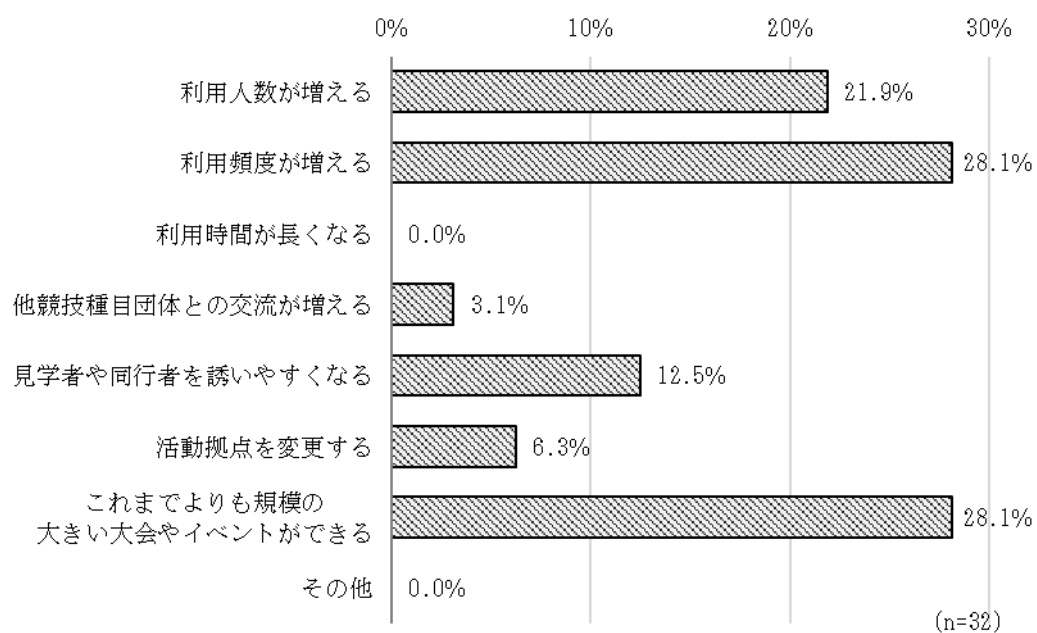


⑭ 利用変化

希望する規模や機能が実現した場合の利用の変化については、「利用頻度が増える」及び「これまでよりも規模の大きい大会やイベントができる」が最も多い回答となっています。〔図表2-80〕

図表2-80 利用変化における回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	利用人数が増える	7	21.9
2	利用頻度が増える	9	28.1
3	利用時間が長くなる	0	0.0
4	他競技種目団体との交流が増える	1	3.1
5	見学者や同行者を誘いやすくなる	4	12.5
6	活動拠点を変更する	2	6.3
7	これまでよりも規模の大きい大会やイベントができる	9	28.1
8	その他	0	0.0
合計（有効回答数）※複数回答を含む		32	—
無回答		—	—



⑮ 多目的屋内施設に関する意見要望（自由意見）

多目的屋内施設に関する主な意見要望については、施設全般、付帯設備・備品に関する意見要望が寄せられました。〔図表 2- 8 1〕

図表 2- 8 1 多目的屋内施設に関する主な意見要望一覧

分類	主な意見
施設全般	<ul style="list-style-type: none"> 希望の曜日に利用できるようにして欲しい。 現在の屋内施設より大きな施設になれば、スポーツだけではなく色々なイベントができる。 アーチェリー教室が開催できる場が欲しい。 剣道ができる床面が欲しい。
付帯設備・備品	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が少ないため、駐車場の確保が必要である。 道具の運搬ができる駐車スペースが欲しい。 通用口近くに大会運営役員用の専用駐車場が欲しい。

⑯ 既存体育施設に関する意見要望（自由意見）

既存体育施設に関する意見要望については、施設全般、付帯設備・備品、利用料金に関する意見要望が寄せられました。〔図表 2- 8 2〕

図表 2- 8 2 既存体育施設に関する意見要望一覧

分類	主な意見
施設全般	<ul style="list-style-type: none"> 希望の曜日に利用できるようにして欲しい。 スポーツだけではなく色々なイベントができるように、現在の屋内施設よりも大きな施設を作って欲しい。 地区体育館の控室の確保、観客席の設置をして欲しい。 武道場の観客席が少ない。
付帯設備・備品	<ul style="list-style-type: none"> 清掃用具の補給や備品を充実化させて欲しい。 真夏でも利用できるように、空調設備を導入して欲しい。 エレベータを設置して欲しい。 駐車場を確保して欲しい。
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが利用する場合は、利用料金の大きな減免をして欲しい。 武道館の利用料金の値下げをして欲しい。

(3) 協会に所属しているクラブチームのアンケート調査結果

豊橋市体育協会の加盟団体（協会）に所属しているクラブチームを中心に、アンケート調査を行い、186のクラブチームから回答を得ることができました。

① 実施している競技種目

回答が得られたクラブチームにおいて、実施している競技種目は以下のとおりです。

[図表2-83]

図表2-83 クラブチームが実施している競技種目一覧

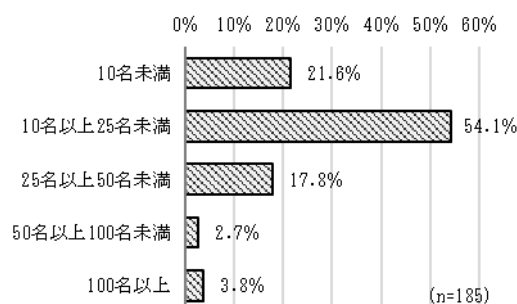
	項目	回答数	割合(%)
1	バスケットボール	42	22.6
2	卓球	38	20.4
3	バドミントン	37	19.9
4	バレーボール	17	9.1
5	ソフトバレーボール	13	7.0
6	複数競技	7	3.8
7	その他武道（合気道、太極拳、長拳、中国武術）	7	3.8
8	空手道	6	3.2
9	ミニバスケットボール	4	2.2
10	ミニテニス	2	1.1
11	新体操	2	1.1
12	柔道	1	0.5
13	剣道	1	0.5
14	カラーガード	1	0.5
15	エアロビクス	1	0.5
16	鉄棒、跳び箱など幼児の体操教室	1	0.5
17	なわとび、ボール扱い、ドッジボール、ハンドボールその他	1	0.5
18	健康体操	1	0.5
19	マーチング、吹奏楽	1	0.5
20	チアダンス	1	0.5
21	フットサル	1	0.5
22	制圧訓練	1	0.5
	合計（有効回答数）	186	—

② 所属している人数

当該クラブチームに所属している人数は、10名以上25名未満が最も高い割合を占めています。〔図表2-84〕

図表2-84 所属人数における回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	10名未満	40	21.6
2	10名以上25名未満	100	54.1
3	25名以上50名未満	33	17.8
4	50名以上100名未満	5	2.7
5	100名以上	7	3.8
	合計(有効回答数)	185	—
	無回答	1	

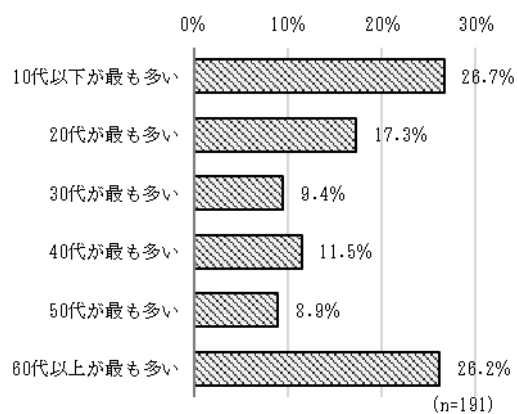


③ 所属員の年齢構成

クラブチームの年齢構成は、10代以下が最も多いクラブチームが高い割合を占めており、次いで60代以上が最も多いクラブチームとなっています。〔図表2-85〕

図表2-85 年齢構成における回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	10代以下が最も多い	51	26.7
2	20代が最も多い	33	17.3
3	30代が最も多い	18	9.4
4	40代が最も多い	22	11.5
5	50代が最も多い	17	8.9
6	60代以上が最も多い	50	26.2
	合計(有効回答数) ※複数回答を含む	191	—
	無回答	1	



④ 練習時における希望する競技スペース

練習時における理想的又は適切な競技スペース（必要面数）について、以下のとおり回答が得られました。〔図表 2- 8 6〕

図表 2- 8 6 練習時における希望する競技スペースの回答結果

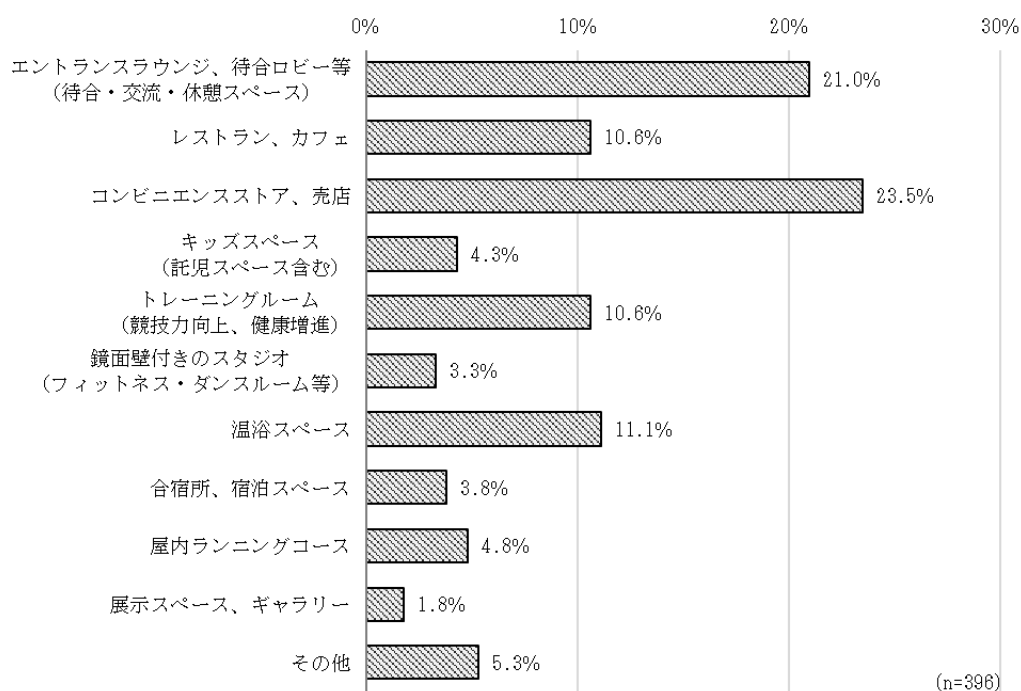
	項目	回答数	競技スペース (回答が最も多かった競技スペース)
1	バスケットボール	37	1～6面（1面／回答数27）
2	卓球	31	5～25台（6台／回答数11）
3	バドミントン	33	1～6面（3面／回答数27）
4	バレーボール	14	6人制バレーボールコート：1～3面 （1面／回答数10）
5	ソフトバレーボール	11	8人制バレーボールコート：半面 6人制バレーボールコート：1～3面 （1面／回答数7）
6	複数競技	6	卓球台：25台、サッカー可 6人制バレーボールコート：2面
7	その他武道 （合気道、太極拳、長拳、中国武術）	7	バスケットボールコート相当：1～2面 武道場：1～2面
8	空手道	6	体育館：半面 柔道場：3面
9	ミニバスケットボール	4	1～6面（1面／回答数3）
10	ミニテニス	2	バドミントンコート相当：2～3面
11	新体操	2	新体操フロア2面（1面13m×13m）
12	柔道	1	柔道場：6面
13	剣道	1	剣道場：6面
14	カラーガード	0	—
15	エアロビクス	1	バスケットボールコート相当：1面もしくは半面
16	鉄棒、跳び箱など幼児の体操教室	1	バスケットボールコート相当：1面
17	なわとび、ボール扱い、ドッジボール、ハンドボールその他	1	バスケットボールコート相当：1面
18	健康体操	0	—
19	マーチング、吹奏楽	1	2面
20	チアダンス	1	バスケットボールコート相当：1面
21	フットサル	1	5人制フットサル1面
22	制圧訓練	1	2面

⑤ 導入を希望する施設機能（諸室等）

多目的屋内施設に導入してほしい諸室等では、コンビニエンスストア、売店が最も多く、次いで、エントランスラウンジ、待合ロビー等（待合・交流・休憩スペース）となっています。〔図表2-87〕

図表2-87 導入を希望する施設機能（諸室）の回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	エントランスラウンジ、待合ロビー等 （待合・交流・休憩スペース）	83	21.0
2	レストラン、カフェ	42	10.6
3	コンビニエンスストア、売店	93	23.5
4	キッズスペース（託児スペース含む）	17	4.3
5	トレーニングルーム（競技力向上、健康増進）	42	10.6
6	鏡面壁付きのスタジオ（フィットネス・ダンスルーム等）	13	3.3
7	温浴スペース	44	11.1
8	合宿所、宿泊スペース	15	3.8
9	屋内ランニングコース	19	4.8
10	展示スペース、ギャラリー	7	1.8
11	その他	21	5.3
合計（有効回答数）※複数回答を含む		396	—
無回答		—	—

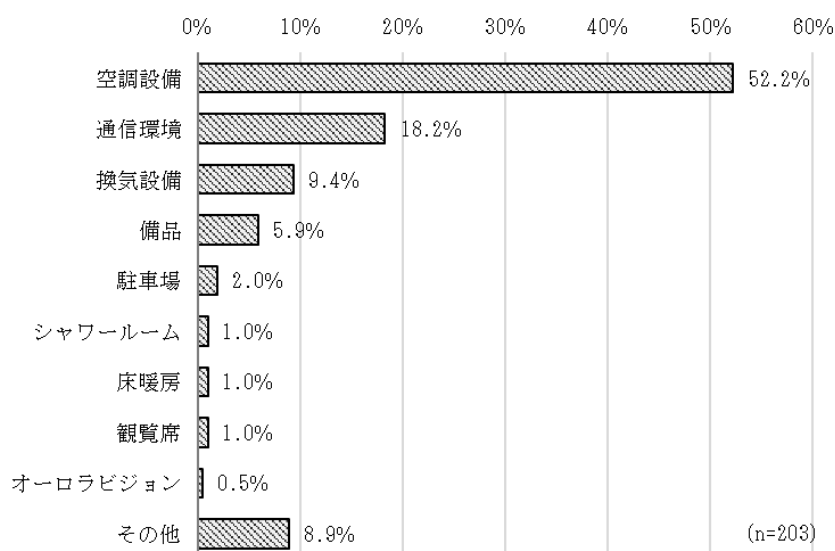


⑥ 導入を希望する施設機能（設備）

多目的屋内施設に導入を希望する設備として空調設備が最も多い回答となっています。これは、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響とみられます。〔図表2-88〕

図表2-88 導入を希望する施設機能（設備）の回答一覧

	項目	回答数	割合(%)
1	空調設備	106	52.2
2	通信環境	37	18.2
3	換気設備	19	9.4
4	備品	12	5.9
5	駐車場	4	2.0
6	シャワールーム	2	1.0
7	床暖房	2	1.0
8	観覧席	2	1.0
9	オーロラビジョン	1	0.5
10	その他	18	8.9
合計（有効回答数）※複数回答を含む		203	-
無回答		45	

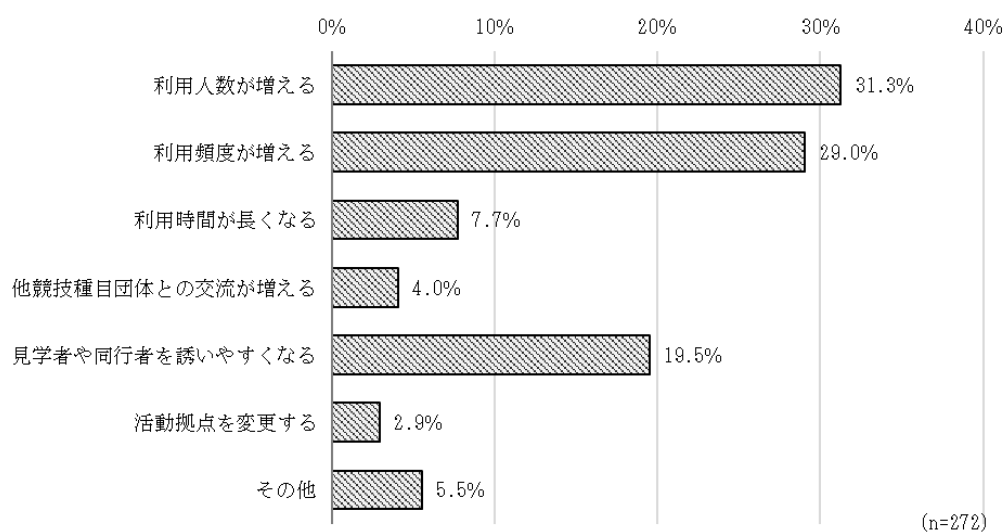


⑦ 利用変化

希望する規模や機能が実現した場合の利用の変化については、「利用人数が増える」が最も高い割合を占めており、次いで「利用頻度が増える」が高くなっています。〔図表2-89〕

図表2-89 利用変化における回答結果

	項目	回答数	割合(%)
1	利用人数が増える	85	31.3
2	利用頻度が増える	79	29.0
3	利用時間が長くなる	21	7.7
4	他競技種目団体との交流が増える	11	4.0
5	見学者や同行者を誘いやすくなる	53	19.5
6	活動拠点を変更する	8	2.9
7	その他	15	5.5
合計（有効回答数）※複数回答を含む		272	—
無回答		24	



⑧ 多目的屋内施設に関する意見要望（自由意見）

多目的屋内施設に関する意見要望については、施設全般、付帯設備・備品、利用料金に関する意見要望が多く寄せられました。〔図表 2- 90〕

図表 2- 90 多目的屋内施設に関する意見要望一覧

分類	主な意見
施設全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天井ライトの電球色（オレンジ色）を改善して欲しい。 ・ 既存体育館は照明が暗いため、明るい施設にして欲しい。 ・ バドミントンコートを増やして欲しい。 ・ 体育館上部の窓の開閉ができるようにして欲しい。 ・ 空調設備の導入と雨漏りの対応をして欲しい ・ トラブルがあった時に、迅速に対応して欲しい。 ・ 利用時間を細分化して欲しい。 ・ 協会がなくても、年間計画でイベント用に予約ができるようにして欲しい。
付帯設備 ・ 備品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 喫茶ルーム（カフェ）、懇談室、自販機、洋式トイレ、観覧席が欲しい。 ・ スポーツ用品や救急用品を設置して欲しい。 ・ 鍵付きロッカーや無料ロッカーを設置して欲しい。 ・ 卓球台及び器具の常備をして欲しい。 ・ 公共交通利用促進ではなく、充実した駐車場設備が欲しい。 ・ 雨の日でも乗り降りできる屋根付きの駐車スペースが欲しい。 ・ 立体駐車場でも良い。 ・ 駐車場に入るまでの道をもっと広くして欲しい。
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料金を安くして欲しい。

⑨ 既存体育施設に関する意見要望（自由意見）

既存体育施設に関する意見要望については、施設全般、付帯設備・備品、利用料金に関する意見要望が寄せられました。〔図表 2- 9 1〕

図表 2- 9 1 既存体育施設に関する意見要望一覧

分類	主な意見
施設全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具等の定期的な修理、点検をして欲しい。 ・ 体育館が古い。 ・ 石巻地区体育館・湿度・雨対策をして欲しい。 ・ 卓球台の裏にたまっている埃を清掃して欲しい。 ・ 卓球台やガードフェンス（球が転がらないように止めるつい立て）の定期的な点検をして欲しい。 ・ 出入口が複数あったり、使うときに融通の利く施設、物が動かしやすい、倉庫の間口が広い、女性の力で動かせる道具等を整備して欲しい。 ・ 施設の予約がとれず、イベントを行うときには市外を利用している。 ・ 予約の空き状況が把握できるようにして欲しい。 ・ 予約システムについて、柔軟な入場時刻、1面当たりの利用枠設定、予約制限、受付の省略を検討して欲しい。 ・ 利用時間を 21 時から 22 時に延長して欲しい。
付帯設備 ・ 備品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空調設備を導入して欲しい。 ・ シャワーの増設、ロッカールームの拡大、屋内プール、観覧席、洋式トイレ、子供用トイレ、更衣室を整備して欲しい。 ・ 椅子の増加、備品や用具の新調、カーテンとレールの補修をして欲しい。 ・ バスケットボールのリングの昇降を電動にして欲しい。 ・ 体育館中央仕切り網、重たく開閉が困難である。 ・ 駐車場を充実させて欲しい。 ・ 駐車場の出口にカーブミラーを設置して欲しい。
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体割引や高頻度の利用者への割引を設けて欲しい。 ・ 利用料金を安くして欲しい。 ・ 利用料金を時間制にしてほしい（2 時間で安くお願いしたい）。

(4) イベント等の主催を行っている団体のアンケート調査結果

豊橋市内の文化施設においてイベント等を主催している4団体を対象に、各団体が
行っているイベントや公演の規模、多目的屋内施設へのニーズを調査しました。

① 主催（共催含む）する豊橋市内でのイベントや公演の開催数について

豊橋市内において、主催・共催で開催したイベントや公演の開催実績は以下のとおり
です。〔図表2-92〕

図表2-92 開催実績の回答結果

団体	開催実績
団体A	<ul style="list-style-type: none">・ コンサート3回・ 落語1回・ お笑いライブ1回
団体B	<ul style="list-style-type: none">・ 定期演奏会2回・ ファミリーコンサート1回・ アンサンブルコンサート1回
団体C	<ul style="list-style-type: none">・ ファミリーコンサート 2回・ J-Pop系コンサート3回・ クラシックコンサート1回・ 古典芸能公演1回
団体D	<ul style="list-style-type: none">・ 各イベントへの協力のため主催はほとんどなし・ 定時総会1回

② イベントや公演の開催概要について

各団体が主催・共催で開催したイベントや公演について、過去10年間で参加規模が最も大きいもの、及び年間を通じて開催数の多いイベントや公演の規模の概要は以下のとおりです。〔図表2-93、図表2-94〕

図表2-93 イベントや公演で入場者数が最も大きいもの

団体	イベント・公演名	入場者数	観客の年代	利用施設	入場料金
団体A	演歌コンサート	2,400人※	20～60代	アイプラザ 豊橋	7,500円
団体B	第九演奏会	1,350人	10～70代	アイプラザ 豊橋	500円～ 2,000円
団体C	クラシック系 コンサート	1,460人	40～60代	アイプラザ 豊橋	5,500円
団体D	-	-	-	-	-

※2回公演の合計人数

図表2-94 年間を通じて開催数の多いイベントや公演の規模

団体	開催ジャンル	入場者数規模	開催頻度	観客の年代
団体A	演歌コンサート	800人～1,000人	3回	20～60代
団体B	定期演奏会	1,350人	2回	10～70代
団体C	J-Pop系 コンサート	1,460人	3回	30～60代
団体D	-	-	-	-

③ 多目的屋内施設に関する意見、要望について（自由意見）

多目的屋内施設に関する意見要望については、防音設備や畳、多目的室等の施設整備や大型バスの乗り入れに関する意見要望が寄せられました。〔図表2-95〕

図表2-95 多目的屋内施設に関する意見要望一覧

団体	意見・要望
団体A	-
団体B	・ 楽器演奏の練習ができるように、防音設備を完備してほしい
団体C	・ 日本舞踊等ができる畳の大きな施設があれば嬉しい。 ・ いつも予約で一杯なので多目的室を増やして欲しい。
団体D	・ 観光バスの受入体制及び大型バス駐車場の整備

④ 利用施設に対する問題点、要望について（自由意見）

利用施設に関する意見要望については、施設利用や施設機能、駐車場や立地に関する意見要望が寄せられました。〔図表2-96〕

図表2-96 利用施設に関する意見要望一覧

団体	意見・要望
団体A	-
団体B	<ul style="list-style-type: none">・ 競争率が激しく、使いたいときに使えないことが多い。・ 一般の会議室でも楽器の練習ができるように、防音機能をつけてほしい。
団体C	-
団体D	<ul style="list-style-type: none">・ 駐車場対策及び地域環境への対応・ 立地条件

(5) クロス集計による分析

アンケート調査で得られた回答のうち、導入を希望する施設機能（諸室等）と導入効果の回答について、クロス集計を行いました。その結果、最も導入を希望する「エントランスラウンジ・待合ロビー等」の導入効果として、「利用人数が増えること」や「利用頻度が増える」ことが挙げられました。また、「利用頻度が増える」の導入効果が期待できる施設機能として「コンビニエンスストア、売店」が挙げられています。〔図表 2- 9 7〕

図表 2- 9 7 クロス集計（導入を希望する施設機能（諸室等）× 導入効果）

	項目	利用人数が増える	利用頻度が増える	利用時間が長くなる	他競技種目団体との交流が増える	見学者や同行者を誘いやすくなる	活動拠点を変更する	これまでよりも規模の大きい大会やイベントができる	その他	合計
1	エントランスラウンジ、待合ロビー等（待合・交流・休憩スペース）	49	42	11	8	31	6	6	8	161
2	レストラン、カフェ	21	23	5	1	13	4	5	2	74
3	コンビニエンスストア、売店	42	51	13	2	31	5	2	1	147
4	キッズスペース（託児スペース含む）	10	8	0	4	7	0	2	0	31
5	トレーニングルーム（競技力向上、健康増進）	24	23	5	5	16	4	4	1	82
6	鏡面壁付きのスタジオ（フィットネス・ダンスルーム等）	8	6	1	2	6	0	1	1	25
7	温浴スペース	16	24	6	1	12	4	1	3	67
8	合宿所、宿泊スペース	11	11	0	0	2	0	2	4	30
9	屋内ランニングコース	6	13	1	1	6	0	1	1	29
10	展示スペース、ギャラリー	4	3	2	0	3	1	0	0	13
11	その他	10	7	0	1	5	1	0	5	29
合計（有効回答数）		201	211	44	25	132	25	24	26	688

第3章 施設整備に向けた基本コンセプト

1. 基本コンセプトの検討プロセス

(1) 検討プロセスの基本的な考え方

多目的屋内施設の基本コンセプトについて、現在に至るまでの多目的屋内施設整備の検討の経緯における施設整備の必要性及び施設整備を行うにあたり基本的な考えを踏まえ、検討を行います。

a) 多目的屋内施設の必要性

多目的屋内施設の整備については、過去の検討において、以下の点から本市にとって必要と考えられています。

- ①総合体育館は老朽化が進んでいることから大規模改修等を行う必要がある。
- ②総合体育館の利用の過密化を解消しなければならない。
- ③スポーツ観戦の来場者による経済効果をまちづくりに活用していく必要がある。
- ④市の中心部に多目的屋内施設を設置することで、防災活動の拠点としての活用が可能となる。

b) 施設整備の検討における基本的な考え方について

多目的屋内施設整備の検討について、以下の点を基本的な考え方として、本調査を行います。

- ①建設候補地について、豊橋公園に整備することで、プロスポーツを「みる」拠点にもなる多目的屋内施設は、市内外から多くの集客が見込まれることのほか、コンサートや展示会への活用、防災面、市民イベントなどの様々な利用シーンに活用することで、新たなまちの賑わいの拠点となることが期待される。
- ②公共サービスの向上や財政負担の軽減などから民間の持つ資金やノウハウの活用が望まれる。
- ③他の老朽化した施設との複合化を行うことで、多機能化による利便性の向上や建設・運営コスト縮減を図るうえで効果的であると考えている。

以上のことを踏まえ、以下の視点から多目的屋内施設の基本コンセプトの検討を行います。

【基本コンセプトを検討する上での6つ視点】	【関連事項】
I. スポーツを「する」・「みる」・「ささえる」環境の整備	… a) ①、②、b) ①
II. 地域経済の活性化とまちなかの賑わい創出	… a) ③、b) ①
III. 魅力ある都市公園及び防災拠点としての整備	… a) ④、b) ①
IV. 公共施設の適正規模・適正配置	… a) ①、②、b) ③
V. 民間の持つ資金やノウハウの活用	… b) ②
VI. 平常時・災害時・イベント時など、多目的な利用シーンへの対応	… b) ①

以上、基本コンセプトについて、以上のI～VIまでの視点（以下、「6つの視点」という）を踏まえて、検討を行うものとします。

（2）基本コンセプトの検討の考え方

多目的屋内施設の基本コンセプトの検討にあたっては、第2章で整理した関連施設の利用状況、豊橋公園の立地環境及び法規制、防災への対応、新しい生活様式への対応、利用者ニーズの傾向や特性を整理し、課題の整理・考察を行い、6つの視点を踏まえて、多目的屋内施設に求められる役割を導きます。

また、上記に加えて、多目的屋内施設整備に関連する本市の計画、調査結果（以下、「関連計画等」という）に対して、6つの視点を踏まえて、関連する概念、施策を抽出し、関連計画等を推進する視点の整理・考察を行います。その後、上記と同様に6つの視点を踏まえて、多目的屋内施設に求められる役割を導きます。

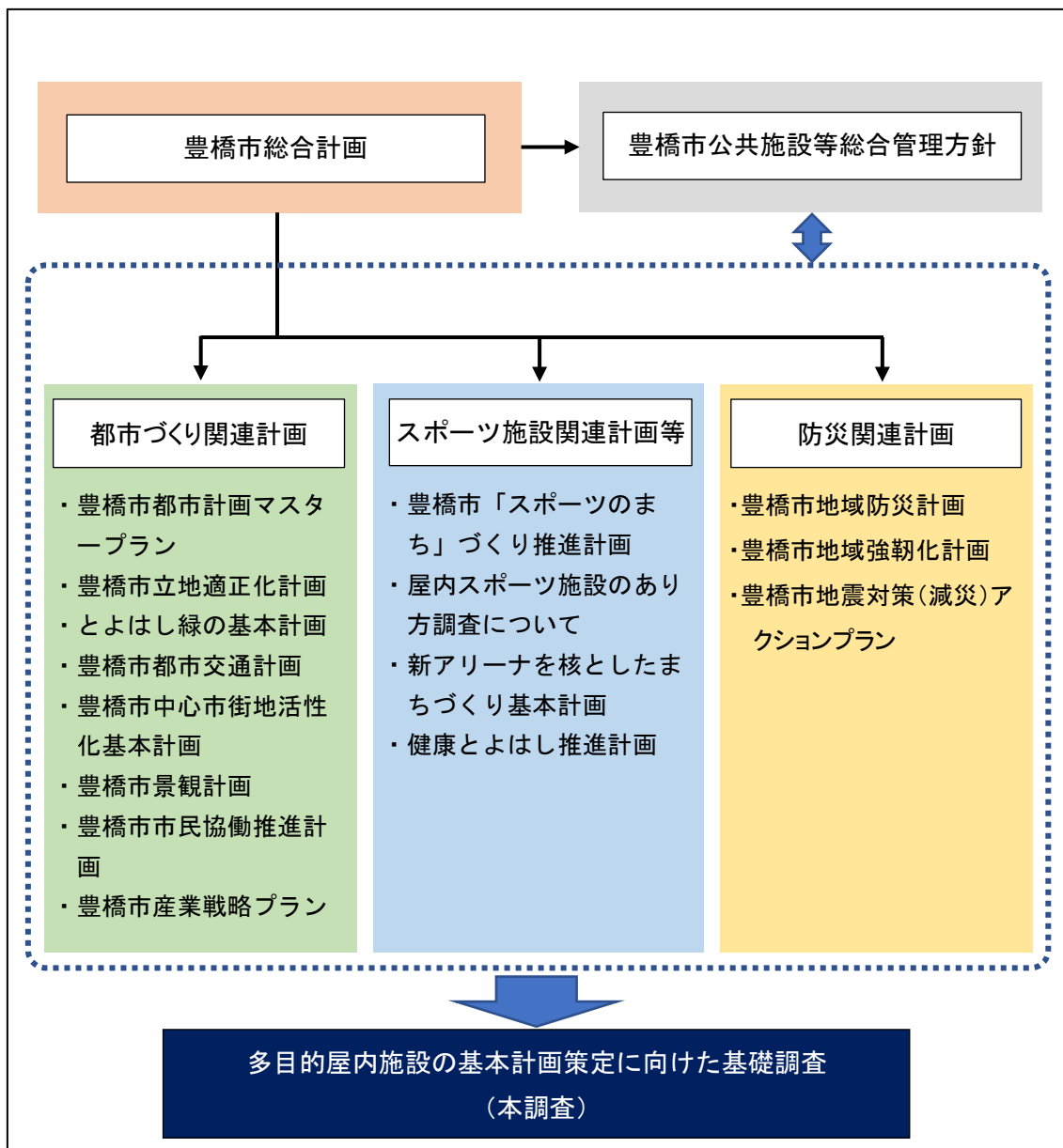
以上により、導き出された多目的屋内施設に求められる役割をもとに、基本コンセプトを定めるものとします。

2. 関連計画等の把握・整理

(1) 本調査の位置づけ

本調査は、関連計画等との関係性を以下のように位置づけ実施します〔図表3-1〕

図表3-1 本調査と関連計画等との関係



(2) 関連計画等の概念や施策の整理

関連計画等の内容から、6つの視点をもとに関連する概念・施策を抽出し、整理を行いました。〔図表3-2〕

図表3-2 関連計画等と各視点の対応

関連計画等		6つの視点					
		I	II	III	IV	V	VI
①	豊橋市総合計画	○	○	○	○	○	
②	豊橋市公共施設等総合管理方針				○	○	
③	都市づくり関連計画						
	a) 豊橋市都市計画マスタープラン						
	b) 豊橋市立地適正化計画						
	c) とよはし緑の基本計画						
	d) 豊橋市都市交通計画		○	○	○	○	
	e) 豊橋市中心市街地活性化基本計画						
	f) 豊橋市景観計画						
	g) 豊橋市市民協働推進計画						
h) 豊橋市産業戦略プラン							
④	スポーツ施設関連計画等						
	a) 豊橋市「スポーツのまち」づくり推進計画						
	b) 屋内スポーツ施設のあり方調査について	○	○	○	○	○	○
	c) 新アリーナを核としたまちづくり基本計画						
d) 健康とよはし推進計画							
⑤	防災関連計画						
	a) 豊橋市地域防災計画						
	b) 豊橋市地域強靱化計画			○			○
c) 豊橋市地震対策（減災）アクションプラン							

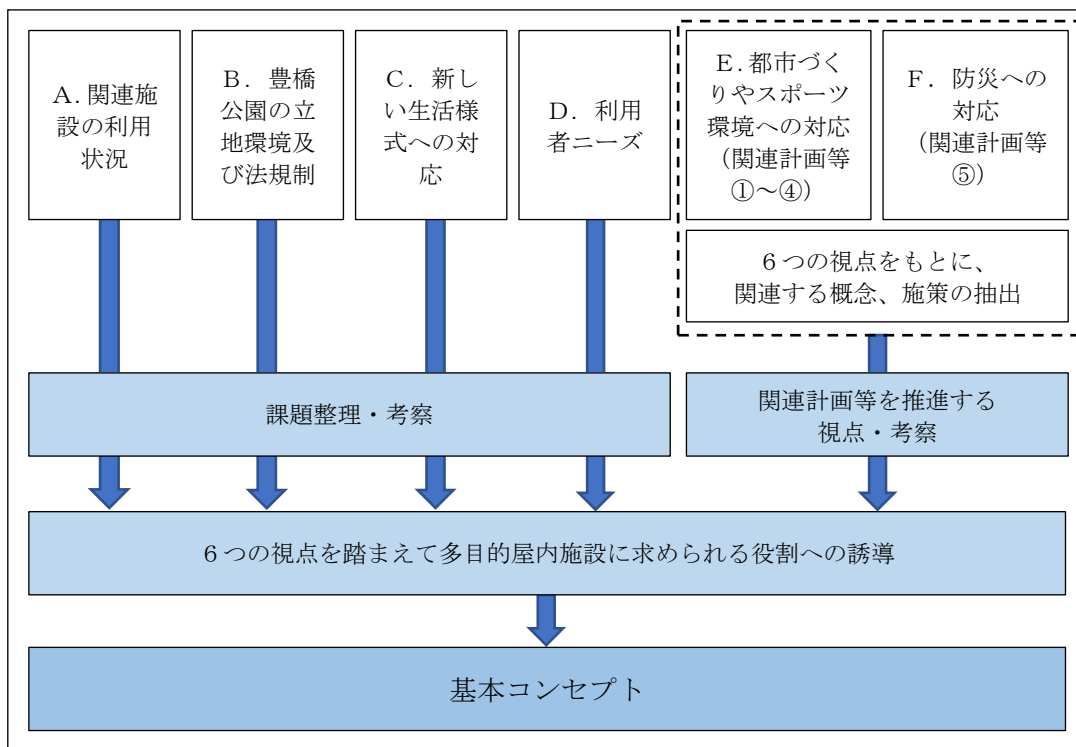
3. 基本コンセプトの検討

(1) 基本コンセプトの検討の流れ

基本コンセプトについて、1で述べた基本コンセプトの検討プロセスの基本的な考え方をもとに、図表3-3に示す分析の流れの通り、検討を行います。

なお、「防災への対応」については、関連計画等の整理と併せて分析を行います。

図表3-3 基本コンセプトを導き出すための分析の流れ



(2) 現状及び課題・考察と求められる役割

基本コンセプトを検討する上で、現状の傾向や特性又は位置づけから課題を整理（E. 都市づくりやスポーツ環境への対応と F. 防災への対応においては、関連計画を推進していくための視点を整理）し、考察を踏まえて、それぞれ多目的屋内施設に求められる役割について分析しました。〔図表 3- 4～図表 3- 9〕

図表 3- 4 A. 関連施設の利用状況

項 目	内 容
現状と課題整理	<p>『関連施設の状況』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武道館、前田南地区体育館、新栄地区体育館、豊橋市民文化会館、アイプラザ豊橋など、昭和 40～50 年代に建設された施設が多数ある。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 課題① 施設の老朽化が進行している。 <p>『スポーツ施設の傾向・特性』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去 5 年の稼働率推移では、総合体育館の第 1 アリーナの土日祝（午後）と前田南地区体育館（合計）の稼働率が約 90% 近くに達している。 ・ 時間帯別統計では、平日は夜間利用が多く、土日祝は分散利用されている。 ・ 競技種目別統計では、卓球・バドミントン・バスケットボールの利用が突出している。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 課題② 特定の利用時間帯や地区体育館において、稼働がひっ迫し、機会損失になっている可能性がある。 <p>『文化施設の傾向・特性』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稼働率はどの施設も約 50% 前後で推移している。 ・ 時間帯別統計では、平日及び土日祝のどちらも終日利用が最も多い傾向にある。 ・ 利用目的別では、コンサート利用が多く、器楽からダンス利用まで、非常に多岐に渡る利用が見られる。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 課題③ 客席数が最も多いアイプラザ豊橋（約 1,500 席）でも大規模なコンサート利用などの機会損失になっている可能性がある。 <p>『プロスポーツなどの試合や興行・イベントの開催実績』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合体育館の利用は、平成 28 年度の B リーグ開幕以降、三遠ネオフェニックスがホームアリーナとしたことで、観戦客が増加している。 ・ B リーグの開催実績では、過去 6 シーズンで、平均 3,000 人未満で推移しており、最大観客者数では 4,500 人程度である。 ・ B リーグ以外の開催実績では、W リーグは年々増加傾向にあり、その他のイベント等でも総合体育館の観覧席（2,000 席）を超える入場者数を記録している。 ・ 総合体育館では、毎年 3～5 回の興行・イベントが開催されている。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 課題④ 観客席数を超えるイベントやプロスポーツが行われる中、「見る」スポーツの環境整備が不十分である。 ➢ 課題⑤ 総合体育館は駅から遠方にあるため、イベント等の開催をまちなかのにぎわい創出につなげられていない。また、市の中心部との連携が希薄である。

考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考察① 市内でプロスポーツを観戦することができる。 ・ 考察② スポーツ施設の稼働率が高く、スポーツが盛んに行われている。 ・ 考察③ 総合体育館の観客席数を超える規模のプロスポーツなどの試合や興行・イベントについて、集客が期待できる。 ・ 考察④ 文化施設においてコンサートの興行が多く行われるなど、スポーツ以外にも様々なイベント・興行が行われており、市外からの誘客が期待できる。
6つの視点を踏まえて、多目的屋内施設に求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化した施設を対象に利用の過密化の解消や機会損失を防ぐため、施設機能の複合化をすること。 ・ 今後更なる発展が見込まれる「みる」スポーツの観点から、十分な観覧スペースを確保すること。 ・ スポーツ大会やスポーツ以外のイベント開催等の誘致による地域と連携した賑わいを創出すること。

図表 3- 5 B. 豊橋公園の立地環境及び法規制

項目	内容
現状と課題整理	<p>『豊橋公園の立地環境や特性』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊橋市の中心市街地から徒歩圏内に立地している。 ・ 屋外スポーツを中心とするスポーツ施設が整備されている。 ・ 吉田城址をはじめとする文化施設による良好な景観が形成されている。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 課題① 点在する施設が個別に利用されており、連携が希薄である。 ➤ 課題② 公園施設として整備可能な建ぺい率を踏まえた施設規模の計画を行う必要がある。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考察① 用途地域や風致地区などの法規制に対応する必要がある。
6つの視点を踏まえて、多目的屋内施設に求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊橋公園の文化施設や景観との調和など、周辺施設や環境にも配慮した施設を整備すること。 ・ 豊橋公園で整備可能な建ぺい率に収めるため、施設機能の複合化をすること。

図表 3- 6 C. 新しい生活様式への対応

項目	内容
現状と課題整理	<p>『新型コロナウイルス感染症対策の状況』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に以下のソフト施策による対応が行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ①3密が回避できない場合は、施設の利用を停止している。 ②利用可能な施設は、利用者数や入場者数の制限を行っている。 ③観戦や鑑賞においては、ソーシャルディスタンスを考慮した座席配置や声を出さない措置を行っている。 ・ 社会体育施設を再開するに当たっての基準や、再開後の感染拡大予防のための留意点をまとめた「社会体育施設の再開に向けた感染拡大防止ガイドライン（令和2年9月29日改定）」がスポーツ庁から発表されている。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 課題① 感染拡大防止を踏まえた施設整備計画の検討と今後の動向に注視する必要がある。

考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考察① 更衣室、休憩スペースは、広さにゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避けることが求められる（障がい者の介助を行う場合を除く）。 ・ 考察② 運動、スポーツを行う施設の環境は、換気設備を適切に運転することや、定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うことが望ましい。
6つの視点を踏まえて、多目的屋内施設に求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策に対するソフト施策と併せた施設整備と運営。

図表 3- 7 D.利用者ニーズ

項目	内容
アンケート回答の傾向	<p>『スポーツ以外の利用（講習会の開催）』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技団体の7割が指導者、審判等の育成を目的とした講習会を定期的に行っている、又は過去に開催したことがある。 <p>『大会やイベント利用時における現状の問題点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用したいときに予約がとれないこと、競技スペースが少ないこと、見学者等が観覧できるスペースがないこと、シャワー室やロッカーが必要等が、大会やイベント利用時における現状の問題点として挙げられている。 <p>『導入を希望する諸室・施設機能（設備）』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エントランスラウンジや待合ロビー、コンビニエンスストアや売店が回答の約5割を占めている。 ・ 空調設備の導入が回答の半数を占めている。 <p>『その他要望・意見』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設利用や観客席の確保、利用料の見直し、駐車場、施設機能に関する改善の要望や意見が多い。
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考察① 講習会の開催による利用を見込むことが期待できるため、会議室等の諸室が必要となる。 ・ 考察② 大会やイベント開催の機会損失の要因になっていると考えられる。また、大会やイベントの見学者が観覧できるスペースの確保が必要とされている。 ・ 考察③ 空調設備の導入が回答の半数を占めている要因として、新型コロナウイルス感染予防対策を意識したものと考えられる。 ・ 考察④ エントランスラウンジや待合ロビー等を導入することやコンビニエンスストア、売店を導入することで、利用人数が増えることや利用頻度が増える導入効果が期待できる。
6つの視点を踏まえて、多目的屋内施設に求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講習会等が開催できる会議室等の充実化 ・ 利用の過密化の解消や観覧席の整備 ・ 新しい生活様式に対応した設備の導入（主に空調設備と換気設備） ・ 利用機会の増加が期待できる待合ロビーのあるエントランスラウンジ、待合ロビー、コンビニエンスストアや売店の導入

図表 3- 8 E. 都市づくりやスポーツ環境への対応（関連計画等①～④）

項 目	内 容
<p>現状と関連計画等を推進する視点</p>	<p>①『第6次豊橋市総合計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「互いを尊重し合い、心豊かに暮らせるまち」を目指すために、いつでも、どこでも、誰でも気軽に「する」「みる」「ささえる」スポーツに親しむことができる環境づくりを行う基本方針が定められている。 ➢ 関連計画等を推進する視点① 「する」「みる」「ささえる」スポーツ環境の基盤となる施設を整備すること。 <p>②『豊橋市公共施設等総合管理方針』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市有資産の適正管理の具体的な取り組みとして、市有資産の適正化と施設配置の集約化、新規設置（建設）施設における適正化の実施、広域連携における施設の有効活用、民間施設・活力の活用が示されている。 ➢ 関連計画等を推進する視点② 人口減少に対応し、将来の負担軽減による安定した財政運営の構築（施設の複合化、ライフサイクルコスト削減、広域の利用、民間の資金・ノウハウ活用等）を実現すること。 <p>③【都市づくり関連計画】</p> <p>『a 豊橋市都市計画マスタープラン』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「にぎわいと交流の拠点づくり」が、基本方針として定められている。 ➢ 関連計画等を推進する視点③ 市外圏域から交流人口を呼び込むための集客施設を整備すること。 <p>『b 豊橋市立地適正化計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市機能誘導施設の立地誘導にあたっては、誘導施設の種類に応じて市外からの利用も想定される広域的な機能の中に「文化・スポーツ施設：大型体育施設」が位置づけられている。 ➢ 関連計画等を推進する視点④ 広域的な機能を発揮し、市外から誘導していくための施設整備をすること。 <p>『c とよはし緑の基本計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まちの拠点となる公園の魅力向上」が施策展開として定められている。 ➢ 関連計画等を推進する視点⑤ 公園の機能更新や民活導入を通じて公園の魅力向上させていく施策を導入すること。 ➢ 関連計画等を推進する視点⑥ 豊橋公園について、文化・スポーツの交流の場や賑わい創出の場である魅力的な公園となることを目指した施設整備をすること。 <p>『d 豊橋市都市交通計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まちの魅力・活力を高める交通づくり」が、基本方針として定められている。 ➢ 関連計画等を推進する視点⑦ まちづくり施策と連携しながら、徒歩や自転車、公共交通で来訪しやすい拠点施設を整備すること。 <p>『e 豊橋市中心市街地活性化基本計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「にぎわいの交流空間を形成するまちづくりの推進」、「回遊したくなる魅力づくりの推進」、「快適に暮らせるまちづくりの推進」の3つを基本方針として定めている。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 関連計画等を推進する視点⑧ 豊橋駅から豊橋公園まで歩きたくなるソフト施策を導入すること。 <p>『f 豊橋市景観計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「緑と水の潤いを感じる、魅力ある都市景観の形成」を定めている。 ➤ 関連計画等を推進する視点⑨ 賑わいと活力を感じる都市景観を創出することや、歴史と文化の薫る景観を形成、ユニバーサルデザインを導入すること。 <p>『g 豊橋市市民協働推進計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域コミュニティ活動の促進」の中で、「地域社会を支える多様な人材によるまちづくりの推進」として、地域コミュニティの活性化や多様な人々がまちづくりに参加しやすい環境づくりの推進が定められている。 ➤ 関連計画等を推進する視点⑩ イベントやボランティアなどの市民活動を促進させ、多世代交流の場となるための活動拠点を整備すること。 <p>『h 豊橋市産業戦略プラン』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「コンベンションの誘致や広域イベントの開催など来訪者の増加による新たな需要を喚起するとともに、地域資源の発掘や磨き上げなど、観光地としての魅力を高める取組みを、様々な分野における団体との連携により推進」が定められている。 ➤ 関連計画等を推進する視点⑪ 事業者や関係団体等との連携方法を構築すること。 <p>④【スポーツ施設関連計画等】</p> <p>『a 豊橋市「スポーツのまち」づくり推進計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「スポーツが人をつなげる 笑顔と活力に満ちた都市」とビジョンを掲げて、「スポーツへの参加促進」、「スポーツ環境の充実」、「スポーツによるまちの魅力と活力の創出」を政策の方向性として定めている。 ➤ 関連計画等を推進する視点⑫ 持続可能なスポーツ活動を下支えする環境を整備すること。 <p>『b 屋内スポーツ施設のあり方調査について』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな屋内スポーツ施設として整備を検討している新アリーナについては、将来的に拠点性が高まる施設として機能集約を図るとともに、武道館等を含めた機能の複合化を図っていくことが示されている。 ➤ 関連計画等を推進する視点⑬ 人口減少に対応し、将来の負担軽減による安定した財政運営に寄与する施設を整備すること。 <p>『c 新アリーナを核としたまちづくり基本計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新アリーナによる新たな価値の創造を行う。具体的な活動の方向性として、「スポーツを「する」・「観る」環境の整備」、「スポーツを「支える」人づくり」、「地域経済の活性化とまちなかのにぎわい創出」が定められている。 ➤ 関連計画等を推進する視点⑭ まちづくりの核となる拠点施設を整備することと、具体的な施策の担い手（官民双方の関与）を定めていくこと。 <p>『d 健康とよはし推進計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本方針の「社会環境の整備」の中で、一人ひとりが健康に関心を持ち、健康づくりへ取り組むことができるように社会環境整備の推進
--	--

	<p>が定められている。</p> <p>▶ 関連計画等を推進する視点⑮ 気軽に健康づくりに取り組むことができる環境を整備すること。</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考察① 豊橋公園は、自然、歴史・文化などの景観資源を大切に、調和のとれた景観が育まれている。 ・ 考察② 豊橋駅は鉄道や路面電車、路線バスなどの利便性の高い公共交通が集中している。 ・ 考察③ 豊橋公園は豊橋駅や市内の中心市街地から徒歩圏内である。 ・ 考察④ 豊橋ゆかりのアスリートによるセカンドキャリア（人的資源）への活用が期待できる。 ・ 考察⑤ プロスポーツと連携したスポーツツーリズムの開催等が期待できる。 ・ 考察⑥ スマートフォンアプリを活用して、三遠ネオフェニックスに関する情報を市民に向けて発信し応援気運の醸成を図るなど、市内で期待ができそうな地域経済の活性化やまちなかのにぎわい創出に係る取り組みが行われてきている。 ・ 考察⑦ スポーツ施策に限定せず、スポーツのまちづくりという観点で施策展開している。 ・ 考察⑧ 総合体育館ではプロスポーツやアマチュアによる多様な競技種目、エンターテインメントなどの利用が見られ、交流人口を増やしやすい環境にある。
6つの視点を踏まえて、多目的屋内施設に求められる役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多目的屋内施設単独ではなく、地域との連携による新たな賑わいを創造すること。 ・ 賑わいのある公園づくりという視点から多目的屋内施設を整備することやユニバーサルデザインへの対応をすること。 ・ 自転車や公共交通等の利用による周辺交通渋滞の緩和や地域経済の活性化に寄与する施策が展開できる運営体制を構築すること。 ・ 競技スポーツと生涯スポーツが共存する利用に対応すること。 ・ プロスポーツやアマチュアによる多様な競技種目、エンターテインメントなどの利用に対応した施設機能の複合化や集約化による交流人口の増加を目指すこと。 ・ 次世代のアスリートを育成する指導者の人材育成や活躍の場を提供すること。

図表 3-9 F. 防災への対応（関連計画等⑤）

項目	内容
現状と関連計画等を推進する視点	<p>⑤【防災関連計画】</p> <p>『a 豊橋市地域防災計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市公園は、災害時の避難場所、避難路あるいは救援活動の拠点としての役割を持っている。 ・ 防災に関する教育の普及推進と地域住民の防災意識の高揚を図る必要がある。 ・ 豊橋公園は広域避難場所及び防災活動拠点（地域・地区）に指定されており、公園内の各スポーツ施設は、救援部隊活動拠点、ボランティア活動拠点等の候補地に位置づけられている。

	<p>➤ 関連計画等を推進する視点① 日常的に、市民に対して防災に関する情報提供を行う場所や防災教育をする場所を確保すること。</p> <p>『b 豊橋市地域強靱化計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災拠点として位置付けのある公共施設等については、想定される地震等に対して、必要な防災対策を推進する。 ・ 電力供給遮断などの非常時に、機能維持等に必要不可欠な電力を確保するため、非常用電源の充実や、再生可能エネルギー等の導入を推進する。 <p>➤ 関連計画等を推進する視点② 非常時に活動できるように、非常用電源の充実や再生可能エネルギー等を積極的に導入した施設整備を図ること。</p> <p>『c 豊橋市地震対策（減災）アクションプラン』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対応を効果的に実施するため、受援のための自衛隊・警察・消防などの集結・集積活動拠点として防災活動拠点の整備を図る。 <p>➤ 関連計画等を推進する視点③ 豊橋公園を含む周辺地域における行政機関・施設との連携を図り、防災拠点の災害対応力の強化を行うこと。</p>
<p style="text-align: center;">考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考察① 豊橋公園の既存の防災機能と連携し、補完する防災機能を多目的屋内施設が担うことで、豊橋公園全体或いは本市の防災機能の向上につながる。 ・ 考察② 都市公園の立地を活かすことで、市民の防災面の意識を高めるきっかけづくりができる。
<p>6つの視点を踏まえて、多目的屋内施設に求められる役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時には、救援部隊活動拠点、ボランティア活動拠点等が円滑に運営されるための後方支援となる機能への転用に対応すること。 ・ 市民に対し、日常的に防災教育や啓発を発信できること。

(3) 基本コンセプト

導き出された多目的屋内施設に求められる役割をもとに、これらの役割を果たしていくための基本コンセプトを以下に定めます。

多彩な場面で人と人がつながる「交流」と「親しみ」の多目的拠点

○ みんなのスポーツライフが集い、スポーツの「する」「みる」「ささえる」が融合するアリーナ

- ・ 施設機能の複合化や集約化を通じて、年齢や体力に関係なくあらゆる世代による競技スポーツと生涯スポーツが集い、交流できる環境を整備します。
- ・ 大小様々な競技スポーツ大会やイベント、スポーツツーリズムの開催を通じて、声援であふれる柔軟な観戦環境を整備します。
- ・ 健康面を支える専門家やスポーツ指導者の活躍の場としての環境を整備します。

○ 多目的な利用により、新たな交流を創造するアリーナ

- ・ 豊橋公園内の他の施設との連携を図り、人と人がつながり新たな交流が生まれる施設環境を整備します。
- ・ 豊橋公園の自然や歴史・文化の環境に調和し、次世代にわたって親しまれる施設整備を図ります。
- ・ 多目的な利用による地域経済の活性化やまちなかの賑わい創出に寄与する施設整備を図ります。

○ まちの防災拠点として機能し、みんなの未来を繋ぐアリーナ

- ・ 災害時には、受援のための活動拠点や支援物資の輸送拠点等として活用できる施設整備を図ります。
- ・ 豊橋公園内の他の施設や周辺地域の行政機関との連携による災害対応力の強化に向けた施設整備を図ります。
- ・ まち全体の防災力向上に向けた、再生可能エネルギー等による防災機能を付与した施設整備を図ります。